

## 第三章 選 挙

我が国の選挙制度は明治維新の五箇条の御誓文にある「広く會議ヲ興シ萬機論ニ決スベシ」という趣旨から、明治十一年七月二十二日太政官布告により府県会規則、郡区町村編成法が公布になった。これによって初めて公選による議員及び総代人が選ばれた。

まず、府県に自治制をしいて府県會議員の選挙が明治十二年に行われ、選挙区は郡区を単位としたので郡区町村の編成をする必要があったわけである。

明治十四年の詔書により「明治二十三年を国会開設の期とする」と定められ、明治二十二年二月帝国憲法が發布、二十三年七月に始めて衆議院議員の選挙が行われた。

しかし北海道は拓殖途上にあるとしてこの選挙は行われず、明治三十五年八月十日の第七回衆議院総選挙で初めて本道から代議士を送ることができるようになった。

道会については明治三十四年三月二十八日、北海道会法が公布され同年八月十日に第一回道會議員選挙が行われた。

町村にあっては大小区画制当時は村民集会を行い町村費、区務費（民費）についての話を持つ程度のことがあったようであるが、区戸長は民費を独断的に支出する傾向があったため、住民の不満が

高まった。そこで開拓使は政府が布告した「各区町村金穀公借共有物取扱土木起功規則」に基づいて、明治十一年六月「総代人選挙法及総代人心得」を布達した。これにより従前の総代、副総代は廃止された。これまでの総代は住民により選ばれ開拓使が申し付けていたが、戸長の事務補助者として官給を受けており、住民の代表的総代ではなかったともいえる。これを改正して住民の関与機関としての総代人を置き、これに法的保護を与えたのである。

### 第一節 総代人の選挙

明治十一年七月二十二日、太政官布告第一七号の郡区町村編成法によって、区には区長、町村には戸長が置かれ、区町村の代議機関として二名の総代人が選出された。総代人の任期は二カ年であるが毎年半数の改選を行っている。

本市においては明治二十五年四月公選された総代人に始まり、三十九年四月二級町村制が施行されるまで続いた。

この総代人というのは村協議費に関与する随一の公的機関として、また、代議制への芽ばえでもあるところから町村會議員の前身といふべき存在である。場合によっては戸長の代理をも行うというもので、その権勢は官尊民卑の時代を反映して、むしろなかなか強いものであったといえる。

選挙資格要件としては、その町村に本籍があること、管内に不動産を所有すること、成年（二〇歳以上）男子であり、被選挙資格要件

はその町村に本籍があること、本支庁管内で一〇〇円以上の地券所有者であること、成年男子となっていた。

滝川村戸長役場時代の総代人で、現在明らかな人々は次のとおりである。

江藤恭太郎(二五年)、上田 文助(二七年〜二八年八月辞任)、高畑 利宜(二九年)、行田 順庵(二九年)、新田 長松(二五年)、今 百太郎(二七年)、長島 栄八(二九年)、坪田 弥市 広部弥三吉 小原清兵衛(三一年)

△以下、高畑利宜記録▽

告示第六号

滝川村総代人江藤恭太郎辞任ニ付来ル三月二日正午十二時当役場ニ於テ補欠総代人選挙会ヲ開ク 選挙権ヲ有スルモノハ 同日午前十一時投票差出スベシ

但選挙票用紙ハ会場ニ備置

明治二十七年二月十四日

滝川外一ヶ村戸長 月居忠清

告示

当村総代人上田文助辞任ニ付補欠選挙会来ル二十七日滝川戸長役場ニ於テ開会候条選挙権ヲ有スル者同日午前十一時限り投票差出ヘシ 但 正午十二時開票ス

選挙被選挙人名簿及投票紙ハ滝川戸長役場ニ備フ

明治二十八年九月十一日

滝川村戸長 月 居 忠 清

総代人当選状

本日滝川村総代人補欠選挙会ニ於テ投票多数ニ依リ総代人当選候条此段及通

達候也

明治二十九年五月九日

高畑 利 宜殿

滝川村戸長 月 居 忠 清

滝川村では村則に基づき総代人のほか下部組織として村を区分

した組合を置き組長(任期一年間)を互選して、組合内の事務をとる

組織があり、また、評議員会があつて住民の投票による議員を選挙し、議長、副議長を置いて村の一切の公共に關する事件を議決して、その結果を総代会に提出されその可否の評決が行われるもので、現在の市議会と同様な組織を持っていた。一部異なるのは最高議決機関ではない点と任期が二年間であることぐらいのもので、民意を反映させる村組織ができていたのである。組長にしても評議員も名誉職で村の有力者が選ばれた。

滝川村評議員決定通知

廻 章(即刻御順ニ送り希フ)

来ル二十七日総代人選挙会ニハ必ず御出席投票相成度將亦評議員ハ別紙人名之通決定候趣ニ付御心得迄 別紙二葉相添及御通知候也

明治二十八年九月二十五日

高畑組長

- |           |           |          |
|-----------|-----------|----------|
| 廿二 伊津伝兵衛殿 | 廿一 辻 小又郎殿 | 九 久住 久松殿 |
| 二十 川越 岩吉殿 | 十九 谷 仁太郎殿 | 三 花摘 丹治殿 |
| 十八 高橋 寿吉殿 | 十七 浅野 ハツ殿 | 一 泉田五郎次殿 |
| 杉本 文吉殿    | 渡辺 豊造殿    | 六 大畑専太郎殿 |
| 西島勇五郎殿    | 十五 近藤 豊殿  | 宮森弥左衛門殿  |
| 米元 祐信殿    | 須藤 弥吉殿    | 五 窪田寅之丞殿 |
| 十二 柏木 信六殿 | 十一 藤原亦三郎殿 | 二 前田 常七殿 |
| 十山田谷亀五郎殿  | 八 佐藤 熊吉殿  | 四 深滝富太郎殿 |
| 七 吉田市太郎殿  | 荒谷助太郎殿    |          |
- 右終尾ヨリ御返送有之度候也  
(別紙)滝川村評議員当選通知
- |             |       |       |       |
|-------------|-------|-------|-------|
| 沖垣綱一郎 小原清兵衛 | 坪田 弥市 | 高橋 豊吉 | 菅波 銀司 |
| 行田 順庵 今 百太郎 | 高田直一郎 | 村上亀五郎 | 星野 駒治 |
| 高田 藤吉       | 十一名   |       |       |

右当村評議員ニ選挙相成候間此段及御通知候也

滝川村組長改選

今般組長改選ニ付 別紙被選挙者人名簿及投票用紙御渡申候条来ル二十二日  
 正午十二時迄ニ各自投票ヲ取纏メ澗川村戸長役場ニ御差出有之度候也  
 明治二十八年十二月二十日 澗川村総代人

高畑利宜殿

|        |       |       |        |
|--------|-------|-------|--------|
| 横山仁平治  | 池田好太郎 | 中田 音吉 | 岡田久次郎  |
| 伴 甚太郎  | 片桐 米雄 | 広瀬 忠  | 横山 武雄  |
| 山形万治郎  | 西本 サキ | 緑屋 幸吉 | 木下 才吉  |
| 高原 与三  | 安達 サワ | 金子 善藏 | 石坂勘五郎  |
| 田村外次郎  | 前田 吉郎 | 山島 源藏 | 小西料理店  |
| 山田忠次郎  | 長利 敬祐 | 花井亀五郎 | 橋本 ナカ  |
| 遠藤勇太郎  | 木造 篤義 | 今中 イン | 柴崎三右エ門 |
| 久保 正幹  | 中村 忠藏 | 佐藤 証屋 | 小川 六郎  |
| 伊藤 長作  | 山本 庵  | 廻 勇助  | 相馬 村吉  |
| 本位田茂一  | 今井幸次郎 | 池田 善六 | 北海道銀行  |
| 川越 岩吉  | 緑谷 幸助 | 井上喜太郎 | 花井安次郎  |
| 山谷 助作  | 浅井 勇作 | 米山 寅吉 | 梅村 三郎  |
| 北条万太郎  | 大竹 吉藏 | 東八郎兵衛 | 佐藤又五郎  |
| 伊藤 久作  | 西田平次郎 | 山崎 トメ | 新川安太郎  |
| 牧 喜一   | 堀 ヤエ  | 鈴木藤太郎 | 松久 房吉  |
| 新庄宇喜楯  | 蜂谷 金吾 | 佐藤 熊藏 | 中井喜平次  |
| 相庭 元吉  | 得永喜平治 | 上野 潔  | 安齐 ツヨ  |
| 小西政之進  | 東海林 寿 | 大村初三郎 | 村山 乙八  |
| 山崎 スイ  | 小倉寅太郎 | 木全 春生 | 小林又五郎  |
| 江藤恭太郎  | 田中 重助 | 原田 幸六 | 石坂仁三郎  |
| 柴田 末治  | 浅井秀次郎 | 田中 栄吉 | 上嶋 要藏  |
| 清水藤太郎  | 島村 勇助 | 清水 良  | 中田弥三次郎 |
| 結掛勇右エ門 | 服部九十郎 | 丸木義之助 | 平野 松治  |
| 忠沢初次郎  | 佐藤熊五郎 | 萩原 先生 | 出村石太郎  |
| 小山 慶吉  | 奥 岩次郎 | 吉田勝太郎 | 奈良山ナツ  |
| 根井仁太郎  | 浅田 タキ | 工藤 エツ | 北上 礼治  |
| 中野久次郎  | 猪股 常藏 | 松田 吉藏 | 松沢次郎吉  |

第三章 選挙

石川 茂松 横山栄太郎 松井 音人 戎谷 徳松  
 竹内 タキ 高見 宗平 大倉喜太郎 田中コサク  
 東海林金藏 高畑 利宜 第二部長  
 高畑 利宜

△高畑利宜記録△

当時の村政に当たって村内に一二の組合組織があつて協議を行ひ  
 総代人の補助機関としてこれを掌握していた。

下水掃除並橋梁架設ニ付急回文

先般御集会上之決議相成候市街両下水掃除並橋梁架設等ノ件ニ付緊急御協議  
 申度候間本日午後七時当戸長役場へ御集会被下度此段通知及候也

追伸 下水掃除等ノ義ニ付其筋ヨリ御督促モアリ且来ル十九日ニハ当警察署  
 ニ於テ実地御検分ニ相成趣將亦先会御約束申候通橋梁架設ヶ所等各自御取調ノ  
 上御申出相成度此段副而申上候也

明治二十九年五月十五日

高畑 総代人

- 第一部組合頭 村上亀五郎殿 第二部組合頭 小原 権吉殿
- 第三部 " 古川 佐吉殿 第四部 " 中谷 駒市殿
- 第五部 " 犬飼 信量殿 第六部 " 小野与太郎殿
- 第七部 " 廻 宗一郎殿 第八部 " 上田 文助殿
- 第九部 " 辻 小又郎殿 第十部 " 欠員中
- 第十一部 " 今(五月九日辭職) 百太郎殿 第十二部 " 高橋 藤吉殿

組長の職務はおよそ次のようなものである。

- 1 組長ハ村内公共事業上ニ付総代人ノ諮問ニ答ヘ及意見ヲ述ブルコト
- 2 組長ハ常ニ組合ノ共和親睦ヲ計リ勉メテ公益ノ増進ニ尽力スルコト
- 3 村費収支予算ニ関スル意見ヲ陳述スルコト
- 4 其他村内ニ係ル必要ナル事項

総代人選挙法(明治十一年六月開拓使布達)

△旭川市史△

第一条 一町村毎に(一町中にして数町あるものは合せて一町となし支村は本  
 村に合せて一村とす若し戸口寡少なる地は数町村を合併して便宜に任すも妨  
 げなし)年齢二十年以上の男子にして管内に(本支庁ノ管内ヲ指称ス以下  
 同)百円以上の地券を有する該町村本籍の者二名を選挙して之を町村総代人  
 とす但百円以上の地券を有するものなき町村は中等以上の身代にして管内  
 に不動産を有するものを選び得べし

## 第五編 行 政

第二条 左の項に触るるものは総代人たるを得ず

一 風癩白痴の者

一 懲戒令に依り免職二年以内の者及除族若くは懲役一年以上実決の刑に処せられたるもの

一 身代限の処分を受け負債の弁償を終へざる者

一 官吏・教導職・区吏

一 被雇人にして其雇主の承諾を得ざるもの

第三条 町村総代人を選ぶは該町村内本籍にして管内に不動産を有する二十年以上の男子一同をして投票せしめ其多数により定むるものとす

但第二条第一項第二項第三項に触るるものは選挙人たる事を得ず

第四条 一小区毎に四人より多からず二人より少からざるを以て定員とし該区内町村総代人中に就て其望を属するものを交互投票せしめ其多数により之を小区総代人となす

第五条 総代人を選挙せんとするの場合に於ては該区戸長用係にて兼て時日と場所とを定め少くとも十五日前に之を報告し当日一同参集の上小区なれば区戸長町村なれば戸長用係立会左の書式に準じ選挙書を作り投票箱に入るものとす(書式略す)

但疾病事故ありて当日参集する能はざる者は定めたる時限迄に投票縮封の上差出すも妨げなしと雖も投票の事に付他日異議を述るを得ず

第六条 投票終るの後区戸長用係は選挙人の面前にて開封し選挙人名簿に就て投票の当否を査し若し其当選人法に於て総代人たるを得ざるものあるときは順次投票の多数なるものを取り其投票回数なるものは年長を取て該人名を管庁に届け告知すべし

第七条 総代人は満二カ年を以て期限とし毎年其半を改選交換す然して前任の者を以て再選するも妨なきものとす

但明治十二年八月を改選の初期とし半数を存置するは投票の多数に依るものとす

第八条 総代人は其他の義務なるを以て選に当りたるもの期限内私に辞するを得ず

第九条 総代人を選挙すべき権を有するもの六分以上の見込を以て改選を申立る時は許可すべし

第十条 期限内第一条第二条に抵触するものある時は臨時之を改選するものとす

第十一条 定期臨時共改選は都て前条の手續に依るものとす

十三年七月乙七号ヲ以テ管内郡区町村編制ニ付テハ総代人選挙法及総代人心得書中小区総代人ノ義ハ自然消滅候ニ付更ニ郡区総代人設置候条選定方法等ノ義ハ総テ十一年六月乙第十九号布達ノ通可相心得尤総代人ハ每郡区八人ヨリ多カラス四人ヨリ少カラス定員トスヘシ

### 総代人心得

第一条 総代人は明治九年十月第三百三十号布告に依り金穀公借共有物取扱土木起工等の事に預るを以て本法となすと雖も時宜に依り人民の利害得失に關する事は区務所より協議することあるべし

但し有志釀金に出て一区一町村の課出にあらざる土木起工の如きは本文の限りにあらずと雖も一区一町村の利害得失に係れば之を干与することを得

第二条 前条の場合に於ては實際民情を酌量し宜しく公利公益を目的とし必ずしも輕挙あるへからず

第三条 明治九年第三百三十号布告第二条の場合に於ては該条但書に依り其代理となるを得べし

第四条 小区総代人町村総代人管掌の区分は只事の大小等に寄るものと雖も第三百三十号布告第一条の場合に於ては其別なきものとす

第五条 総代人の集會は小区なれば区戸長町村なれば戸長用係出席するものとす

第六条 総代人は給料之なきものとす然れとも公用にて旅行するときは用係と同しく旅費を給す

## 第二節 滝川村・町・市議會議員

二級町村制を施行した明治三十九年に初めて村會議員の選挙が行われた。二級村の村會議員選挙資格は公権を有する独立した男子で、一年以上その村に居住し、村内で地租年額一〇錢以上を納め、

又は直接国税、北海道水産税及びその両税の合計で年額五〇錢以上を納め、又は耕地一町歩若しくは宅地一〇〇坪以上を所有し、又は総納税人の村税平均額以上の村税を納める者に制限され、その他身分上に関することは他の制限と同様であった。

### 第一回選出村會議員選挙

選挙に当たって無用な競争や運動をしないで話合を行い、議員定数一二名を折半する方法をとることにして滝川地区から六名、江部乙地区から六名を選出した。

同年五月三十一日滝川村第一回当選の村會議員は次のとおり。

#### 滝川地区

| 氏名    | 住所             | 職業  | 氏名    | 住所              | 職業  |
|-------|----------------|-----|-------|-----------------|-----|
| 渡辺 重作 | 本町             | 旅館業 | 野田丈一郎 | 西七丁目            | 農業  |
| 三浦 庄作 | 広小路            | 金融業 | 広部弥三吉 | 広小路             | 酒造業 |
| 徳光鶴之進 | 東三丁目           | 農業  | 小華和貞男 | 東一丁目            | 牧畜業 |
| 江部乙地区 |                |     |       |                 |     |
| 三沢貫之助 | 南江部乙<br>西裏通九丁目 | 農業  | 岡本 岩蔵 | 北江部乙<br>西裏通十四丁目 | 農業  |
| 武田 信孝 | 東裏通十一丁目        | 農業  | 田中 波一 | 通十二丁目           | 農業  |
| 小杉善之助 | 西十一丁目          | 商業  | 岩佐 駒蔵 | 西十五丁目           | 農業  |

### 第二回選出村會議員選挙

第二回村會議員選挙は明治四十一年五月三十一日に執行されたが、二年ごとに半数改選の制度であったため、滝川・江部乙両地区ともに三名ずつの村會議員の改選となった。

#### 滝川地区

| 氏名    | 住所   | 職業  | 氏名    | 住所   | 職業   |
|-------|------|-----|-------|------|------|
| 小華和貞男 | 東一丁目 | 牧畜業 | 徳光鶴之進 | 東三丁目 | 農業   |
| 渡辺 重作 | 本町   | 旅館業 | 江藤恭太郎 | 楓通り  | 郵便局長 |
| 大竹 康造 | 広小路  | 医師  | 西川 喜市 | 西七丁目 | 農業   |

### 第三章 選挙

| 江部乙地区 | 西裏通九丁目 <th>農業 <th>岩橋 浅次 <th>東十丁目 <th>農業 </th></th></th></th> | 農業 <th>岩橋 浅次 <th>東十丁目 <th>農業 </th></th></th> | 岩橋 浅次 <th>東十丁目 <th>農業 </th></th> | 東十丁目 <th>農業 </th> | 農業 |
|-------|--------------------------------------------------------------|----------------------------------------------|----------------------------------|-------------------|----|
| 三沢貫之助 | 西十五丁目                                                        | 農業                                           | 高井忠太郎                            | 東裏通十五丁目           | 農業 |
| 岩佐 駒蔵 | 西十一丁目                                                        | 商業                                           | 佐々木保昭                            | 北江部乙              |    |
| 小杉善之助 |                                                              |                                              |                                  |                   |    |

注 江部乙町史では佐々木保昭が岡本岩蔵となつてゐる。佐々木保昭は北海タイムスの記録によるもので、半数改選を行うための選挙で岡本岩蔵が再度村議になるとは考えられない。

### 第三回選出村會議員選挙

明治四十二年四月一日をもって江部乙地区が分村独立、一級町村制を施行したので、村會議員の改選が行われ五月三十一日左の一人名が当選した。

| 氏名     | 住所    | 職業  | 氏名     | 住所    | 職業  |
|--------|-------|-----|--------|-------|-----|
| 河内菊之丞  | 一の坂   | 農業  | 久保 正宣  | 停車場通  | 金融業 |
| 坪田 弥市  | 一の坂   | 貸家業 | 細越政右衛門 | 本通四丁目 | 金融業 |
| 徳光鶴之進  | 東三丁目  | 農業  | 小華和貞男  | 東一丁目  | 農業  |
| 野田丈一郎  | 通七丁目  | 農業  | 原 喜三   | 通三丁目  | 荒物商 |
| 五十嵐太郎吉 | 本通三丁目 | 雑貨商 | 榊田喜次郎  | 通六丁目  | 農業  |
| 大竹 康造  | 広小路   | 医師  | 三浦 庄作  | 広小路   | 金融業 |

注 大竹康造は四十二年七月一日村長に就任した。

一級町村の村會議員選挙資格は、二級町村制と多少異なつてゐる。二五歳以上の独立男子である点と同じであるが、三年以上その町村に居住し、その町村で地租年額四〇錢以上を納め、又は直接国税、北海道水産税、若しくは直接国税と北海道水産税とを合わせて年額二円以上を納め、耕宅地三町歩以上を所有する者に制限されていたのである。

### 第四回選出町會議員選挙

明治四十五年六月一日、町制施行後最初の町會議員選挙が行われ

た。有権者数二六三人、議員定数一六名である。

このころは納税資格により議員も有権者も一級と二級に区分され、議員任期は六年で三年ごとに半数の改選が行われた。

選挙権の一級と二級の分け方は選挙資格者全員の納める村民税額の合計を二分し、最高額から二分の一に達するまでの者を一級選挙人とし、それ以下の者は二級選挙人としたのである。

| 級別 | 氏名    | 住所  | 職業  | 年齢   |      |
|----|-------|-----|-----|------|------|
| 一級 | 村上吉太郎 | 本通  | 荒物商 | 二級   |      |
| 同  | 久保正宣  | 楓通  | 金貸業 | 三級   |      |
| 同  | 細越政右  | エ門通 | 金物商 | 四級   |      |
| 同  | 河内菊之丞 | 通   | 三丁目 | 雑穀商  |      |
| 同  | 小華和貞  | 貞男東 | 一丁目 | 牧畜業  |      |
| 同  | 喜三    | 通   | 三丁目 | 川雑穀商 |      |
| 同  | 原     | 喜三  | 通   | 三丁目  | 川雑穀商 |



第3回村会議員



第6回町会議員

一級 江藤恭太郎 楓通 郵便局長 三級 野田丈一郎 西七丁目農 業 三  
 同 神部 為蔵 楓通 土木請負業 四級 樋口 覚治 東五丁目農 業 四  
 同 渡辺 作治 本通 質 業 五級 同 西川民之助 通二丁目農 業 四  
 同 河内平次郎 東 裡農 業 五級 同 補欠 増田 政吉 通三丁目農 業 四  
 同 補欠 杉本 文吉 空知 太具 服 商 五級 同 補欠 山田 藤次郎 通四丁目 郵便局長 四  
 この選挙には一級が市街地、二級が兵村からとなった。なお一級の当選年月日は明治四十五年六月一日、二級は同五月三十一日、補欠は大正二年三月二十七日と二十八日と一日のずれがある。年齢は大正二年の数え年である。

第五回選出町会議員選挙

大正四年五月三十一日、町会議員選挙があり、半数の改選で市街

側と兵村側との競争が激しく、開票の結果一級は全部市街側、二級は全部兵村側が当選した。

| 級別 | 氏名    | 住所      | 職業  | 級別 | 氏名    | 住所     | 職業  |
|----|-------|---------|-----|----|-------|--------|-----|
| 一級 | 大野長太郎 | 本通五丁目   | 雑穀商 | 二級 | 染谷喜久吉 | 東四丁目   | 農 業 |
| 同  | 杉本 文吉 | 空知 太具   | 服商  | 同  | 西川民之助 | 西一丁目   | 農 業 |
| 同  | 細越政右  | 衛門本通四丁目 | 金物商 | 同  | 小華和貞  | 貞男東一丁目 | 牧畜業 |
| 同  | 粟井 新作 | 本通四丁目   | 醸造業 | 同  | 榎田喜次郎 | 通六丁目   | 農 業 |

第六回選出町会議員選挙

大正七年五月三十一日町会議員の半数改選選挙が行われ、次のとおり当選した。

| 級別 | 氏名      | 住所    | 職業  | 級別 | 氏名       | 住所   | 職業   |
|----|---------|-------|-----|----|----------|------|------|
| 一級 | 神部 為蔵   | 楓通    | 請負業 | 二級 | 樋口 覚治    | 一の坂  | 農 業  |
| 同  | 塚本 只平   | 広小路   | 古着商 | 同  | 原 喜三     | 通三丁目 | 雜貨商  |
| 同  | 河内平次郎   | 東 裡農  | 業 同 | 同  | 山田藤次郎    | 通四丁目 | 郵便局長 |
| 同  | 藤田 才市   | 本通三料  | 理業  | 同  | 沖 松助     | 東四丁目 | 農 業  |
| 同  | 補欠 原 亥久 | 馬東一丁目 | 農 業 | 同  | 補欠 小坂 庄治 | 東七丁目 | 農 業  |

大正十三年六月一日、執行の町会議員半数改選の選挙により次の

第八回選出町会議員選挙

|     |       |     |     |    |       |      |     |
|-----|-------|-----|-----|----|-------|------|-----|
| 一級  | 三浦 庄作 | 空知通 | 金融業 | 二級 | 河内菊之丞 | 一の坂  | 請負業 |
| 同   | 細川 寅平 | 空知太 | 農業  | 同  | 徳光鶴之進 | 東三丁目 | 牧畜業 |
| 同   | 内田三之助 | 広小路 | 時計商 | 同  | 後藤 徳治 | 西五丁目 | 農業  |
| 同   | 柿島 軍治 | 本通四 | 呉服商 | 同  | 佐藤休次郎 | 幌 倉  | 農業  |
| 同   | 郷 作太郎 | 広小路 | 雑貨商 | 同  | 赤川安太郎 | 西七丁目 | 農業  |
| 同   | 小野与太郎 | 空知通 | 貸家業 | 同  | 谷口 猪一 | 西二丁目 | 農業  |
| 同補欠 |       |     |     | 同  | 酒井利太郎 | 東 裡  | 農業  |

四名と二級が兵村側の山田藤次郎、原喜三、樋口覚治の三名で市街・兵村ともに一〇名づつの同数になった。



第7回町会議員

第七回選出町会議員選挙

大正十年五月三十一日町会議員の半数改選が行われた。この改選に当たって一級・二級ともに二名ずつの増員となり、定員二〇名となった。

この選挙も市街側と兵村側との激しい争いとなり、一級は全部が市街側となり二級は全部兵村側が占めた。この時の残留議員は一級が第六回選出



第8回町会議員

昭和二年五月三十一日執行の半数改選の町会議員選挙に次のとおり当選が決まった。この選挙で五十嵐太郎吉が候補郷作太郎のために、応援演説を展開して堂々当選の栄を得たといわれるが、これは滝川での最初のことといわれる。

|    |   |   |   |   |   |   |   |
|----|---|---|---|---|---|---|---|
| 回数 | 七 | 五 | 六 | 二 | 五 | 六 | 四 |
| 議件 | 七 | 五 | 六 | 二 | 五 | 六 | 四 |
| 報告 | 七 | 五 | 六 | 二 | 五 | 六 | 四 |
| 選挙 | 七 | 五 | 六 | 二 | 五 | 六 | 四 |
| 諮問 | 七 | 五 | 六 | 二 | 五 | 六 | 四 |
| 計  | 七 | 五 | 六 | 二 | 五 | 六 | 四 |

第九回選出町会議員選挙

昭和十五年(昭和元年)の町会開会度数は次のとおりである。

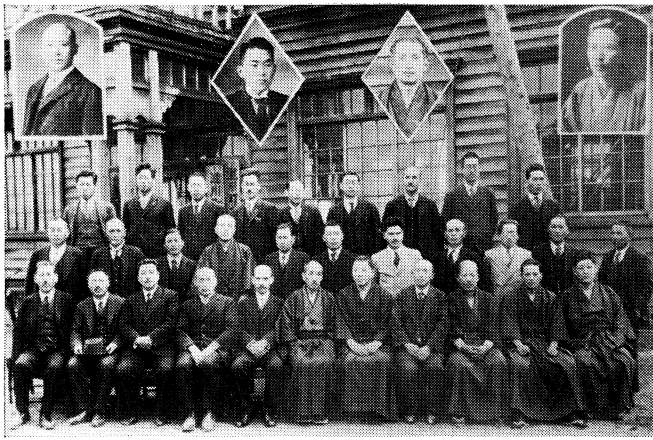
|     |       |      |     |     |       |      |     |
|-----|-------|------|-----|-----|-------|------|-----|
| 一級  | 鷺沢 半治 | 停車場通 | 菓子商 | 二級  | 梶田喜次郎 | 通六丁目 | 農業  |
| 同   | 広部 弥助 | 蔵前通  | 商業  | 同   | 太田 実  | 一の坂  | 獣医  |
| 同   | 五十嵐太一 | 蔵前通  | 運送業 | 同   | 酒井利太郎 | 東 裡  | 農業  |
| 同   | 河内 重吉 | 一の坂  | 農業  | 同   | 小林儀三郎 | 幌 倉  | 農業  |
| 同   | 古館梅太郎 | 空知通  | 請負業 | 同   | 角 五衛  | 広小路  | 呉服商 |
| 同補欠 | 栗井 新作 | 本通四  | 醸造業 | 同補欠 | 原 喜三  | 通三丁目 | 雑貨商 |

|    |          |      |     |    |     |      |     |
|----|----------|------|-----|----|-----|------|-----|
| 一級 | 昭和二年有権者調 | 一級   | 六〇  | 二級 | 三四三 | 計    | 四〇三 |
| 同  | 加賀井弥市    | 駅 前  | 運送業 | 谷口 | 猪一  | 西一丁目 | 農 業 |
| 同  | 小野与太郎    | 空 知通 | 貸家業 | 前田 | 久吉  | 広小路  | 醸造業 |
| 同  | 河内平次郎    | 楓 通  | 醸造業 | 塚本 | 只平  | 広小路  | 貸家業 |
| 同  | 坪田 政七    | 一の坂  | 貸地業 | 小坂 | 庄治  | 東六丁目 | 農 業 |
| 同  | 河内菊之丞    | 一の坂  | 請負業 | 奥山 | 与作  | 本 通  | 製麵業 |
| 同  | 郷 作太郎    | 広小路  | 雜貨商 | 細川 | 寅平  | 空知太  | 農 業 |

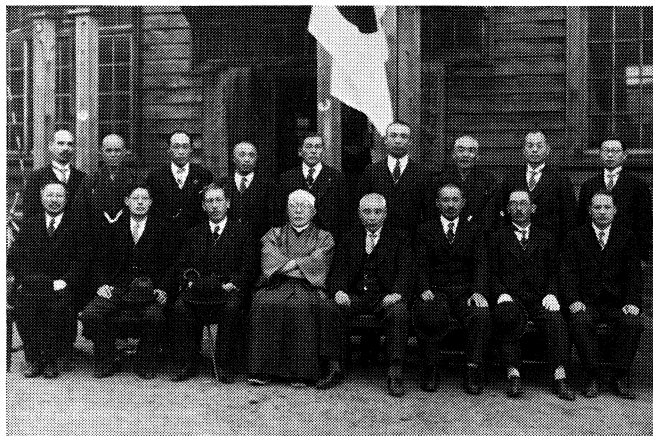
昭和元年の有権者調では一級六〇人、二級三四三人である。

第十回選出町會議員選挙

大正十四年五月、衆議院議員選挙に普通選挙制が実施されたのに  
 応じて、大正十五年六月町村制の大改正が行われ、したがって選挙



第10回町會議員



第11回町會議員

法も改正され、いわゆる普通選挙法が実施されたのである。従来の  
 議員任期は六カ年で最初の半数が三カ年で半数を改選してきたので  
 あるが、普通選挙法が実施されるようになって、議員の任期は四カ  
 年となった。

選挙人の資格も①独立の生計を営み、②年齢二五歳以上の男子、  
 ③二年以上上市町村の住民、④二年以上上市町村税を負担しているこ  
 と、⑤納税額の要件は撤廃 ということになり一級・二級の区別も  
 なくなったのである。このため有権者の数は数倍に増加した。

この改正は我が国憲政史上、画期的なものであるが、滝川町の町  
 會議員の定数は二四名となり、昭和五年五月三十一  
 日、普通選挙の第一回の執行となった。この当選者は  
 次のとおりである。

|        |       |       |       |      |       |
|--------|-------|-------|-------|------|-------|
| 古館 梅太郎 | 荷 揚   | 通 請負業 | 溝口 要三 | 東五丁目 | 農 業   |
| 塚本 信一  | 楓     | 通 古着商 | 三野 春吉 | 広 小路 | 魚 商   |
| 赤坂 利作  | 幌     | 倉 荒物商 | 荒島 柳市 | 一の坂  | 桶屋業   |
| 郷 作太郎  | 広 小   | 路 荒物商 | 小林儀三郎 | 幌    | 倉 農 業 |
| 榊田喜次郎  | 六 丁   | 目 農 業 | 三谷嘉代次 | 幌    | 倉 運送業 |
| 寒河江 巧広 | 小 路   | 医 業   | 照本 市蔵 | 停車場  | 通 菜種業 |
| 奥山 与作  | 本     | 通 製麵業 | 樋口 栄治 | 東五丁目 | 農 業   |
| 太田 実一  | の 坂   | 獸 医   | 中川五三郎 | 広 小路 | 古物商   |
| 居林与次郎  | 空 知   | 太 請負業 | 島沢 庄蔵 | 東 路  | 古物商   |
| 二葉惣太郎  | 一 の 坂 | 醸造業   | 太田 信吉 | 西 路  | 裡 農 業 |
| 龜谷 虎蔵  | 菜の花   | 通 旅館業 | 角 五衛  | 広 小路 | 古着商   |
| 細川 寅平  | 空 知 太 | 農 業   | 谷口 猪一 | 西一丁目 | 農 業   |

榊田喜次郎が死亡したので補欠神部五郎(請負業)が  
 繰上った。

第十一回選出町會議員選挙

昭和九年五月三十一日の選挙には次のとおり当選が決まった。有権者数二、三三六

|       |       |     |       |      |     |
|-------|-------|-----|-------|------|-----|
| 石渡 寛  | 空知通   | 請負業 | 阪本 茂  | 西 裡  | 農 業 |
| 亀谷 虎藏 | 菜の花通  | 旅館業 | 山本 庵  | 空知通  | 鐵道員 |
| 大西 勇  | 空知太   | 農業  | 大江 芳雄 | 菜の花通 | 印刷業 |
| 忠沢兵太郎 | 楓 通   | 荒物商 | 五十嵐太一 | 菜の花通 | 木炭商 |
| 坂井 太平 | 西二丁目  | 農 業 | 中川五三郎 | 広小路  | 古物商 |
| 浦部 金藏 | 本通三丁目 | 陶器商 | 樋口 隆治 | 一の坂  | 農 業 |
| 荒島 柳市 | 一の坂   | 桶製器 | 塚本 信一 | 楓 裡  | 獸 医 |
| 石垣 喜作 | 菜の花通  | 鐵道員 | 堀井清太郎 | 通五丁目 | 呉服商 |
| 寒河江 巧 | 広小路   | 医 業 | 小川 政男 | 通一丁目 | 農 業 |
| 堀田 平二 | 西六丁目  | 農 業 | 次田 秀彦 | 蔵前通  | 肥 料 |
| 小林儀三郎 | 幌 倉   | 農 業 | 西尾英太郎 | 蔵前通  | 飲 料 |
| 河内平次郎 | 楓 通   | 醸造業 |       | 食飲業  |     |

第十二回選出町会議員選挙

昭和十三年五月三十一日町会議員選挙が執行され、当選された方々は次のとおりである。

|       |      |      |                      |
|-------|------|------|----------------------|
| 塚本 信一 | 楓 通  | 呉服商  | 補欠線上選挙               |
| 赤坂 利作 | 幌 倉  | 雜貨商  | 昭和十四年三月一日(赤坂利作死亡による) |
| 染谷 幸吉 | 新 通  | 無 職  | 堀田 平二 西六丁目 農業        |
| 亀谷 虎藏 | 菜の花通 | 旅館業  | 昭和十三年十月七日            |
| 荒島 柳市 | 一の坂  | 桶製業  | 大江 芳雄 菜の花通 印刷業       |
| 高橋与四藏 | 東 裡  | 鐵道員  |                      |
| 小川 政男 | 通一丁目 | 無 職  |                      |
| 棚井清太郎 | 通五丁目 | 農 業  |                      |
| 吉田 儀作 | 広小路  | 印刷業  |                      |
| 齊藤 欣峯 | 空知通  | 新聞社  |                      |
| 笹川 繁志 | 菜の花通 | 新聞販売 |                      |
| 次田 秀彦 | 蔵前通  | 肥料雜穀 |                      |

第三章 選挙

|       |       |      |
|-------|-------|------|
| 樋口 隆治 | 一の坂   | 農 業  |
| 小林儀三郎 | 幌 倉   | 農 業  |
| 山本 庵  | 空知通   | 鐵道員  |
| 奥山 与作 | 菜の花通  | 製菓業  |
| 石渡 寛  | 空知通   | 請負業  |
| 阪本 茂  | 西 裡   | 農 業  |
| 浦部 金藏 | 本通三丁目 | 陶器商  |
| 郷 作太郎 | 広小路   | 荒物雜貨 |
| 吉倉 常造 | 新 通   | 請負業  |
| 前田 吉藏 | 東 裡   | 農 業  |
| 細川 寅平 | 空知太   | 農 業  |
| 寒河江 巧 | 広小路   | 医 業  |



第12回町会議員

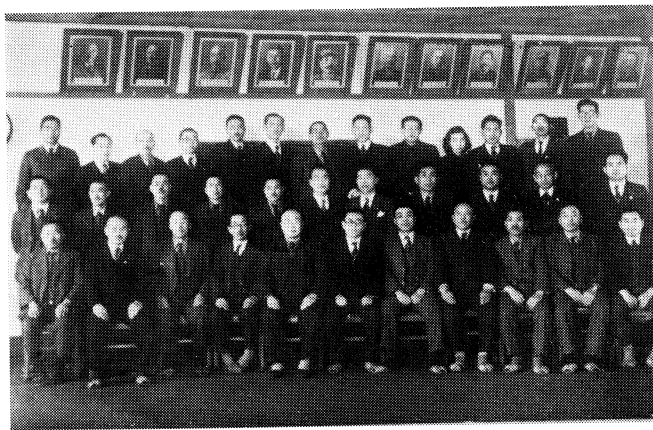
第十三回選出町会議員選挙

昭和十七年五月三十一日、町会議員の改選が行われたが、議員の選出に当たって推薦制による翼賛選挙を望む議論が起こった。太平洋戦争が激烈化してきたころの選挙であったため、昭和十五年十月十四日結成の大政翼賛会滝川支所による翼賛運動が活発になり、町常会で推薦制を決め、準備委員によって選考委員をあげ数回にわたって選考の結果推せん者を決定した。

しかし、これに非推せん者も加えた選挙が行われ、次のとおり当選者が決まった。世にこれを翼賛議員とよばれた。



第13回町会議員



第14回町議会議員

以上、二四名の議員の任期は昭和二十一年五月に四カ年間の任期

|       |      |      |       |          |     |
|-------|------|------|-------|----------|-----|
| 齊藤 数夫 | 片 通請 | 業一六四 | 白水    | 務 東二丁目農  | 業七二 |
| 中山 吉次 | 空 通請 | 業一二三 | 中川捨三郎 | 東 通保險代理店 | 業六九 |
| 塚本 信一 | 楓 通呉 | 業一一七 | 吉川安太郎 | 鉄道官舎     | 業六七 |
| 阪本 茂西 | 倉 運農 | 業一一七 | 中島 善治 | 本 通三精肉販  | 業六七 |
| 三谷 登美 | 幌 倉運 | 業一〇四 | 相馬 吉郎 | 材 通印     | 業六六 |
| 佐藤 勇次 | 幌 倉農 | 業九〇  | 山本 庵空 | 知 通鉄     | 業六六 |
| 次田 秀彦 | 駅 前  | 業八二  | 染谷 幸吉 | 新 通無     | 職六三 |
| 小川 政男 | 通一丁目 | 業七九  | 西村 範  | 東五丁目農    | 業六一 |
| 福永 清一 | 鉄橋通  | 業七八  | 高橋 幸一 | 西五丁目農    | 業六一 |
| 田中 嶺雄 | 楓 通僧 | 業七七  | 尾上金治郎 | 材 通苗     | 業五八 |
| 奥山 与作 | 菜花通製 | 業七三  | 野口藤四郎 | 本通一丁目下駄販 | 業四九 |
| 寒河江 巧 | 広小路  | 業七三  | 吉田 儀作 | 広小路印刷    | 業   |

満了となるのであるが、ちょうど終戦直後の世相混乱の状況下にあつたので、そのまま一カ年間延長されることになった。

第十四回選出町議会議員選挙

終戦後の昭和二十一年に衆議院議員選挙法が改正され、婦人に参政権が与えられることになり、第一回の選挙が行われたが、有権者は倍増した。

すなわち選挙権は男女とも満二〇歳以上（従来は三五歳以上）となり、被選挙権者は男女とも満二五歳以上（従来は三〇歳以上）となったのである。昭和二十二年四月十七日の地方自治法に基づき、また公

職選挙法が同年四月十五日法律第百号公布により地方選挙が全国一せいに執行された。

滝川町においても同年四月三十日第十四回町議会議員選挙が執行され、定員三〇名で次のとおり当選が決まった。

| 氏名     | 住所    | 職業    | 党派 | 氏名    | 住所   | 職業  | 党派 |
|--------|-------|-------|----|-------|------|-----|----|
| 村田 義一  | 滝川化学会 | 社員    | 社会 | 西川 良男 | 東滝川  | 飲食業 | 三三 |
| 根井 清   | 楓通会   | 社員    | 無  | 寺口 四郎 | 東五丁目 | 農業  | 三〇 |
| 吉田 秀治  | 滝泉台会  | 社員    | 共産 | 阪本 茂  | 西里   | 農業  | 二九 |
| 白山 隆起  | 東雲町会  | 社員    | 無  | 大橋長太郎 | 東里   | 農業  | 二五 |
| 中山 吉次  | 空知通請負 | 業     | 無  | 高島 教仁 | 通二丁目 | 僧侶  | 二六 |
| 阪本 茂   | 西里    | 業     | 無  | 入沢弥之助 | 明神通  | 料理業 | 二五 |
| 堀 実    | 西八丁目  | 業     | 無  | 中富 由光 | 旭丘   | 会社員 | 二五 |
| 林 与市   | 幌倉農   | 業     | 無  | 田村 万七 | 東滝川  | 農業  | 二七 |
| 大橋長太郎  | 東里農   | 業     | 無  | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |
| 荒川 吉満  | 西里    | 業     | 社会 | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |
| 次田 秀彦  | 蔵前通   | 肥料雜貨商 | 無  | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |
| 森次 武良  | 菜の花通  | 社員    | 無  | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |
| 高島 教仁  | 通二丁目  | 僧侶    | 無  | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |
| 五十嵐 一郎 | 菜の花通  | 社員    | 無  | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |
| 飯尾 賢二  | 旭丘    | 会社員   | 無  | 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |

選挙当日の有権者数は一万一、九〇二人で投票人員九、八四四人、投票率八二・七一パーセントであった。

第十五回選出町議会議員選挙

昭和二十六年四月二十三日、終戦後二回目の町議会議員選挙が執行され、定員三〇名に対し立候補者三三名の比較的競争率の低い選挙となった。しかし内実は飾に懸けられたもので次点が同点で三名も出るといふ厳しい選挙であった。

| 氏名     | 住所   | 職業  | 得票 | 氏名    | 住所   | 職業  | 得票 |
|--------|------|-----|----|-------|------|-----|----|
| 坂田 弘治  | 広小路  | 畳製造 | 五〇 | 柴田 棟造 | 停車場通 | 陶器商 | 四三 |
| 中野 一郎  | 本通四  | 家具商 | 五五 | 吉倉 常蔵 | 明神通  | 請負業 | 四五 |
| 中川 正   | 本通五  | 金物商 | 五六 | 樋口 隆治 | 一の坂  | 農業  | 四五 |
| 中島 正雄  | 空知太  | 会社員 | 五〇 | 社内 与造 | 東滝川  | 農業  | 四〇 |
| 籾内 詰夫  | 西里   | 衾業  | 四〇 | 吉田 儀作 | 広小路  | 印刷業 | 三九 |
| 岩村 吉太郎 | 通七丁目 | 農業  | 四七 | 米倉定次郎 | 広小路  | 肥料商 | 三五 |
| 長野大三郎  | 広小路  | 古物商 | 四七 | 神崎 毅  | 東雲町  | 会社員 | 三七 |



第15回町議会議員

|       |      |     |    |
|-------|------|-----|----|
| 堀田 武司 | 西六丁目 | 農業  | 二六 |
| 末広町   | 会社員  | 二五  |    |
| 義之    | 東三丁目 | 農業  | 二五 |
| 佐藤 伸昭 | 池の前  | 農業  | 二五 |
| 鎌塚 清次 | 池の前  | 農業  | 二五 |
| 保男    | 池の前  | 農業  | 二五 |
| 国兼 保男 | 池の前  | 農業  | 二五 |
| 片山 佐八 | 蔵前通  | 会社員 | 二〇 |
| 合田 正勝 | 東三丁目 | 会社員 | 二〇 |
| 阿部 政次 | 東小   | 旅館業 | 一九 |

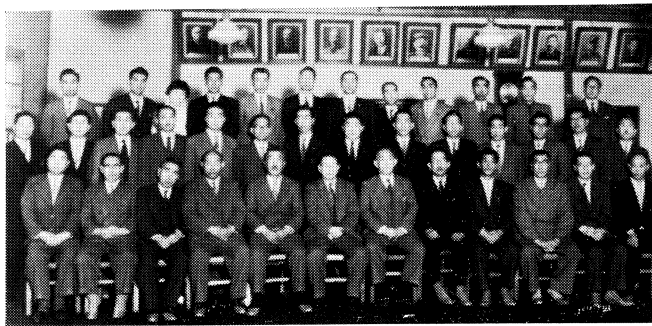
選挙当日の有権者数一万三、五一九人、投票者数一万二、一九九票、投票率九〇・二パーセントに達した。

第十六回選出町議会議員選挙

昭和三十年四月三十日町議会議員選挙が執行され、立候補者四十名で競い、次のとおり当選決定した。



第16回町議會議員（第1回市議會議員）



第17回市議會議員

| 氏名     | 住所   | 職業    | 年齢 | 党派 | 得票  |
|--------|------|-------|----|----|-----|
| 犬飼 克己  | 朝日町  | 会社員   | 三〇 | 無  | 八一五 |
| 石黒 貞一  | 大月町  | 社長    | 五〇 | 自民 | 七二一 |
| 中島 正雄  | 花月町  | 校長    | 四五 | 自民 | 六九四 |
| 田中 君太郎 | 明神町  | 学務員   | 五三 | 自民 | 五九六 |
| 中村 武男  | 朝日町  | 団体役員  | 五七 | 無  | 五六一 |
| 鷲尾 外吉  | 一の坂町 | 新聞販売員 | 五二 | 自民 | 五四二 |
| 大沢 辰次  | 栄町   | 会社員   | 四八 | 無  | 五三八 |
| 米倉 定次郎 | 本町   | 社長    | 五三 | 自民 | 五三五 |
| 大和田 実  | 朝日町  | 電々公社員 | 三三 | 社会 | 五一七 |
| 坂田 弘治  | 本町   | 商     | 四七 | 社会 | 五一四 |
| 草浦 正己  | 大町   | 商     | 四二 | 無  | 四九九 |
| 米山 三郎  | 栄町   | 国鉄職員  | 四五 | 無  | 四八四 |
| 合田 正勝  | 黄町   | 国鉄職員  | 四六 | 無  | 四七六 |
| 山口 貞明  | 朝日町  | 国鉄職員  | 三九 | 無  | 四六八 |
| 東村 金次郎 | 本町   | 商     | 四四 | 自民 | 四六八 |
| 川村 捨五郎 | 栄町   | 商     | 五八 | 無  | 四六六 |
| 阪本 捨五郎 | 泉町   | 商     | 六〇 | 自民 | 四五四 |
| 阪内 詰夫  | 西町   | 農     | 四六 | 自民 | 四三七 |
| 中村 正直  | 北滝の川 | 農     | 四五 | 無  | 四二二 |

| 氏名     | 住所    | 職業  | 党派 | 得票 | 氏名            | 住所           | 職業    | 党派         | 得票          |
|--------|-------|-----|----|----|---------------|--------------|-------|------------|-------------|
| 石黒 貞一  | 大町    | 皮革業 | 無  | 五五 | 阪本 茂西         | 町農           | 業     | 無          | 三六          |
| 古館 健一  | 栄町    | 請負業 | 無  | 五七 | 芥川 朝吉東        | 町農           | 業     | 無          | 三三          |
| 中島 正雄  | 花月町   | 会社員 | 無  | 五〇 | 鎌塚 清次池の前      | 農            | 業     | 無          | 三九          |
| 山口 貞明  | 町農    | 会社員 | 無  | 四七 | 次点は、角田要       | 二四三票         | であった。 | な          | お選挙当日の有権者数は |
| 社内 与造  | 東滝川   | 農   | 無  | 四四 | 一万三、九六三人、投票者数 | 一万二、六五八人、投票率 | 九〇・六五 | パーセントであった。 |             |
| 村島 正乘  | 町無    | 職   | 無  | 四二 |               |              |       |            |             |
| 中川 正本  | 町金物商  | 無   | 無  | 四〇 |               |              |       |            |             |
| 米山 三郎  | 町鉄道員  | 社会  | 無  | 三六 |               |              |       |            |             |
| 南 義夫   | 町鉄道員  | 無   | 無  | 三三 |               |              |       |            |             |
| 東 信吉   | 町農    | 無   | 無  | 三〇 |               |              |       |            |             |
| 川村 捨五郎 | 町化粧品店 | 無   | 無  | 二七 |               |              |       |            |             |
| 大和田 実  | 町電々公社 | 無   | 無  | 二五 |               |              |       |            |             |

当選者は次のとおりである。

市制施行後、初めての市議會議員選挙が、昭和三十四年四月三十日に執行され、立候補者三八名によって激しい選挙戦を展開した。

第十七回選出市議會議員選挙

次点は、角田要二四三票であった。なお選挙当日の有権者数は一万三、九六三人、投票者数一万二、六五八人、投票率九〇・六五パーセントであった。

|        |     |       |   |    |
|--------|-----|-------|---|----|
| 高島 敦仁  | 黄金町 | 僧     | 無 | 三六 |
| 藤井 亀次東 | 町農  | 業     | 無 | 三五 |
| 富田 重雄  | 栄町  | 町建具製造 | 無 | 二五 |



第18回市議会議員

昭和三十八年四月三十日執行の市議会議員選挙には立候補三七名によって三〇の議席を争った。

議員選挙

第十八回選出市議

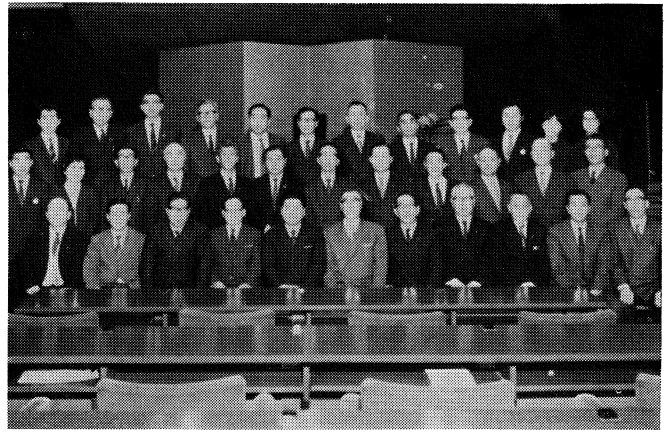
投票数一万六、二九八票、投票率九一・九パーセントであった。

次点は藤井亀次(三〇三票)であった。なお、選挙当日の有権者数は一万七、七三四人、

|          |      |      |      |      |      |      |       |      |      |      |
|----------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|
| 赤堀守泉町会社員 | 古館健一 | 吉田堅治 | 社内与造 | 吉田儀作 | 芥川朝吉 | 田中正雄 | 岩村吉太郎 | 長井慶治 | 植野広志 | 中村正男 |
| 北滝の川     | 朝日   | 明神   | 北滝の川 | 本東   | 東本   | 本東   | 北滝の川  | 明神   | 朝日   | 北滝の川 |
| 農業       | 農    | 農    | 農    | 農    | 農    | 農    | 農     | 農    | 農    | 農    |
| 四〇       | 四七   | 六二   | 五二   | 四二   | 五八   | 六三   | 五三    | 四二   | 五二   | 四〇   |
| 無        | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無     | 無    | 無    | 無    |
| 四二一      | 四一三  | 四〇八  | 四〇〇  | 三七五  | 三七四  | 三七四  | 三七四   | 三七五  | 四〇〇  | 四一三  |

次点は鷺尾外吉(三八一票)であった。選挙当日の有権者数は、二万一、〇三四人、投票者数一万八、六四一で投票率は八八・六二パーセントであった。

|      |      |      |     |      |     |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |      |       |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |       |    |    |
|------|------|------|-----|------|-----|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|----|----|
| 坂田弘治 | 吉田堅治 | 大沢辰次 | 国兼昇 | 長井慶治 | 赤堀守 | 川村捨五郎 | 草浦正己 | 草沢正薫 | 中村正男 | 合村正義 | 南田勝夫 | 酒井徹夫 | 太田盛夫 | 阪本茂一 | 石黒貞一 | 田中君太郎 | 三浦光正 | 猪口英之助 | 古館健一 | 大和田実 | 社内与造 | 岸内克美 | 中村正直 | 山尾秀次 | 篠内喆夫 | 中島正雄 | 鈴木信彦 | 犬飼克己 | 西村ケイ子 | 氏名 |    |
| 本町   | 本町   | 本町   | 本町  | 本町   | 本町  | 本町    | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町    | 本町   | 本町    | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町    | 本町 | 住所 |
| 商    | 商    | 商    | 商   | 商    | 商   | 商     | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商     | 商    | 商     | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商    | 商     | 商  | 職業 |
| 五    | 五    | 五    | 六   | 六    | 五   | 四     | 三    | 四    | 四    | 三    | 四    | 四    | 五    | 五    | 五    | 五     | 五    | 四     | 三    | 三    | 五    | 四    | 四    | 四    | 五    | 四    | 二    | 三    | 三     | 年齢 |    |
| 自    | 自    | 自    | 自   | 自    | 自   | 自     | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自     | 自    | 自     | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自    | 自     | 党派 |    |
| 三    | 三    | 四    | 四   | 四    | 四   | 四     | 四    | 四    | 四    | 四    | 四    | 四    | 五    | 五    | 五    | 五     | 五    | 五     | 五    | 六    | 六    | 六    | 六    | 六    | 七    | 七    | 七    | 八    | 八     | 得票 |    |



第19回市議会議員

|      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |      |    |
|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|----|
| 太田盛夫 | 草田   | 川田   | 米田   | 鷺田   | 中尾   | 西村   | 田村   | 藤村   | 森中   | 鈴井   | 東実   | 深木   | 氏名 |
| 義勝   | 金彦   | 信彦   | 勇次   | 亀次   | 君太郎  | ケイ子  | 正男   | 外吉   | 一実   | 朝日   | 西日   | 黄日   |    |
| 住所   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   | 本町   |    |
| 職業   | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 | 会社役員 |    |

|    |       |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |     |
|----|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 年齢 | 三〇    | 三二  | 二九  | 五〇  | 六八  | 六八  | 六八  | 三八  | 四八  | 六〇  | 四四  | 四四  | 四〇  | 五八  |
| 党派 | 社会    | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  | 社会  |
| 得票 | 一、〇〇五 | 八七七 | 八四三 | 七八二 | 六六四 | 六六四 | 六六四 | 六六〇 | 六五〇 | 六三一 | 六一九 | 六一九 | 五九七 | 五九七 |

第十九回選出市議員選挙

昭和四十二年四月二十八日執行の市議会議員選挙には三六人が争い市内一〇カ所の投票所で投票が行われた。なお任期については昭和四十六年四月一日滝川市江部乙町の廃置分合により新滝川市となったが、特例法により昭和四十六年四月二十九日までである。

|      |       |      |      |      |      |      |      |      |       |      |      |      |      |      |      |      |
|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|------|------|------|------|
| 山尾秀次 | 猪口英之助 | 籾内喆夫 | 石黒貞一 | 中村正直 | 福島隆治 | 社内与造 | 中村武雄 | 富沢和雄 | 川村捨五郎 | 草浦正己 | 岸浦美己 | 米山三郎 | 南浦義夫 | 三浦光正 | 吉田堅治 | 阪本茂治 |
| 一の坂町 | 北滝の川  | 西    | 大滝の川 | 北滝の川 | 西    | 東滝   | 日    | 西    | 大     | 大    | 大    | 西    | 朝日   | 花月   | 明神   | 泉    |
| 国鉄職員 | 農社役員  | 商社役員 | 商社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員  | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 | 農社役員 |
| 四六   | 五七    | 五四   | 五八   | 五三   | 五五   | 六一   | 六六   | 三八   | 六六    | 五〇   | 四六   | 五三   | 四〇   | 五四   | 五九   | 六八   |
| 無    | 無     | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無     | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    | 無    |
| 五八六  | 五六九   | 五五四  | 五五二  | 五五〇  | 五四七  | 五四六  | 五四六  | 五四五  | 五四五   | 五四三  | 五四九  | 四七二  | 四七二  | 四七二  | 四七二  | 四七二  |

次点は合田正勝（三九七票）であった。なお選挙当日の有権者数は二万二、三五四人、投票者数二万六八八票、投票率八九・七七パーセントである。

第三節 江部乙村・町議会議員選挙

明治四十二年四月一日江部乙分村に伴う村会を一日も早く設置する必要上、翌四月二日現在で選挙人名簿を作製した。

名簿調整期日から六〇日目に選挙を行うことが法で決っているのた。で、同年六月一日を選挙日と定め、北辰小学校で初の選挙を執行した。

第一回選出村會議員選挙

議員定員一〇名の選挙は次のとおり決った。

|       |       |    |       |       |    |
|-------|-------|----|-------|-------|----|
| 氏名    | 住所    | 職業 | 氏名    | 住所    | 職業 |
| 岡本岩蔵  | 西裏通十四 | 農  | 小橋徳之助 | 西裏通十二 | 農  |
| 岩佐駒蔵  | 西十五丁目 | 同  | 三沢貫之助 | 西裏通九  | 同  |
| 原田馬吉  | 通十五丁目 | 同  | 山本政吉  | 通九丁目  | 同  |
| 今田甚四郎 | 東裏通十四 | 同  | 近蔵 虢  | 通十一丁目 | 同  |
| 武田信孝  | 東裏通十一 | 同  | 吉本茂五蔵 | 通十四丁目 | 同  |

補欠選挙 (明治四十二年九月二十五日)  
 実藤磯五郎 (通十四丁目)  
 同 (明治四十四年三月五日)  
 本吉与平 (西十五丁目)

第二回選出村會議員選挙

明治四十四年六月一日に第二回の村會議員選挙が執行された。

|       |       |    |       |       |    |
|-------|-------|----|-------|-------|----|
| 氏名    | 住所    | 職業 | 氏名    | 住所    | 職業 |
| 武田信孝  | 東裏通十一 | 農  | 岩橋浅次  | 東十丁目  | 農  |
| 岡本岩蔵  | 西裏通十四 | 同  | 吉田元吉  | 通十四丁目 | 同  |
| 本吉与平  | 西十五丁目 | 同  | 木下由松  | 東裏通九  | 同  |
| 今田甚四郎 | 東裏通十四 | 同  | 竹村二一  | 通九丁目  | 同  |
| 原田馬吉  | 通十五丁目 | 同  | 三沢貫之助 | 西裏通九  | 同  |

第三回選出村會議員選挙

大正二年六月一日に村會議員選挙が行われ、次のとおり決った。

|       |       |    |       |       |    |
|-------|-------|----|-------|-------|----|
| 氏名    | 住所    | 職業 | 氏名    | 住所    | 職業 |
| 森本市太郎 | 通十五丁目 | 農  | 武田信孝  | 東裏通十一 | 農  |
| 岡本岩蔵  | 西裏通十四 | 同  | 原田馬吉  | 通十五丁目 | 同  |
| 岩橋浅次  | 東十丁目  | 同  | 本吉与平  | 西十五丁目 | 同  |
| 竹村二一  | 通九丁目  | 同  | 実藤磯五郎 | 通十四丁目 | 同  |
| 三沢貫之助 | 西裏通九  | 同  | 木下由松  | 東裏通九  | 同  |

補欠選挙  
 今田甚四郎 (東裏通十四) 大正二年七月七日  
 川上市太郎 (東十五丁目) 大正三年二月九日  
 寿美沢次郎 (西九丁目) 大正四年二月八日

第三章 選挙

第四回選出村會議員選挙

大正四年四月一日待望の一級町村制が施行され、地方自治体として独立した村政を行うことになった。一般町村となると議員に一級・二級の区分があり、定員は各六名となった。

選挙日は二級が大正四年五月三十一日、一級は六月一日である。

|    |       |       |    |    |       |       |    |
|----|-------|-------|----|----|-------|-------|----|
| 級別 | 氏名    | 住所    | 職業 | 級別 | 氏名    | 住所    | 職業 |
| 一級 | 岡本岩蔵  | 西裏通十四 | 農  | 二級 | 村上福松  | 同上    | 農  |
| 同  | 武田信孝  | 東裏通十一 | 同  | 同  | 川上市太郎 | 東十五丁目 | 農  |
| 同  | 原田馬吉  | 通十五丁目 | 同  | 同  | 地原松之助 | 東裏通九  | 同  |
| 同  | 吉本茂五蔵 | 通十丁目  | 同  | 同  | 寺本末吉  | 東裏通十三 | 同  |
| 同  | 本山鹿太郎 | 西裏通十四 | 同  | 同  | 本吉与平  | 西十五丁目 | 同  |
| 同  | 浅田亀吉  | 通十三丁目 | 同  | 同  | 埴渕平八  | 東裏通十五 | 同  |

第五回選出村會議員選挙

村會議員の任期は六年であるが、半数は三年間で改選されることになっており、大正七年五月三十一日に二級、六月一日に一級の半数改選選挙が執行された。

|    |      |       |    |     |       |       |    |
|----|------|-------|----|-----|-------|-------|----|
| 級別 | 氏名   | 住所    | 職業 | 級別  | 氏名    | 住所    | 職業 |
| 一級 | 大崎栄吉 | 西十五丁目 | 農  | 二級  | 進藤島吉  | 東十丁目  | 農  |
| 同  | 武田信孝 | 東裏通十一 | 同  | 同   | 岡本岩蔵  | 西裏通十四 | 同  |
| 同  | 浅田亀吉 | 通十三丁目 | 同  | 同   | 今田甚四郎 | 東裏通十四 | 同  |
| 同  | 同    | 同     | 同  | 同補欠 | 寺本末吉  | 東裏通十三 | 同  |

一級資格の者は二級の立候補でもよいが、二級資格の者は一級の村議立候補はできないことになっていた。

補欠選挙

|    |       |         |     |
|----|-------|---------|-----|
| 級別 | 氏名    | 住所      | 職業  |
| 二級 | 吉田元吉  | (通十四丁目) | 農   |
| 一級 | 堀了介   | (通十二丁目) | 薬販売 |
| 同  | 木下由松  | 東裏通九    | 農   |
| 同  | 小杉善之助 | 通十一丁目   | 商業  |

大正十年一月十四日  
 大正十年一月十五日

この補欠選挙で見られるように屯田関係者以外の商業者市街地の進出があった。

第六回選出村会議員選挙

大正十年五月三十一日二級、六月一日一級の半数改選村会議員の選挙執行は、次の当選者が決った。

| 級別 | 氏名    | 住所    | 職業 | 級別 | 氏名    | 住所    | 職業 |
|----|-------|-------|----|----|-------|-------|----|
| 一級 | 高見 栄吉 | 西裏通十五 | 農業 | 二級 | 原田 馬吉 | 通十五丁目 | 農業 |
| 同  | 中村 玉吉 | 通十二丁目 | 商業 | 同  | 小杉善之助 | 通十一丁目 | 商業 |
| 同  | 一木百太郎 | 西九丁目  | 農業 | 同  | 木下 由松 | 東裏通九  | 農業 |

第七回選出村会議員選挙

大正十三年五月三十一日に二級、同六月一日に一級の村会議員半数改選選挙が行われたが、人口の増加に伴い定員を一二名から一六名と改めたので、五名ずつの選出を行った。

| 級別 | 氏名    | 住所    | 職業  | 級別  | 氏名    | 住所    | 職業 |
|----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|----|
| 一級 | 大崎 栄吉 | 駅 前   | 運送業 | 二級  | 岩橋 浅次 | 東十丁目  | 農業 |
| 同  | 村井安太郎 | 通十三丁目 | 精米業 | 同   | 今田甚四郎 | 東裏通十四 | 同  |
| 同  | 長田権次郎 | 西十五丁目 | 農業  | 同   | 長井 慶重 | 東裏通十二 | 同  |
| 同  | 多田 力蔵 | 東裏通十一 | 同   | 同   | 進藤 島吉 | 東十丁目  | 同  |
| 同  | 山本 政吉 | 通九丁目  | 同   | 同   | 島津勇次郎 | 西裏通十三 | 同  |
| 同  |       |       |     | 同補欠 | 村上寅之進 | 通十八丁目 | 同  |

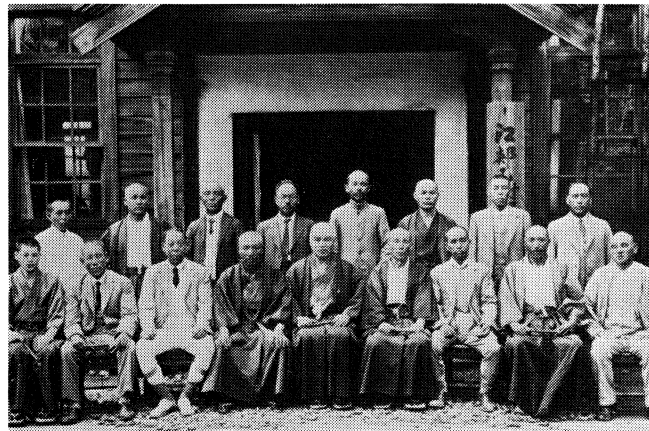
第八回選出村会議員選挙

昭和二年五月三十一日に二級、同六月一日に一級の村会議員半数改選選挙が執行され、次のとおり決まった。

| 級別 | 氏名    | 住所    | 職業  | 級別  | 氏名    | 住所    | 職業 |
|----|-------|-------|-----|-----|-------|-------|----|
| 一級 | 高見 栄吉 | 西裏通十五 | 農業  | 二級  | 山本 政吉 | 通九丁目  | 農業 |
| 同  | 島津 島蔵 | 西十二丁目 | 渡舟業 | 同   | 吉田 留平 | 東十五丁目 | 同  |
| 同  | 福住関次郎 | 東十丁目  | 農業  | 同   | 田中 栄松 | 西裏通十四 | 同  |
| 同  | 本所久太郎 | 東裏通十  | 同   | 同補欠 | 寿美沢次郎 | 西九丁目  | 同  |
|    |       |       |     | 同   | 吉田 元吉 | 通十四丁目 | 同  |

第九回選出村会議員選挙

従来の任期六カ年が四カ年に改正され、半数改選制を廃して全員改選制とした普通選挙法が施行された(注 滝川町議会議員の項参照)。



第9回村会議員

一一六名、計一七〇名からみると約六倍となっている。

この改正はまた有権者の数を増し、議員定数も一八名とした。昭和五年五月三十一日執行の村会議員選挙は従来一級有権者による一級議員選挙、二級有権者による二級議員選挙の二本立であったがこの区分を廃し、有権者資格を緩めたので一、〇一九名の有権者となった。昭和二年の有権者は一級五四名、二級

| 氏名     | 住所      | 職業   | 氏名     | 住所     | 職業  |
|--------|---------|------|--------|--------|-----|
| 吉田 留平  | 東十五丁目   | 農業   | 岩崎 梅太郎 | 西十二丁目  | 農業  |
| 浜田 友太郎 | 西十二丁目   | 樫木材業 | 三沢 貫之助 | 西裏通九丁目 | 同   |
| 吉田 清作  | 通十三丁目   | 商業   | 谷 宗三郎  | 東十五丁目  | 同   |
| 藤田 利一  | 東十丁目    | 農業   | 村上 寅之進 | 通十八丁目  | 同   |
| 大崎 恒吉  | 西裏通十五丁目 | 同    | 岩橋 喜代松 | 東十丁目   | 同   |
| 高見 栄吉  | 西裏通十五丁目 | 同    | 山本 宗平  | 通九丁目   | 同   |
| 福住 関次郎 | 東十丁目    | 同    | 山本 政吉  | 通十二丁目  | 精米業 |

星加藤 吉東十七丁目 農 業 村井 安太郎 通十三丁目 精米業  
 島津 勇次郎 西裏通十三丁目 農 業 島津 島 造 西十二丁目 渡舟業

議員の任期半ばに村長の擁立問題が起こり、昭和八年四月一日から同年六月七日までの間に、辞職者が続出し一〇名に達した。

岩崎梅太郎 岩橋喜代松 浜 友太郎 山本 宗平 藤田 利一  
 福住閑次郎 三沢貫之助 島津勇次郎 吉田 清作 島津 島造

このほか山本政吉が死亡のため、村会の機能を失ったので、昭和八年六月十六日、補欠選挙が執行され、次のとおり選出された。

|        |        |     |        |       |     |
|--------|--------|-----|--------|-------|-----|
| 和田 秀喜  | 西十八丁目  | 農 業 | 佐藤 専之助 | 通十三丁目 | 木材商 |
| 虎谷 宗平  | 東十五丁目  | 同   | 今井 栄太郎 | 通十二丁目 | 養豚業 |
| 吉田 清作  | 通十三丁目  | 商 業 | 榎本 友吉  | 西十五丁目 | 農 業 |
| 荒山 為吉  | 通十六丁目  | 農 業 | 鶴尾 仁助  | 東十五丁目 | 同   |
| 平沢 重義  | 東裏通九丁目 | 同   | 島津 島造  | 西十二丁目 | 渡舟業 |
| 明瀬 与四松 | 西十六丁目  | 同   |        |       |     |

第十回選出村会議員選挙

昭和九年五月三十一日第十回の村会議員選挙が執行された。

|        |         |     |        |         |     |
|--------|---------|-----|--------|---------|-----|
| 佐藤 専之助 | 通十三丁目   | 木材商 | 岩崎 梅太郎 | 西十二丁目   | 農 業 |
| 長井 重治  | 東裏通十二丁目 | 農 業 | 岩橋 喜代松 | 東十丁目    | 同   |
| 吉田 元吉  | 通十四丁目   | 同   | 島津 島造  | 西十二丁目   | 渡舟業 |
| 虎谷 宗三郎 | 東十五丁目   | 同   | 山本 宗平  | 通九丁目    | 農 業 |
| 吉田 清作  | 通十三丁目   | 商 業 | 今井 栄太郎 | 通十二丁目   | 養豚業 |
| 明瀬 与四松 | 西十六丁目   | 農 業 | 長谷川 平蔵 | 東九丁目    | 農 業 |
| 大崎 恒吉  | 西裏通十五丁目 | 同   | 村上 寅之進 | 通十八丁目   | 同   |
| 藤田 利雄  | 東十丁目    | 同   | 高見 栄吉  | 西裏通十五丁目 | 同   |
| 高谷 秀松  | 西裏通十五丁目 | 同   | 島津 勇次郎 | 西裏通十三丁目 | 同   |

右議員のうち、長井重治、明瀬与四松は転出。岩崎梅太郎、高見

栄吉が死亡。今井栄太郎は日華事変に応召と一八名中五名の欠員を生じたので、昭和十二年九月十五日補欠選挙が執行された。

大崎 利吉 西裏通十二丁目 商 業 高桑 又一 西裏通十二丁目 旅館業  
 吉田 堅治 西十二丁目 会社員 千徳 清吉 東裏通十四丁目 農 業  
 西田 亨 東十丁目 農 業

第十一回選出村会議員選挙

昭和十三年五月三十一日執行の村会議員選挙で次のとおり当選した。なお当日の有権者数は一、一七〇人であった。

|        |         |     |        |         |     |
|--------|---------|-----|--------|---------|-----|
| 大崎 利吉  | 西裏通十二丁目 | 商 業 | 高桑 又一  | 西裏通十二丁目 | 旅館業 |
| 虎谷 宗三郎 | 東十五丁目   | 農 業 | 藤田 利雄  | 東十丁目    | 農 業 |
| 村井 安太郎 | 通十三丁目   | 精米業 | 山本 宗平  | 通九丁目    | 同   |
| 吉本 道良  | 通十二丁目   | 商 業 | 佐藤 専之助 | 通十三丁目   | 木材商 |
| 高谷 秀松  | 西裏通十五丁目 | 農 業 | 松儀 一男  | 西裏通十四丁目 | 農 業 |
| 本所 久太郎 | 東裏通十丁目  | 同   | 成田 甚作  | 東十四丁目   | 同   |
| 吉田 元吉  | 通十四丁目   | 同   | 三笠 弥蔵  | 東九丁目    | 同   |
| 福永 正賀  | 通十二丁目   | 同   | 森浦 牛之助 | 西十八丁目   | 同   |
| 村上 寅之進 | 通十八丁目   | 同   | 吉田 清作  | 通十三丁目   | 商 業 |

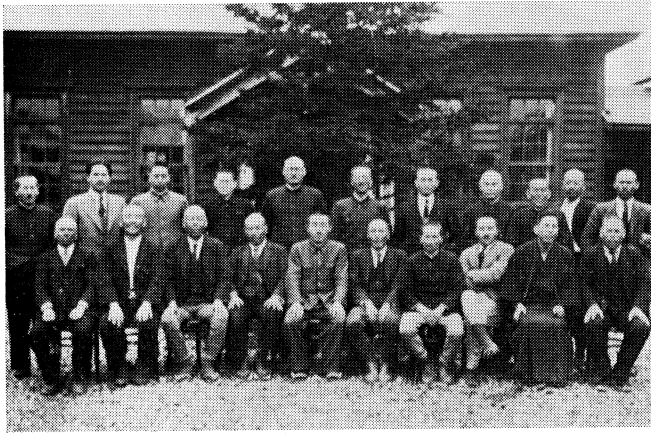
補充選挙 本所久太郎が死亡したので昭和十六年十月六日公会堂で補充選挙を執行した結果、岩佐職司(通十二丁目、写真業)が当選した。

第十二回選出村会議員選挙

太平洋戦争に入って翼賛体制が強く要望され、滝川町と同様に議員の選出は推せん制による翼賛選挙とすることを昭和十七年三月三十一日開会の村常会で議決した。

準備委員には岩橋浅次、寺本末吉、村上寅之進、玉置一平、藤田利雄、松儀一男、高谷秀松、玉置元且が挙げられ、さらに選考委員は各部落、町内連合会より一名ずつの一三名を加えて、数次にわたる選考を重ね、議員候補を推せんした。

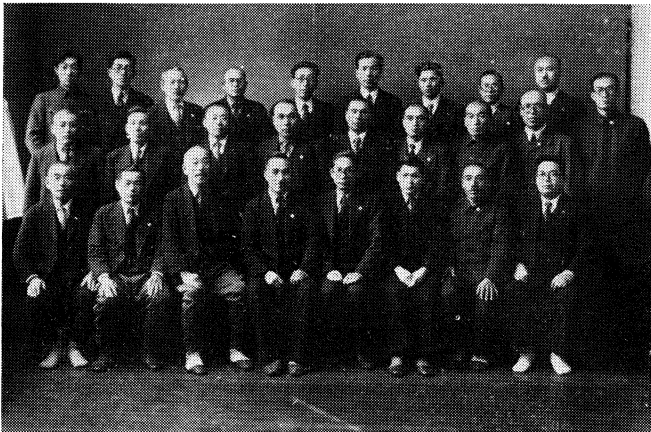
昭和十七年五月三十一日執行の村会議員選挙は有権者一、二〇六人により、推せん者一四名、非推せん者四名の当選が決まった。



第11回村会議員



第12回村会議員



第13回村議会議員

昭和二十二年四月三十日、終戦後の選挙法改正に伴う地方統一選挙が執行された（注 滝川町議会議員選挙第十四回選出の項参照のこと）。

第十三回選出村議会議員選挙

|        |       |      |
|--------|-------|------|
| 松ヶ平 五作 | 西十二丁目 | 農業   |
| 岩佐 職司  | 通十二丁目 | 写真業  |
| 雨池 菊二  | 通十二丁目 | 製縄業  |
| 一木 善二  | 東十一丁目 | 農業   |
| 吉本 道良  | 通十二丁目 | 商業   |
| 佐藤 專之助 | 通十三丁目 | 木材商  |
| 鶴尾 仁助  | 東十五丁目 | 農業   |
| 山本 宗平  | 通九丁目  | 同    |
| 高桑 又一  | 西裏通十二 | 旅館業  |
| 小川 秀夫  | 西九丁目  | 農業   |
| 森実 年   | 通十二丁目 | 会社役員 |
| 吉田 元吉  | 通十四丁目 | 農業   |
| 本吉 武雄  | 西十五丁目 | 同    |
| 福永 正賀  | 通十二丁目 | 同    |
| 高見 清八  | 西十八丁目 | 同    |
| 加藤 八百蔵 | 西十五丁目 | 同    |
| 早瀬 政一  | 西十六丁目 | 同    |
| 進藤 正雄  | 東十丁目  | 同    |

有権者四、二三人と増加し、婦人の立候補者二人があり、議員定数は二二名に増員された。名称も村会を村議会と改称され、議員も議会議員といわれるようになった。当選者は次のとおりである。

|        |       |      |
|--------|-------|------|
| 宮崎 定由  | 通十三丁目 | 会社役員 |
| 前田 春市  | 東十丁目  | 農業   |
| 長田 清作  | 東十五丁目 | 同    |
| 増田 久一  | 通十八丁目 | 無職   |
| 次原 清一  | 西十一丁目 | 農業   |
| 水林 富治  | 通十二丁目 | 綿打業  |
| 大崎 利吉  | 西裏通十二 | 商業   |
| 吉本 道良  | 通十二丁目 | 同    |
| 長谷川 武次 | 東九丁目  | 農業   |
| 村上 武雄  | 西十二丁目 | 団体役員 |
| 寺崎 政朝  | 通九丁目  | 農業   |
| 丸岡 留吉  | 仲十七丁目 | 同    |
| 川口 滋   | 通十二丁目 | 製材業  |
| 篠原 市郎  | 西十五丁目 | 農業   |
| 野池 一美  | 西十七丁目 | 同    |
| 山木 辰之進 | 通十三丁目 | 同    |
| 雨池 菊二  | 通十二丁目 | 製縄業  |
| 今井 栄太郎 | 通十二丁目 | 養豚業  |



第14回村議会議員



第15回町議会議員

吉田 清作 通十三丁目 商 業 一木 善二 東十二丁目 同  
 川島 幸太郎 西十六丁目 農 業 寿美 繁男 西九丁目 同  
 なお、寿美繁男は同年十一月二十六日、増田久一は二十四年三月  
 三十一日に議員を辞職している。  
**第十四回選出村議会議員選挙**  
 昭和二十六年四月二十三日執行の村議会議員選挙は次のとおり当  
 選が決定した。なお、選挙当日の有権者数は四、四八六人であつ  
 た。

|        |       |     |         |       |      |
|--------|-------|-----|---------|-------|------|
| 安田 喜八  | 西十四丁目 | 農 業 | 虎谷 宗善   | 西十二丁目 | 整骨 業 |
| 篠原 市郎  | 西十五丁目 | 同   | 武田 功    | 西十二丁目 | 獸 医  |
| 川島 幸太郎 | 西十六丁目 | 同   | 佐々木 徳次郎 | 通十四丁目 | 農 業  |

平野 庄一 西十二丁目 木材 業 寺崎 政朝 通九丁目 同  
 加賀谷 次吉 東十二丁目 農 業 寿美 繁男 西九丁目 同  
 川口 滋 通十二丁目 製材 業 水林 富治 通十二丁目 綿打 業  
 石田 邦太郎 東十八丁目 農 業 野地 一美 西十七丁目 農 業  
 佐藤 専之助 東十三丁目 木材 商 雨池 正一 西十丁目 同  
 梅野 種勝 東十五丁目 農 業 吉田 清作 通十三丁目 りんご 商  
 村上 武雄 西十二丁目 団体 役員 長谷川 武次 東九丁目 農 業  
 丸岡 留吉 仲十七丁目 農 業 前田 春市 東十丁目 同  
 この選挙執行後の昭和二十七年五月五日に江部乙に町制が施行さ  
 れ、町議会議員となった。  
**第十五回選出町議会議員選挙**

町制施行後、初めの議員選挙が昭和三十年四月三十日執行される  
 ことになるが、議員定数削減問題が起きた。

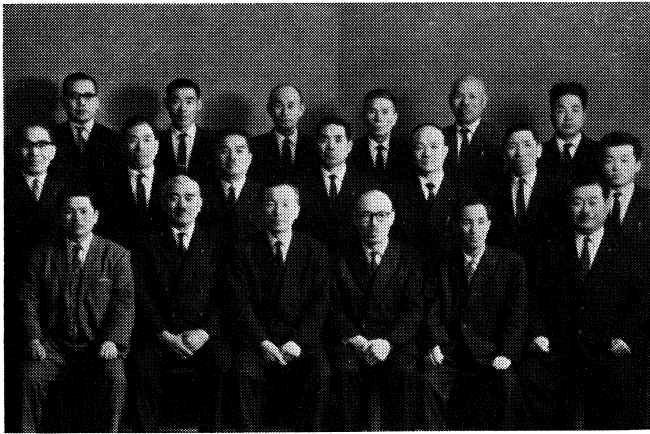
空知管内では既に大半の町村において定数削減が行われ  
 ており、江部乙町財政の逼迫と住民負担の軽減をはかるた  
 め、町議会議員の定数削減は緊要性があるとして、三十年  
 三月二十七日の町議会に議員提案により提出された。現定  
 数二二人を一八人とする条例改正の議決が翌二十八日にあ  
 り、四人を削減することになった。

| 氏名    | 番地    | 職業   | 党派 | 氏名    | 番地   | 職業   | 党派 |
|-------|-------|------|----|-------|------|------|----|
| 今井栄太郎 | 一八四の三 | 農 業  | 無  | 西野 良吉 | 一、七六 | 農 業  | 無  |
| 石田邦太郎 | 一八七の二 | 無    | 無  | 長谷川武次 | 九四   | 農 業  | 無  |
| 岩崎 庄一 | 三八宛   | 会社役員 | 無  | 前田 春市 | 九〇   | 同    | 無  |
| 岩佐 文明 | 一四六の三 | 農 業  | 無  | 松ヶ平五作 | 五五   | 農 業  | 無  |
| 岩橋 恒男 | 四七〇の一 | 農 業  | 共産 | 丸岡 留吉 | 三、〇三 | 農 業  | 無  |
| 梅野 種勝 | 一四五   | 同    | 無  | 村上 武雄 | 一八四  | 団体職員 | 自民 |
| 佐藤専之助 | 一八四の四 | 農 業  | 無  | 本瀬浅次郎 | 一、四四 | 農 業  | 無  |
| 寺崎 政朝 | 七〇    | 同    | 無  | 山本伊三郎 | 一、五五 | 製材 業 | 無  |
| 虎谷 宗善 | 一八八の四 | 整骨院  | 無  | 吉田 精一 | 一、三六 | 農 業  | 無  |

第十六回選出町議会議員選挙

昭和三十四年四月三十日新地方自治法制定以来、第四次の地方統一選挙に町議会議員選挙執行があり、二五名が立候補して次のとおり当選した。

| 氏名    | 番地       | 職業 | 党派 | 得票 | 氏名    | 番地       | 職業 | 党派 | 得票 |
|-------|----------|----|----|----|-------|----------|----|----|----|
| 雨池 正一 | 五〇の二農    | 業  | 無  | 三〇 | 山口 周吉 | 一、七三の三農  | 業  | 無  | 二四 |
| 今井栄太郎 | 一、八四の三同  | 無  | 無  | 三〇 | 曾我部秋好 | 二、三三同    | 無  | 無  | 一八 |
| 石橋 武  | 四〇六四の三同  | 無  | 無  | 二四 | 武田 功  | 一、八四団体職員 | 無  | 無  | 三〇 |
| 岩崎 庄一 | 三、八兜会社役員 | 無  | 無  | 三〇 | 寺崎 政朝 | 七〇農      | 業  | 無  | 三三 |
| 岩橋 恒男 | 四七の二農    | 業  | 共産 | 一八 | 虎谷 宗善 | 二、一八の四同  | 無  | 無  | 三三 |
| 吉田 精一 | 一、三六同    | 無  | 無  | 一七 | 西野 良吉 | 一、七六同    | 無  | 無  | 三〇 |
| 浜谷 玉芳 | 一、二六の三   | 材業 | 無  | 一七 | 長谷川武次 | 九四同      | 無  | 無  | 一〇 |



第16回町議会議員

前田 春市 〇〇同 無 二〇宛安田 喜八、二三の三同 無 一八  
松ヶ平五作 〇〇同 無 三三吉岡 重信 一、七六同 無 一五

今井栄太郎は昭和三十五年十二月十六日に死亡した。

次点は佐藤専之助（一六八票）であった。

選挙当日の有権者数五、一五〇人、投票者数四、九〇三人、投票率九五・二〇パーセントであった。

第十七回選出町議会議員選挙

昭和三十八年四月三十日執行の町議会議員選挙に当選されたのは次のとおりである。立候補者は二〇名であった。

| 氏名    | 番地       | 職業 | 年齢 | 党派 | 得票 | 氏名    | 番地       | 職業 | 年齢 | 党派 | 得票 |
|-------|----------|----|----|----|----|-------|----------|----|----|----|----|
| 石橋 武  | 四〇六四農    | 業  | 63 | 無  | 三〇 | 浜谷 玉芳 | 一、二六の三   | 材業 | 60 | 無  | 二四 |
| 岩崎 庄一 | 三、八兜会社役員 | 業  | 56 | 無  | 二八 | 前田 春市 | 九〇農      | 業  | 55 | 無  | 一八 |
| 梅野 種勝 | 一、四五農    | 業  | 58 | 無  | 三〇 | 松ヶ平五作 | 〇〇同      | 無  | 63 | 無  | 三三 |
| 河原 正雄 | 二、二六の二農  | 業  | 55 | 社会 | 三三 | 村上 武雄 | 一、八四団体役員 | 業  | 68 | 無  | 三三 |
| 島田 十作 | 一、二六の二農  | 業  | 62 | 無  | 二六 | 山口 周吉 | 一、七三の二農  | 業  | 55 | 無  | 二四 |
| 曾我部秋好 | 二、三三同    | 業  | 50 | 民社 | 三三 | 吉岡 重信 | 一、七六農    | 業  | 53 | 民社 | 二七 |
| 寺崎 政朝 | 七〇同      | 業  | 43 | 無  | 三三 | 吉田 清作 | 二、六の三商   | 業  | 55 | 社会 | 二八 |
| 虎谷 宗善 | 二、一八の四同  | 業  | 55 | 無  | 三〇 | 吉田 精一 | 一、三六農    | 業  | 59 | 無  | 二九 |
| 長谷川武次 | 九四同      | 業  | 54 | 無  | 二六 | 岩橋 恒男 | 四七の二農    | 業  | 52 | 共産 | 三五 |

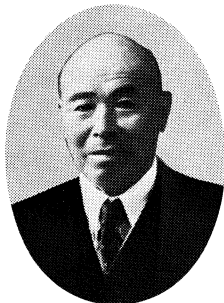
吉田精一は昭和三十九年四月二〇日に死亡した。

次点は雨池正一（二八四票）であった。

なお選挙当日の有権者数は

五、〇七七人、投票者数は四、八八五人、投票率九六・二二パーセントであった。

江部乙村会議長

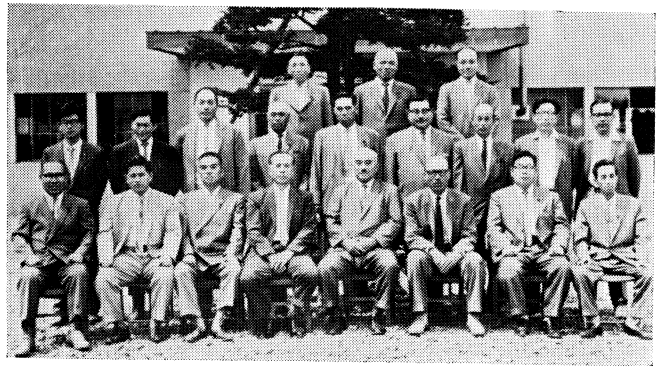


吉田 元吉

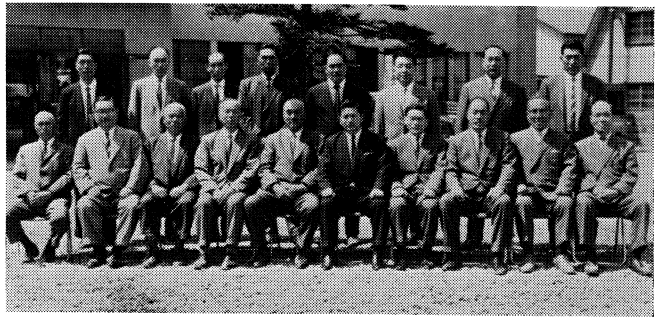
| 氏名     | 住所      | 職業   | 党派 | 得票 | 年齢 |
|--------|---------|------|----|----|----|
| 石橋 武   | 四、〇〇四   | 農業   | 無  | 三三 | 三〇 |
| 岩上 幸次郎 | 一、三五二の二 | 同    | 無  | 三七 | 三〇 |
| 岩崎 庄一  | 三、八〇九   | 同    | 無  | 二七 | 三〇 |
| 岩橋 恒男  | 四〇の一    | 会社役員 | 無  | 二七 | 三〇 |
| 梅野 種勝  | 一、四四五   | 農業   | 共産 | 二九 | 三三 |
| 薦田 一之助 | 三、九六    | 同    | 無  | 三三 | 三三 |
| 島田 十作  | 一、二〇〇の一 | 同    | 無  | 三五 | 三三 |

昭和四十二年四月三十日執行の町議会議員選挙当選者は次のとおりである。なお、この議員は江部乙町最後の町議会議員となり、昭和四十六年四月二十九日までの任期である。立候補者は二〇名。

第十八回選出町議会議員選挙



第17回町議会議員



第18回町議会議員

| 選出    | 区分 | 常任委員会名    | 委員長氏名               | 副委員長氏名  | 備考 |
|-------|----|-----------|---------------------|---------|----|
| 総務委員会 |    | 梅野 種勝     | 岩崎 庄一               | 自三〇・五・一 |    |
|       |    | 常任委員長     | 副委員長                |         |    |
|       |    | 昭和一七年     | 吉田 元吉               | 就任年月日   |    |
|       |    | 同 一七年     | 山本 宗平               | 三・〇・三   |    |
|       |    | 同 二二年     | 一木 善二               | 三・三・七   |    |
|       |    | 同 二六年     | 前田 春市               | 三・五・一   |    |
|       |    | 同 三〇年     | 前田 春市               | 三・五・一   |    |
|       |    | 同 三四年     | 前田 春市               | 三・五・一   |    |
|       |    | 同 三八年     | 前田 春市               | 三・五・一   |    |
|       |    | 同 四二年     | 松ヶ平五作               | 三・五・一   |    |
|       |    | 注         | 退任は昭和四十六年三月三十一日である。 |         |    |
|       |    | 常任委員長     | 副委員長                |         |    |
|       |    | 昭和三十年五月以降 |                     |         |    |

付・江部乙村・町議会組織構成等

投票率九五・四七パーセントであった。

次点は村上武雄（二五五票）であった。なお選挙当日の有権者数四、八八〇人、投票者数四、六五九人、

| 氏名     | 就任年月日     | 職業   | 党派 | 得票 |
|--------|-----------|------|----|----|
| 曾我部 秋好 | 三・〇・三     | 同    | 民社 | 三〇 |
| 武田 功   | 一・八・四     | 団体職員 | 無  | 三〇 |
| 寺崎 政朝  | 七・〇       | 農業   | 無  | 三二 |
| 橋本 信治  | 一・八・三     | 同    | 無  | 三二 |
| 平手 登   | 一・五・七     | 同    | 無  | 三五 |
| 水林 清治  | 一・五・七     | 商業   | 無  | 三二 |
| 山神 正勝  | 一・三・〇     | 会社員  | 無  | 三〇 |
| 前田 春市  | 九・〇       | 農業   | 無  | 二五 |
| 松ヶ平 五作 | 六・五       | 同    | 無  | 三六 |
| 吉岡 重信  | 一・七・六     | 同    | 民社 | 三三 |
| 吉田 清作  | 一・二・六・〇・三 | 商業   | 無  | 二七 |



人口五万人を若干超えている程度の滝川市においては、五万人未満の市の三〇人定員に合わせることにした。三〇の議席に三八人が立候補し、うち江部乙地区から一〇人の立候補者が出て、五名が当選した。

新市の第一回市議会議員当選者は次のとおりである。

| 氏名    | 住所   | 職業      | 年齢 | 党派 | 得票数   |
|-------|------|---------|----|----|-------|
| 深田義勝  | 西町   | 団体職員    | 三四 | 社会 | 一、五四一 |
| 寺崎政朝  | 江部乙町 | 農業      | 五一 | 無  | 一、二六〇 |
| 松山哲男  | 一の坂町 | 商業      | 三七 | 公明 | 一、一一二 |
| 三浦光正  | 花月町  | 会社役員    | 五八 | 自民 | 一、〇一二 |
| 富沢和雄  | 西町   | 政党役員    | 四二 | 共産 | 九七四   |
| 西村ケイ子 | 西町   | 無職      | 四二 | 社会 | 九五三   |
| 社内与造  | 東滝川  | 農業      | 六五 | 無  | 八九三   |
| 川田政一  | 西町   | 農業      | 五八 | 無  | 八二二   |
| 田中君太郎 | 明神町  | 自動車学校校長 | 六五 | 自民 | 八一〇   |
| 太田盛夫  | 本町   | 会社役員    | 六二 | 自民 | 八一〇   |
| 中西清一  | 栄町   | 会社役員    | 五七 | 自民 | 七九四   |
| 太田豊   | 北滝の川 | 団体役員    | 四三 | 社会 | 七八八   |
| 中村直   | 北滝の川 | 農業      | 五七 | 無  | 七八三   |
| 草沢薫   | 黄金町  | 農業      | 四四 | 社会 | 七四三   |
| 猪口英之助 | 北滝の川 | 国鉄職員    | 六〇 | 無  | 七四三   |
| 東金次郎  | 本町   | 商業      | 五六 | 自民 | 七四一   |
| 中村正男  | 北滝の川 | 農業      | 五二 | 無  | 七二七   |
| 嶋田定雄  | 江部乙町 | 農業      | 四四 | 無  | 七二七   |
| 藤井亀次  | 東町   | 農業      | 七二 | 無  | 七〇六   |
| 寺口章   | 北滝の川 | 農業      | 五〇 | 無  | 六九一   |
| 鷺尾外吉  | 一の坂町 | 新聞販売業   | 六四 | 無  | 六八五   |
| 吉岡重信  | 江部乙町 | 農業      | 六一 | 無  | 六六〇   |
| 篠内喆夫  | 西町   | 会社役員    | 五八 | 自民 | 六五九   |
| 岩橋恒男  | 江部乙町 | 農業      | 六〇 | 共産 | 六四一   |
| 米田実   | 朝日町  | 公社職員    | 四八 | 社会 | 六三七   |
| 前田春市  | 江部乙町 | 農業      | 六三 | 無  | 六一七   |

第三章 選挙

| 氏名    | 職務        | 得票数 |
|-------|-----------|-----|
| 米山三郎  | 泉町 労務士    | 五七  |
| 山尾秀次  | 一の坂町 国鉄職員 | 五〇  |
| 橋向国臣  | 朝日町 会社員   | 五二  |
| 大草一二三 | 大町 会社役員   | 五八  |
|       | 自民        | 六〇六 |

次点は津留崎禎之(五八八票)であった。

選挙投票状況

| 選挙当日の有権者数 | 投票者数                | 棄権者数   | 投票率   |
|-----------|---------------------|--------|-------|
| 男 一五、〇七八人 | 一三、二七四人             | 一、八〇四人 | 八八・〇四 |
| 女 一五、九八九人 | 一四、一九四人             | 一、七九五  | 八八・七七 |
| 計 三一、〇六七  | 二七、四六八              | 三、五九九  | 八八・四二 |
| 任期中死亡者    | 岩橋恒男 昭和四十七年十一月三十日死亡 |        |       |
|           | 藤井亀次 同 四十九年九月二十一日   |        |       |
|           | 篠内喆夫 同 五十年二月一日      |        |       |

議員定数問題

議員定数三〇人は滝川市と江部乙町の合併以前の両市町合併の協議会の決定事項で、四十六年四月の統一地方選挙の際も三〇人を選挙した。その後四十五年の国勢調査で五万人を超える人口であることから定数問題が再燃した。

「経費節減のため定数いっばいの三六人にするのは好ましくない。」という意見があり、昭和四十七年三月の定例市議会に「議員定数を減少させる条例」を設置する提案が一部の議員から出され、この条例案について、市議会総務常任委員会で審議を重ねた。

この結果、市民の意見を聴くべきであるとして四十八年二月五日から四日間にあたって市民代表として商工会議所・農協・地区労・婦連協・行政推進員など一六団体約六十人から意見を聴いた。

意見の集約としては「現行定数維持あるいは、それ以下の少数精鋭意見が全体の三分の二、残りの三分の一が労働団体を中心とする

一、二人の増員する意見」であった。

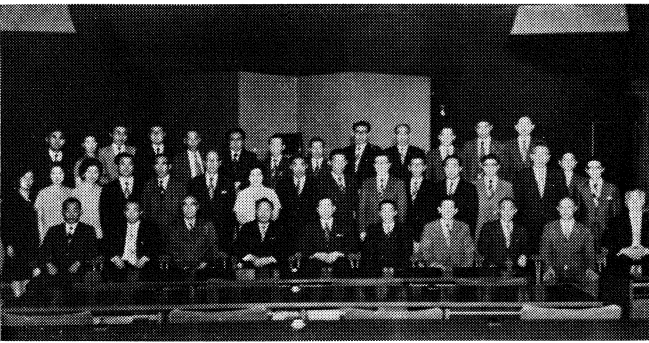
この前者は「経費節減で市民負担の軽減や福祉予算に回すべきだ」「現在の議員数でも議会活動に不足は起きていない」などが大半で議員数の増加は好ましくないとの意見が強い結果となった。

第二十二回選出市議会議員選挙

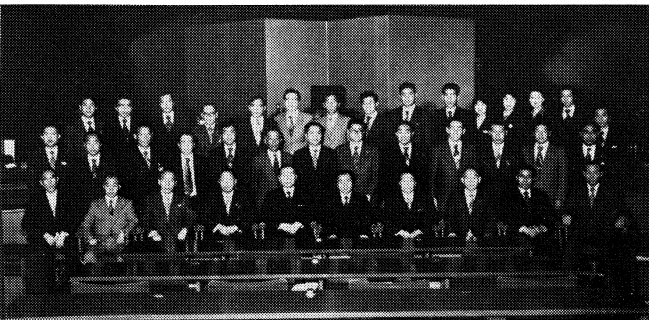
新市になって第二回目の市議会議員選挙は立候補者三五名によって争われ、昭和五十年四月二十七日に選挙が行われて、次のとおり当選者が決定した。



第20回市議会議員



第21回市議会議員



第22回市議会議員

|      |       |     |      |     |     |       |
|------|-------|-----|------|-----|-----|-------|
| 居林幹生 | 東町    | 住 所 | 会社役員 | 三 八 | 無   | 一、五五七 |
| 坂口末一 | 江部乙町  |     | 商 業  | 五 九 | 無   | 一、一五六 |
| 富沢和雄 | 西町    |     | 政党役員 | 四 六 | 共 産 | 一、一〇五 |
| 井上正雄 | 東町    |     | 農 業  | 三 一 | 自 民 | 一、〇九七 |
| 種田良一 | 西町    |     | 会社役員 | 四 六 | 無   | 一、〇五八 |
| 湯沢鉄雄 | 西町    |     | 国鉄職員 | 四 九 | 社 会 | 九 九 一 |
| 嶋田定雄 | 江部乙町  |     | 農 業  | 四 八 | 無   | 九 六 五 |
| 草沢薫  | 黄金町   |     | 国鉄職員 | 四 八 | 社 会 | 九 三 四 |
| 峰村孝  | 朝日町西四 |     | 国鉄職員 | 三 五 | 社 会 | 九 一 六 |
| 川田政一 | 西町    |     | 農 業  | 六 二 | 無   | 九 一 二 |
| 川口松夫 | 朝日町   |     | 公社職員 | 三 二 | 社 会 | 九 〇 三 |
| 川内与造 | 東滝川   |     | 農 業  | 六 九 | 無   | 八 八 六 |

| 氏名    | 住所   | 職業   | 年齢 | 党派 | 得票    |
|-------|------|------|----|----|-------|
| 石田 氏  | 北滝の川 | 団体職員 | 三五 | 無  | 一、二一六 |
| 中村 正直 | 北滝の川 | 農業   | 六五 | 無  | 一、一二三 |
| 嶋田 定雄 | 江部乙町 | 農業   | 五二 | 無  | 一、一一四 |

次点は松山力三（五八二票）であった。選挙投票状況は当日の有権者数三万二、三四四人、投票者数二万八、二八八人、棄権者数四、〇五六人、投票率八七・四六パーセントであった。

昭和五十四年四月二十二日に執行された。新市第三回目の市議会議員選挙は三六名の立候補者により争われ、次の当選者が決定した。

第三十二回選出市議会議員選挙

| 氏名     | 住所    | 職業   | 年齢 | 党派 | 得票  |
|--------|-------|------|----|----|-----|
| 橋向 国臣  | 朝日町西二 | 無職   | 五六 | 自  | 八八三 |
| 新井 万蔵  | 江部乙町  | 農業   | 五八 | 自  | 八六八 |
| 三浦 光正  | 花月町   | 会社役員 | 六二 | 自  | 八五三 |
| 松山 哲男  | 西町    | 会社役員 | 六一 | 自  | 八一三 |
| 東山 金次郎 | 本町一   | 商業   | 六〇 | 自  | 八〇一 |
| 神山 幸基  | 本町五   | 会社役員 | 五二 | 自  | 七八一 |
| 中村 正直  | 北滝の川  | 農業   | 六一 | 自  | 七六七 |
| 大草 一二三 | 大町    | 会社役員 | 六二 | 自  | 七五四 |
| 梅木 義雄  | 北滝の川  | 農業   | 五五 | 自  | 七四五 |
| 由良 寅三  | 柴町二   | 団体職員 | 六一 | 自  | 七四四 |
| 津留崎 禎之 | 江部乙町  | 農業   | 五七 | 自  | 七二八 |
| 西村 ケイ子 | 花月町   | 無職   | 四六 | 社  | 七二四 |
| 寺口 章   | 北滝の川  | 農業   | 五四 | 無  | 七〇〇 |
| 吉岡 重信  | 江部乙町  | 農業   | 六五 | 自  | 六七四 |
| 太田 盛夫  | 本町一   | 会社役員 | 六六 | 自  | 六九五 |
| 前田 春市  | 江部乙町  | 農業   | 六七 | 自  | 六〇九 |
| 太田 豊   | 北滝の川  | 団体役員 | 四七 | 社  | 六〇八 |
| 中西 清一  | 柴町三   | 飲食業  | 六一 | 自  | 六〇七 |

注 同姓同姓票は四捨五入した。

| 氏名     | 住所    | 職業   | 年齢 | 党派 | 得票    |
|--------|-------|------|----|----|-------|
| 佐伯 恭憲  | 西町六   | 会社員  | 四八 | 無  | 一、〇四〇 |
| 川田 政一  | 扇町二   | 農業   | 六六 | 無  | 一、〇三二 |
| 富沢 和雄  | 西町六   | 会社役員 | 五〇 | 共  | 〇〇八   |
| 居林 幹生  | 新町六   | 会社役員 | 四二 | 共  | 九七六   |
| 岡田 定之  | 朝日町西二 | 国鉄職員 | 三九 | 共  | 九四六   |
| 井上 正雄  | 東町    | 会社役員 | 三五 | 自  | 九四〇   |
| 中西 清一  | 柴町三   | 無職   | 六五 | 自  | 九三七   |
| 川口 松男  | 朝日町東西 | 公社職員 | 三六 | 社  | 九二七   |
| 種田 良一  | 西町三   | 会社社長 | 五〇 | 社  | 九一三   |
| 太田 尚豊  | 北滝の川  | 団体役員 | 五一 | 社  | 九〇九   |
| 鎌田 尚彦  | 本町三   | 国鉄職員 | 三二 | 社  | 八九九   |
| 国嶋 賢二  | 江部乙町  | 農業   | 四三 | 社  | 八六二   |
| 峰村 孝   | 朝日町西四 | 国鉄職員 | 三九 | 社  | 八五八   |
| 三浦 光正  | 花月町一  | 会社社長 | 六六 | 自  | 八三二   |
| 橋向 国臣  | 朝日町西二 | 無職   | 六〇 | 自  | 八二五   |
| 平手 登   | 江部乙町東 | 農業   | 五五 | 無  | 八一〇   |
| 寺口 章   | 北滝の川  | 農業   | 五八 | 無  | 八〇七   |
| 湯沢 鉄雄  | 西町六   | 国鉄職員 | 五三 | 社  | 八〇四   |
| 坂口 末一  | 江部乙町西 | 商業   | 六三 | 無  | 七八八   |
| 松山 哲男  | 西町八   | 商業   | 四三 | 無  | 七八四   |
| 吉岡 重信  | 江部乙町  | 農業   | 六九 | 無  | 七七八   |
| 梅木 義雄  | 北滝の川  | 農業   | 五九 | 無  | 七六九   |
| 由良 寅三  | 柴町二   | 団体役員 | 六五 | 民  | 七五〇   |
| 東山 金次郎 | 本町一   | 商業   | 六四 | 自  | 七二九   |
| 草沢 薫   | 黄金町西一 | 国鉄職員 | 五二 | 社  | 七二三   |
| 松山 力三  | 一の坂町西 | 商業   | 五六 | 無  | 六九五   |
| 津留崎 禎之 | 江部乙町  | 農業   | 六一 | 社  | 六七九   |

次点は西村ケイ子（六七六票）である。

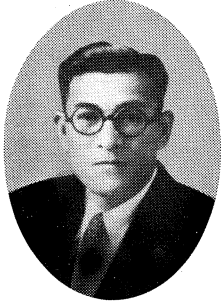
選挙投票状況

選挙当日の有権者 投票者数 棄権者数 投票率%  
 男 一六、四五六 一四、一九五 二、二六一 八六・二六  
 女 一七、六九三 一五、四〇〇 二、二九三 八七・〇四  
 計 三四、一四九 二九、五九五 四、五五四 八六・六六

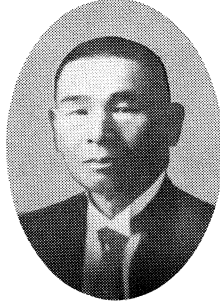
党派別得票数に関する調

| 党派    | 区分     |        |
|-------|--------|--------|
|       | 昭和五十四年 | 昭和五十年  |
| 自由民主党 | 四、八九四  | 六、二五九  |
| 日本社会党 | 七、六八一  | 六、三〇六  |
| 公明党   | 一、四一七  | 一、五九四  |
| 日本共産党 | 一、九五四  | 一、六四五  |
| 民社党   | 七五〇    | 二、三二一  |
| 無所属   | 一一、七六〇 | 一一、三二一 |
| 計     | 二九、四五六 | 二八、一二五 |
|       | 得票数    | 得票数    |
|       | 得票率%   | 得票率%   |

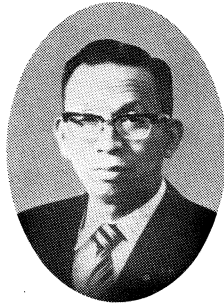
滝川町・市議会議長



石黒正信



次田秀彦



籤内 喆夫

付・滝川町・市議会組織構成等

滝川町・市歴代議会議長・副議長

選出年 議長 副議長

日発足した。

滝川市・江部乙町合併に伴う新市の滝川市が昭和四十六年四月一日

議会常任委員会委員長・副委員長

| 昭和26年選出                                    | 昭和22年選出                                            | 区分                                                     |
|--------------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------------------------------|
| 総務委員会<br>厚生委員会<br>教育委員会<br>経済委員会<br>土木委員会  | 総務部<br>衛生部<br>教育部<br>民生部<br>衛生部<br>經濟部<br>土木部      | 庶務財政課<br>教育課<br>民生課<br>衛生課<br>教育課<br>民生課<br>衛生課<br>土木課 |
| 佐藤 伸昭<br>樋口 隆治<br>中川 正<br>柴田 棟造<br>寺口 四郎   | 中山 吉次<br>松木 幸治<br>大川 千次郎<br>樋口 隆治<br>阪本 茂<br>中島 善治 | 飯尾 賢二<br>根井 清<br>笹倉 円次<br>村田 義一<br>岡部 潔<br>久富 勇一       |
| 国兼 保男<br>入沢 弥之助<br>神崎 毅<br>堀田 武司<br>米倉 定次郎 | 自二二・六・六                                            | 備考                                                     |

|      |      |    |    |    |    |    |    |      |    |      |    |                    |
|------|------|----|----|----|----|----|----|------|----|------|----|--------------------|
| 総務   | 都市計画 | 建設 | 商工 | 農林 | 厚生 | 文教 | 総務 | 旧委員会 | 人員 | 新委員会 | 人員 | 所管事項               |
|      | 八    | 八  | 八  | 八  | 八  | 八  | 八  | 八    | 八  | 七    | 七  | 庶務、財政、税務、消防、治安、その他 |
| 中島正雄 | 建設   | 建設 | 八  | 八  | 七  | 七  | 八  | 八    | 八  | 八    | 八  | 土木、建築、上水道、交通、都市計画  |
| 中川正  | 八    | 八  | 八  | 八  | 七  | 七  | 八  | 八    | 八  | 八    | 八  | 自三一・九・二五           |

議会議任委員会制度について昭和三十一年八月、地方自治法の改正に伴い滝川町議会議任委員会終了後に議員協議会が行われ、従来七つの常任委員会となっていたものを四委員会とすることにして、人員を割振り運営することになった。

| 昭和30年選出 |       |      |       |      |     |      | 昭和26年選出 |      |      |     |     |      |      |       |       |      |       |      |      |      |      |      |       |      |      |      |          |          |
|---------|-------|------|-------|------|-----|------|---------|------|------|-----|-----|------|------|-------|-------|------|-------|------|------|------|------|------|-------|------|------|------|----------|----------|
| 都市計画    | 建設    | 商工   | 農林    | 厚生   | 文教  | 総務   | 上水道     | 建設   | 商工   | 農林  | 厚生  | 総務   | 吉田儀作 | 入沢弥之助 | 岩村吉太郎 | 柴田棟造 | 米倉定次郎 | 篠内喆夫 | 中川正  | 片山佐八 | 寺口四郎 | 中野一郎 | 大橋長太郎 | 坂田弘治 | 中野一郎 | 中川正  | 自二八・五・三一 |          |
| 篠内喆夫    | 米倉定次郎 | 坂田弘治 | 岩村吉太郎 | 吉田儀作 | 中川正 | 中島正雄 | 米山三郎    | 古館健一 | 山口貞明 | 東信吉 | 南義夫 | 中野正直 | 中野一郎 | 中野正直  | 中野正直  | 中野正直 | 中野正直  | 中野正直 | 中野正直 | 中野正直 | 中野正直 | 中野正直 | 中野正直  | 中野正直 | 中野正直 | 中野正直 | 中野正直     | 自三〇・五・一六 |

| 46年選出                          |      |      |      | 区分    |
|--------------------------------|------|------|------|-------|
| 建設                             | 経済   | 文教厚生 | 総務   | 常任委員会 |
| 米田実                            | 太田盛夫 | 東金次郎 | 中村正男 | 委員長   |
| 藤井亀次                           | 川田政一 | 中西清一 | 橋向国臣 | 副委員長  |
| 猪口英之助                          |      |      |      | 委員等   |
| 自四八・五・一七                       |      |      |      | 委員等   |
| 寺崎政朝・山尾秀次・富沢和雄・大草一二三・鷺尾外吉・深田信勝 |      |      |      | 委員等   |
| 猪口英之助・田中君太郎・前田春                |      |      |      | 委員等   |
| 自四六・五・一〇                       |      |      |      | 委員等   |
| 藤井亀次・田中君太郎・篠内喆夫・西村ケイ子・米田実      |      |      |      | 委員等   |
| 三浦光正・草沢薫・寺口章・岩橋恒男・吉岡重信         |      |      |      | 委員等   |
| 社内与造・太田豊・嶋田定雄・中村正直・松山哲男・米山三郎   |      |      |      | 委員等   |
| 自四二・五・一〇                       |      |      |      | 委員等   |
| 草沢薫                            |      |      |      | 委員等   |
| 米山三郎                           |      |      |      | 委員等   |
| 福島隆治                           |      |      |      | 委員等   |
| 岸克美                            |      |      |      | 委員等   |
| 中西清一                           |      |      |      | 委員等   |
| 川田政一                           |      |      |      | 委員等   |

新・滝川市

| 42年選出    | 42年選出 | 38年選出 | 34年選出 | 30年選出 |
|----------|-------|-------|-------|-------|
| 建設       | 経済    | 文教厚生  | 総務    | 建設    |
| 米田実      | 太田盛夫  | 東金次郎  | 中村正男  | 草浦正己  |
| 藤井亀次     | 川田政一  | 中西清一  | 橋向国臣  | 猪口英之助 |
| 猪口英之助    |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |
| 川田政一     |       |       |       | 委員等   |
| 自四二・五・一〇 |       |       |       | 委員等   |
| 草沢薫      |       |       |       | 委員等   |
| 米山三郎     |       |       |       | 委員等   |
| 福島隆治     |       |       |       | 委員等   |
| 岸克美      |       |       |       | 委員等   |
| 中西清一     |       |       |       | 委員等   |



昭和四十五年度委員会会議日数調

| 備考            | 会議日数 | 委員会名    |    |
|---------------|------|---------|----|
|               |      | 常任      | 特別 |
|               | 12   | 総務      |    |
|               | 15   | 文教厚生    |    |
|               | 5    | 経済      |    |
|               | 22   | 建設      |    |
|               | 54   | 計       |    |
| 4月1日～3月17日    | 6    | 企業誘致    |    |
| 4月1日～3月17日    | 7    | 広域行政推進  |    |
| 7月9日～3月31日    | 18   | 合併調査    |    |
| 7月9日～12月21日   | 12   | 開発計画審査  |    |
| 10月28日～10月31日 | 3    | 一般会計決算  |    |
| 10月28日～10月31日 | 3    | 特別会計決算  |    |
|               | 49   | 計       |    |
|               | 5    | 議会運営委員会 |    |
|               | 108  | 合計      |    |

| 合   | 計   | 定例臨時の別 |     | 会期          | 会議日数 | 議決事件 |    |    |    |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|-----|-----|--------|-----|-------------|------|------|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|---|---|---|---|---|---|
|     |     | 第一回    | 第二回 |             |      | 議案   | 報告 | 認定 | 諮問 | 選挙 | 選任 | 請願 | 陳情 | 決議 | 意見書 |   |   |   |   |   |   |
| 第一回 | 第一回 | 第一回    | 第二回 | 三月十七日～三月十九日 | 三    | 一    | 四  | 四  | 二  | 一  | 四  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第二回 | 第二回 | 第三回    | 第四回 | 七月七日～七月十日   | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第三回 | 第三回 | 第一回    | 第二回 | 七月七日～七月十日   | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第四回 | 第四回 | 第一回    | 第二回 | 八月三十一日      | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第一回 | 第一回 | 第一回    | 第二回 | 一月二十五日      | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第二回 | 第二回 | 第一回    | 第二回 | 一月二十五日      | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第三回 | 第三回 | 第一回    | 第二回 | 一月二十五日      | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 第四回 | 第四回 | 第一回    | 第二回 | 一月二十五日      | 一    | 二    | 二  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |   |
| 合計  | 合計  | 合計     | 合計  | 合計          | 二〇   | 三    | 一  | 四  | 四  | 二  | 一  | 四  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
|     |     |        |     |             | 五七   | 一    | 四  | 三  | 一  | 九  | 四  | 三  | 一  | 二  | 二   | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
|     |     |        |     |             | 五三   | 一    | 三  | 一  | 二  | 二  | 三  | 二  | 一  | 二  | 二   | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 | 二 |
|     |     |        |     |             | 六    |      |    |    | 六  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 二    |      |    |    | 一  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 二    |      |    |    | 一  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 一    |      |    |    | 一  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 一一   | 三    | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一  | 一   | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 | 一 |
|     |     |        |     |             | 一    |      |    |    | 一  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 二    | 一    |    |    | 一  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 二    |      |    |    | 一  |    |    |    |    |    |     |   |   |   |   |   |   |
|     |     |        |     |             | 一三七  | 三    | 一  | 四  | 四  | 二  | 六  | 三  | 二  | 八  | 五   | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 | 五 |

昭和四十五年度滝川市議会日数・議決議案件数調







二六号 山尾 秀次(一の坂町) 一  
第四回表彰(昭和五十四年四月二十八日交付)

二七号 前田 春市(江部乙町) 二八号 社内 与造(東滝川)  
二九号 太田 盛夫(大町) 三〇号 西村ケイ子(花月町)

## 第五節 市・町長選挙

昭和二十二年四月五日に町村長公選が初めて施行された。この日には道長官(知事)公選も行われているが、この後からの町村長公選は町村議会議員選挙と同日に行われるようになり、知事と道議を同日に選挙することになった。

### 1 滝川町・市長選挙

#### 第一回町長選挙

昭和二十二年四月五日執行の滝川町長選挙には三名の立候補があり、次のとおりとなった。

|    |                    |    |        |
|----|--------------------|----|--------|
| 当選 | 神部 俊郎(滝川化学会社社員)    | 得票 | 四、四六八票 |
| 次点 | 太田 信吉(滝川農協組合長)     |    | 二、九九八票 |
|    | 奥山 与作(臨時町長代理者、製菓業) |    | 一、二四四票 |

#### 第二回町長選挙

昭和二十六年四月二十三日第二回の町長選挙が行われたが、前町長神部俊郎の実績がかわれ対抗出馬のないままに無投票で町長の座についた。

#### 第三回町長選挙

昭和三十年四月三十日執行の町長選挙には三選を目ざす神部俊郎を阻むため、革新系立候補の滝川農業協同組合

長樋口隆治が対抗することになった。農村地帯をバックとした樋口候補の勢力は盛り上がり、両者伯仲のうちに選挙戦を行い開票の結果は左のとおり開票終結まで当落がわからなかった。

|    |            |    |        |
|----|------------|----|--------|
| 当選 | 神部 俊郎(四七歳) | 得票 | 六、三七八票 |
| 次点 | 樋口 隆治(六一歳) |    | 六、一七〇票 |

選挙当日の有権者数一万三、九六三、投票数一万二、六五八、無効投票数一二〇、投票率九〇・六五パーセントであった。

なお神部町長は任期中に滝川町を市とする運動を展開し、初代の市長となった。

#### 第一回市長選挙

昭和三十三年七月一日市制施行があつて、最初の市長選挙は昭和三十四年四月三十日に執行された。

立候補は保守系佐久間貞江(元滝川第一小学校長、前道議会議員)に対し、革新系は宮田秀雄(前滝川第一小学校長)を押立て、激しい選挙戦であったが、開票の結果は次のとおり佐久間貞江が当選した。

|    |             |        |     |
|----|-------------|--------|-----|
| 当選 | 佐久間 貞江(無所属) | 八、五四七票 | 六四歳 |
| 次点 | 宮田 秀雄(無所属)  | 七、六六二票 | 五四歳 |

なお選挙当日の有権者数は一萬七、七三四、投票者数一萬六、二九八、無効投票数八七、投票率九一・九〇パーセントであった。

#### 第二回市長選挙

昭和三十八年四月三十日執行の選挙には保守系佐久間貞江の再選立候補に対し、革新系は森秀一郎(森医院院長)を立てたが、開票の結果は次のとおり佐久間貞江の圧勝となった。

|    |                |         |
|----|----------------|---------|
| 当選 | 佐久間 貞江(無所属六八歳) | 一〇、九二四票 |
| 次点 | 森 秀一郎(無所属四六歳)  | 七、四四九票  |

なお選挙当日の有権者数は二万一、〇三四、投票者数一万八、六四

一、投票率八八・六二パーセントで、投票率は意外に低い選挙であった。

第三回市長選挙

昭和四十二年四月二十八日執行の市長選挙は保守系佐久間貞江が三選出馬し、これに対し革新系は金子一男(新空知新聞経営者)が立候補して保革一騎打となった。開票の結果は次のとおり。

|    |         |     |     |      |        |
|----|---------|-----|-----|------|--------|
| 当選 | 佐久間 貞 江 | 無所属 | 七二歳 | 一の坂町 | 一三、〇三〇 |
| 得票 |         |     |     |      |        |
| 次点 | 金子 一 男  | 無所属 | 五二歳 | 柴町   | 六、六四一  |

なお投票率は八九・七七パーセントであった。

2 江部乙村・町長選挙

第一回村長選挙

昭和二十二年四月五日執行の第一回村長公選の開票結果、次のとおり当選者は高桑又一となった。

|    |         |           |
|----|---------|-----------|
| 当選 | 高 桑 又 一 | (元村議・旅館業) |
|    | 五郎島 慶 一 |           |

第二回村長選挙

昭和二十六年四月二十三日執行の村長選挙の結果は次のとおりである。

|    |         |                |
|----|---------|----------------|
| 当選 | 松 儀 一 男 | (元村議・元農業会長・農業) |
|    | 宮崎 定 由  | (江部乙町森林組合理事長)  |
|    | 高 桑 又 一 | (前村長)          |

第三回町長選挙

昭和三十年四月三十日執行の町長選挙は、江部乙町制施行後初めての町長選挙

|    |         |
|----|---------|
| 当選 | 高 桑 又 一 |
|    | 松 儀 一 男 |

鞍田 武夫(元村長・前教育長)

第四回町長選挙

昭和三十四年四月三十日執行の町長選挙には前町長高桑又一の再選、通算三選目を目指す立候補に対し、公選前まで村長の鞍田武夫が対抗出馬をして、激しい選挙戦を展開し、開票の結果次のとおりとなった。

|    |         |     |        |
|----|---------|-----|--------|
| 当選 | 高 桑 又 一 | 無所属 | 二、五九〇票 |
|    | 鞍 田 武 夫 | 無所属 | 二、二八四票 |

第五回町長選挙

昭和三十八年四月三十日執行の町長選挙には通算四選を目指す高桑又一に対抗して、食糧事務所検査部長退職の伊藤等が立候補した。開票の結果二百票の差で新人伊藤等が当選した。

|    |         |     |     |        |
|----|---------|-----|-----|--------|
| 当選 | 伊 藤 等   | 五七歳 | 無所属 | 二、五二九票 |
| 次点 | 高 桑 又 一 | 六三歳 | 無所属 | 二、三二九票 |

第六回町長選挙

昭和四十二年四月二十八日執行の町長選挙には再選を目指す伊藤等に対し、無所属無職の白井義英が立候補したが開票の結果、伊藤等が圧勝の当選となった。

|    |         |     |     |        |
|----|---------|-----|-----|--------|
| 当選 | 伊 藤 等   | 六一歳 | 無所属 | 三、三一一票 |
| 次点 | 白 井 義 英 | 六〇歳 | 無所属 | 一、三二〇票 |

注 各回の有権者数、投票率等は町議会議員選挙の項に記載済。

3 新市・滝川市長選挙

新市第一回市長選挙

滝川市・江部乙町合併に伴う最初の市長選挙は昭和四十六年四月二十五日に執行された。

保守系は元滝川市助役で前浦臼町長の無所属吉岡清栄を立て、革

新系は旧滝川市議會議員三期で四十四年四月から副議長の南義夫（国鉄職員）を立候補させ激しい選挙戦を展開した。

開票の結果は次のとおり吉岡清栄の圧勝に終わった。

|    |       |     |     |    |        |
|----|-------|-----|-----|----|--------|
| 当選 | 吉岡 清栄 | 無所属 | 五二歳 | 得票 | 一六、五七九 |
| 次点 | 南 義夫  | 無所属 | 四四歳 |    | 一〇、五五六 |

選挙当日の有権者数三万一、〇六七、投票者数二万七、四七〇、投票率は八八・四二パーセントであった。

**新市第二回市長選挙** 昭和五十年四月二十七日執行の市長選挙

には再選出馬の吉岡清栄に対し、対抗立候補が出ないのではないかと思われたが、共産党が三川いさお（会社員）を立て選挙戦となった。

開票の結果は次のとおり吉岡清栄の圧勝であった。

|    |       |     |     |    |        |
|----|-------|-----|-----|----|--------|
| 当選 | 吉岡 清栄 | 無所属 | 五六歳 | 得票 | 二一、三〇一 |
| 次点 | 三川いさお | 共産党 | 三六歳 |    | 四、九三三  |

選挙当日の有権者数三万二、三四四、投票者数二万八、二八八、棄権者数四、〇五六、投票率八七・四六パーセントであった。

**新市第三回市長選挙** 昭和五十四年四月二十二日が市長選挙投票日であるが、これに向かつて立候補は三選出馬の吉岡清栄が届出

を済ませ、対抗馬の革新系推せん候補もなく、前回は「選挙民の洗礼を受けなければ、政治姿勢が独善的になる」として、届出期限直前に立候補者を出した共産党からも立候補がなかったので、吉岡清栄の無競争当選となった。

## 第六節 道会・道議會議員選挙

北海道は拓殖途上にあつたので、本州府県なみの地方自治制度が許されず、明治十五、六年ごろから自由民権運動が頭をもたげてきたが無視され、二十年代においても道民租税の負担は府県と同一でなく、その全部又は幾分かが免除されている理由で郡制・市制も施行されず、道制・道会規則さえ施行されなかった。

明治二十七、八年の日清戦争を契機として北海道の発展が目覚ましく道会開設の運動もあり、府県資本の進出で各種産業も飛躍的に発展してきた。政府もこれに対応して三十四年度以降一〇カ年の計画を進め、関係予算を議会に提出することになり、法令案の整備を進めて、三十四年二月第十五議会に北海道会法を提出した。

道民が多年の要望であつた北海道会法と北海道地方費法が明治三十四年三月二十八日法律第二号及び第三号をもって公布され、同月三十一日勅令第十七号をもって北海道議會議員選挙令も公布されて、四月一日から施行された。

**第一期総選挙** 道議會議員の選挙は明治三十四年八月十日三区一

八支庁管内で第一回が執行された。議員定数は三五名で、立候補は六九人と二倍の競争率に上がった。空知支庁管内は定員四名で、候補者七名が激烈な戦いとなり開票の結果は次のとおりであった。

| 選挙区           | 有権者数 | 候補者 |              |            |               |            |
|---------------|------|-----|--------------|------------|---------------|------------|
|               |      | 当落  | 氏名           | 得票         | 得票            |            |
| 空知支庁<br>一、七一一 |      | 当選  | 東武<br>石黒長平   | 三五二<br>二七二 | 田中清輔<br>助川貞二郎 | 二二四<br>二二三 |
|               |      | 落選  | 泉麟太郎<br>上野勘助 | 一五二<br>一四一 | 藤田覚治          | 一三一        |

初の会議は臨時会で十月二十一日開会、二十四日閉会した。

**第二期総選挙**

第二回目の選挙は日露戦争中の明治三十七年八月十日三区一六支庁管内で執行された。道民は大陸の戦況に心を奪われ選挙は低調だったといわれ、定員三五名に五〇名の立候補があり空知管内は左の結果となった。

| 選挙区           | 有権者数 | 候補者 |             |            |              |            |
|---------------|------|-----|-------------|------------|--------------|------------|
|               |      | 当落  | 氏名          | 得票         | 得票           |            |
| 空知支庁<br>四、〇四九 |      | 当選  | 東武<br>助川貞二郎 | 三九四<br>三二八 | 泉麟太郎<br>土居勝郎 | 二七六<br>二四八 |
|               |      | 落選  | 藤田覚治        | 二三四        | 上野勘助         | 二三三        |

**第三期総選挙**

明治四十年八月十日三区一六支庁管内で執行された。戦後の好況と翌年五月に衆議院議員選挙を控え、その前哨戦として定員三五名に六八名(途中六名辞退)の激しさであった。空知管内では前期まで首位当選の東と前期の泉は中央政界に乗り出すため立候補しなかった。第三期選挙は次のとおりである。

| 選挙区          | 有権者数 | 候補者 |       |     |    |
|--------------|------|-----|-------|-----|----|
|              |      | 当落  | 氏名    | 得票  | 得票 |
| 土居勝郎<br>一五八四 |      | 当選  | 助川貞二郎 | 四七二 |    |
|              |      | 落選  | 氏名    | 得票  | 得票 |

| 空知支庁<br>三、七五一 | 候補者          |               |
|---------------|--------------|---------------|
|               | 当選           | 落選            |
|               | 佐藤政三<br>一五六八 | 松実喜代太<br>一四六七 |

**第四期総選挙**

第一期時の北海道人口は二〇二万一、八九二人であったが、この四期時には一六一万五四五人に増加し、有権者も一万二、六三五人から二倍の二万四、八四〇人に増加していたが、定員は三五名で空知も四名と変わっていない。全立候補は五二名と低調であった。

| 選挙区           | 有権者数 | 候補者 |               |            |               |            |
|---------------|------|-----|---------------|------------|---------------|------------|
|               |      | 当落  | 氏名            | 得票         | 得票            |            |
| 空知支庁<br>三、五八三 |      | 当選  | 上野勘助<br>助川貞二郎 | 九九八<br>五四一 | 松実喜代太<br>板坂金吾 | 六〇九<br>二六三 |
|               |      | 落選  | 佐藤政三          | 二五九        |               |            |



三浦庄作

明治四十四年十一月九日助川貞二郎が議員を辞退したので、その補欠選挙が大正元年八月に施行され、三浦庄作が政友会派の援助を得て当選した。これが滝川町から道会議員の出た最初である。

**第五期総選挙**

大正二年八月十日三区一四支庁管内で総選挙が執行された。道議有権者も三四、九六八人となり、前期に比して一万人以上も増えたので七名の定員増として四二名となったが、空知支庁管内定員は従前どおりの四名であった。

|      |       |                            |                            |            |                           |            |
|------|-------|----------------------------|----------------------------|------------|---------------------------|------------|
| 選挙区  | 有権者数  | 候補者                        |                            |            |                           |            |
| 空知支庁 | 五、〇四三 | 当落                         | 氏名                         | 得票         | 氏名                        | 得票         |
|      |       | 落選                         | 当選                         |            |                           |            |
|      |       | 新党<br>西村 直一<br>政友<br>岡村 三治 | 新党<br>上野 勘助<br>政友<br>松実喜代太 | 七一九<br>六五八 | 政友<br>植田 卓<br>新党<br>植田重太郎 | 五九三<br>五六二 |
|      |       | 四一二                        | 五五二                        | 坂野 小六      | 二三一                       |            |

大正元年度の滝川町の道会議員選挙有権者数は次のとおりであり選挙もおよそ穏かなものであったと思われる(注 除旧江部乙町)。

|              |              |     |
|--------------|--------------|-----|
| 選挙権を有する者     | 被選挙権を有する者    | 計   |
| 直接国税三月以上納める者 | 土地四町歩以上を有する者 | 計   |
| 七四           | 八一           | 二二五 |
| 以上二種を兼ねたる者   | 以上二種を兼ねたる者   | 計   |
| 九〇           | 九            | 一〇五 |

大正三年九月、道会議員上野勘助死亡による補欠選挙が施行され五十嵐太郎吉が当選した。滝川町在住二人目の補選当選者である。

#### 第六期総選挙

大正五年八月十日、四区一六支庁管内で施行され、今まで任期が三カ年であったものを府県なみの四カ年となった。空知支庁管内は後志と同様に定員は四名であるが、有権者数は一、六六七人も多い大栗田地区であった。したがって空知支庁管内の最高得票は道議中での最高得点となるほどである。

#### 第七期総選挙

第一次欧州大戦後の反動的な不況時代の

大正九年八月十日に六区一四支庁管内で、第七回の選挙となった。人口増加に伴い一〇名増の五二名定員となり、空知支庁管内では四名から七名の定員となった。滝川から神部為蔵と今興太郎が立候補した。

|      |       |              |                            |              |                              |            |
|------|-------|--------------|----------------------------|--------------|------------------------------|------------|
| 選挙区  | 有権者数  | 候補者          |                            |              |                              |            |
| 空知支庁 | 四、八五七 | 当落           | 氏名                         | 得票           | 氏名                           | 得票         |
|      |       | 落選           | 当選                         |              |                              |            |
|      |       | 同志会<br>助川貞二郎 | 中立<br>石黒 長平<br>中山<br>山田勢太郎 | 一、一六四<br>八五二 | 同志会<br>植田重太郎<br>政友会<br>松実喜代太 | 八三五<br>七一一 |

|      |    |      |                              |                                                             |                          |                                              |                   |
|------|----|------|------------------------------|-------------------------------------------------------------|--------------------------|----------------------------------------------|-------------------|
| 選挙区  | 定員 | 有権者数 | 候補者                          |                                                             |                          |                                              |                   |
| 空知支庁 | 七五 | 六一九  | 当落                           | 氏名                                                          | 得票                       | 氏名                                           | 得票                |
|      |    |      | 落選                           | 当選                                                          |                          |                                              |                   |
|      |    |      | 憲政会<br>川上 和平<br>憲政会<br>山本 市英 | 憲政会<br>植田重太郎<br>憲政会<br>山田勢太郎<br>憲政会<br>神部 為蔵<br>政友会<br>東 英治 | 六八九<br>六八〇<br>六六一<br>四八六 | 政友会<br>石黒 長平<br>政友会<br>岡田 春夫<br>政友会<br>岡村 三治 | 四四九<br>四二七<br>三八八 |
|      |    |      | 三〇四                          | 三六三                                                         | 今興太郎                     | 二一八                                          |                   |

#### 第八期総選挙

大正十三年八月十日、六市一四支庁管内で選挙

が行われたが、有権者が前期より五万七、七〇八人増えて、九万九、〇九五となり定数は人口の増減により異動があった。立候補者も一〇〇名に近く五五の議席を争った。空知管内定員は八名となった。

|      |    |         |    |                                                                    |                                                                |    |                                                |                                                  |
|------|----|---------|----|--------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------|----|------------------------------------------------|--------------------------------------------------|
| 選挙区  | 定員 | 有権者数    | 当落 | 氏名                                                                 | 得票                                                             | 氏名 | 得票                                             |                                                  |
| 空知支庁 | 八  | 八二一、九六九 | 当選 | 政友会 英治 九二八<br>政友会 春夫 八八一<br>憲政会 山本 八四三<br>憲政会 市英 八四三<br>憲政会 深沢 八三九 | 中 北 勝太郎 八一六<br>中 北 向田 幸蔵 七八一<br>憲政会 山田勢太郎 七七九<br>政友会 青木 三哉 七四〇 | 落選 | 小林作太郎 六〇三<br>植西彦次郎 五五三<br>幡 轍 五三三<br>小野与太郎 四九五 | 児島 銀蔵 四七三<br>岡村 三治 四六二<br>高橋 清助 四二八<br>下関寅次郎 二五二 |

第九期総選挙 昭和三年八月十日第九回目の総選挙が行われた。

昭和二年現在の滝川町有権者数は、直接国税を納める者一五二、土地所有する者五、以上二種を兼ねた者三九三、計五五〇で、投票率は七二・八パーセントであった。

|      |    |        |    |                                                                      |                                                                     |    |                                                    |                                |
|------|----|--------|----|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----|----------------------------------------------------|--------------------------------|
| 選挙区  | 定員 | 有権者数   | 当落 | 氏名                                                                   | 得票                                                                  | 氏名 | 得票                                                 |                                |
| 空知支庁 | 八  | 五五、〇七五 | 当選 | 民政 岡田 春夫 四、七八七<br>民政 山本 市英 四、七六九<br>民政 深沢 吉平 四、三二一<br>民政 吉野五郎次 四、一四七 | 政友 辰繁 又一 三、六九八<br>政友 東 英治 三、一九九<br>中 北 児島 銀蔵 三、〇二四<br>中 北 勝太郎 三、〇一五 | 落選 | 政友 深見松太郎 二、二七〇<br>政友 小塩 清一 二、一五四<br>中立 香川 兼吉 一、九〇三 | 民政 高橋 清助 一、七六二<br>無産 木下 源吾 五八〇 |

昭和五年五月二十四日道会議員補欠選挙が行われた。

当選 高橋 清助 一万二、〇一五（滝川五三一）

次点 名 島 武治 一万一五六（二五九）  
第十期総選挙 昭和七年八月十日に総選挙があり、投票率は七八・二パーセントであった。

|      |    |         |    |                                                                      |                                                                     |    |                            |                                |
|------|----|---------|----|----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------|----|----------------------------|--------------------------------|
| 選挙区  | 定員 | 有権者数    | 当落 | 氏名                                                                   | 得票                                                                  | 氏名 | 得票                         |                                |
| 空知支庁 | 八  | 八六一、三六六 | 当選 | 民政 深沢 吉平 五、〇八八<br>民政 高橋 清助 五、〇四一<br>政友 深見松太郎 四、八七一<br>政友 土肥 真成 四、七四三 | 政友 東 英治 四、五四三<br>中 北 勝太郎 四、一三一<br>中 北 児島 銀蔵 四、〇九二<br>中立 吉野五郎次 三、六三九 | 落選 | 村田 要助 三、五七六<br>山田 清彦 三、五二二 | 民政 水野 尚貞 一、七二二<br>中立 山田 四郎 九七一 |



山田 清彦  
昭和九年十月三十日高橋清助の死亡により補欠選挙が施行されて、滝川町の山田清彦（民政）が当選した。  
滝川町有権者二、三三五。

七〇・三パーセントであった。

第十一期総選挙 昭和十一年八月十日総選挙が施行され、投票率は

|      |    |      |    |                                                    |                                                    |    |                |
|------|----|------|----|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|----|----------------|
| 選挙区  | 定員 | 有権者数 | 当落 | 氏名                                                 | 得票                                                 | 氏名 | 得票             |
| 空知支庁 | 八  | 投票数  | 当選 | 政友 村田 兼吉 五、一一五<br>政友 山田 要助 四、八〇九<br>中立 吉野五郎次 四、五五七 | 民政 児島 銀蔵 三、九二五<br>民政 川口 常作 三、六八〇<br>政友 山田 清彦 三、二四三 | 落選 | 政友 深見松太郎 三、一三七 |

|        |                                                                      |
|--------|----------------------------------------------------------------------|
| 四四、三五九 |                                                                      |
| 落選     | 政友 辰繁 又一 二、六一三<br>皇道 吉田 堅治 二、二九三<br>民政 三宅 助弥 一、八八〇<br>民政 吉積 彦平 一、四六四 |
| 当選     | 無産 常磐 房次 一、四三九<br>政友 前川健太郎 九七〇<br>政友 坂東 浩一 七六三                       |

第十二期総選挙

昭和十五年八月十日の総選挙は、日華事變の最中であり非常時という緊迫した世相を反映して、立候補者が著しく多く、激しい選挙戦が行われた。投票率は七七・七パーセントであった。

|             |                                                                                                                      |                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                 |
|-------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 選挙区         | 定員                                                                                                                   | 有権者数                                                                                                                                                                                                                                  | 当落                                                                                                                                                                              |
| 空知支庁        | 八                                                                                                                    |                                                                                                                                                                                                                                       |                                                                                                                                                                                 |
| 落選          | 当選                                                                                                                   | 氏名                                                                                                                                                                                                                                    | 得票                                                                                                                                                                              |
| 沢田 静雄 一、一八八 | 山田 清孝 二、八八一<br>深見松太郎 二、〇五〇<br>定田 信一 一、八七八<br>三宅 助弥 一、四〇四<br>坂東 浩一 一、三四三<br>田中 由忠 一、三二三<br>牧野 善一 一、三〇九<br>沢田 静雄 一、一八八 | 中立 北 政清 五、五五四<br>民政 岡田 春夫 四、〇四三<br>政友 吉野五郎次 四、〇一六<br>政友 村田 要助 三、九二六<br>民政 山田 清孝 二、八八一<br>民政 山田 清孝 二、八八一<br>民政 深見松太郎 二、〇五〇<br>民政 定田 信一 一、八七八<br>民政 三宅 助弥 一、四〇四<br>民政 坂東 浩一 一、三四三<br>民政 田中 由忠 一、三二三<br>民政 牧野 善一 一、三〇九<br>民政 沢田 静雄 一、一八八 | 政友 香川 兼吉 三、五三二<br>民政 児島 銀藏 三、五一〇<br>民政 川口 常作 三、三二一<br>民政 山田 利忠 二、八八二<br>政友 吉田 堅治 一、〇一六<br>久本 久治 九二八<br>菅 舜英 八八八<br>山吹弥太郎 六四六<br>荒 哲夫 四五八<br>大江 芳雄 二九五<br>庵 義太郎 一三一<br>長尾 信幸 一〇二 |

第十三期総選挙

昭和二十二年四月三十日、終戦後初めての道議会議員選挙を執行した。婦人参政権が認められ、有権者数は倍増し定員も空知支庁管内一名となった。

第三章 選挙

|                                                                                                    |                                                                                                      |                                                                                 |
|----------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 選挙区                                                                                                | 定員                                                                                                   | 当落                                                                              |
| 空知支庁                                                                                               | 一一                                                                                                   |                                                                                 |
| 落選                                                                                                 | 当選                                                                                                   | 氏名                                                                              |
| 社 加藤 節男 四、三二八<br>無 西道 慶作 四、七一四<br>社 柳沢正四郎 四、八九五<br>民 塩田 義蔵 五、四二六<br>民 川原 政一 六、一四二<br>無 川原 政一 七、一四二 | 無 佐久間貞江 一九、七〇一<br>無 土井 千海 一六、〇一八<br>農 山田 利忠 一〇、四三〇<br>社 荒 哲夫 九、四四八<br>社 西村 武夫 九、四四八<br>国 宮北三七郎 九、一六七 | 無 坂東 浩一 九、一五一<br>無 後藤三男八 九、〇三二<br>無 山田 清孝 七、九〇四<br>社 原野 米作 七、七〇一<br>川口 常一 七、二〇七 |

第十四期総選挙

昭和二十六年四月三十日の総選挙は道内一五市一四支庁管内で執行された。定員は九三名で立候補は、二〇七名であった。空知支庁管内においては岩見沢市、美唄市、夕張市が単独選挙区となり、管内町村区定員一二名の激しい選挙戦となった。

|                                                                                                                   |                                                                                                                |                            |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------|
| 選挙区                                                                                                               | 定員                                                                                                             | 当落                         |
| 空知支庁                                                                                                              | 一二                                                                                                             |                            |
| 当選                                                                                                                | 氏名                                                                                                             | 得票                         |
| 農協党 宮北三七郎 一三、七四〇<br>農協党 池田 信孝 一三、一七一<br>社会党 中野 定敏 一二、二二七<br>無 土山宇三郎 一二、一五七<br>農協党 岡田千代蔵 一一、七八二<br>民主 西田 正一 一一、五九〇 | 農協党 池戸 芳一 一一、一三三<br>無 原田伊曾八 一〇、六六四<br>農協党 土井 千海 一〇、二三〇<br>社会党 和平 千治 九、二七一<br>社会党 神原 啓量 八、九二六<br>社会党 荒 哲夫 八、三三三 | 佐久間貞江 七、五六一<br>川口 常一 七、四九三 |

| 落選    |       | 得票    |       |
|-------|-------|-------|-------|
| 田上 豊蔵 | 七、一一九 | 山田 清孝 | 四、四〇〇 |
| 平島 文雄 | 六、五五一 | 原野 米作 | 四、三二四 |
| 川原 政一 | 五、三九二 | 柳沢正四郎 | 四、二二五 |
| 十二村吉辰 | 五、三四一 | 尾上金治郎 | 四、一二八 |
| 西道 慶作 | 四、八八九 | 後藤三男八 | 三、四八九 |
| 吉野幸太郎 | 四、七〇三 | 佐藤 吉蔵 | 二、一五〇 |
| 三橋 喜作 | 四、四八八 | 川口 武夫 | 一、四八六 |

土井干海が死亡したことにより補欠選挙を昭和二十七年十月五日に執行して、佐久間貞江が当選した。

| 当選     |         | 得票  |  |
|--------|---------|-----|--|
| 佐久間 貞江 | 五万 九〇六票 | 自由党 |  |
| 津川 直一  | 四万二、五二六 | 協同党 |  |
| 佐藤 吉蔵  | 四万六、二六一 | 左社  |  |
| 柳沢 正四郎 | 一万五、四八三 | 改進黨 |  |

**第十五期総選挙** 昭和三十年四月二十三日執行の道議会議員選挙は定員九三名に対し一九七名が立候補した。空知支庁選挙区からはさきの夕張・岩見沢・美唄に続いて芦別・赤平の各市が単独区となり、定員九名となった。

| 選挙区   |        | 定員    |        | 当落    |        | 候補者   |        |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| 空知支庁  |        | 九     |        | 当選    |        | 落選    |        |
| 氏名    | 得票     | 氏名    | 得票     | 氏名    | 得票     | 氏名    | 得票     |
| 津川 直一 | 一六、七五四 | 児見山増夫 | 一四、九七三 | 池田 信孝 | 一一、八二六 | 池田 信孝 | 七、〇五二  |
| 荒 哲夫  | 一五、七〇三 | 和平 千治 | 一三、一五八 | 原田伊曾八 | 一〇、五一九 | 原田伊曾八 | 一〇、〇八六 |
| 中野 定敏 | 一五、三三二 | 川口 常一 | 一二、五二五 | 池田 信孝 | 一一、八二六 | 池田 信孝 | 七、〇五二  |
| 佐久間貞江 | 一五、二二九 | 中野 与作 | 一一、九四八 | 池田 信孝 | 一一、八二六 | 池田 信孝 | 七、〇五二  |
| 宮北三七郎 | 一五、〇九八 |       |        | 池田 信孝 | 一一、八二六 | 池田 信孝 | 七、〇五二  |

**第十六期総選挙** 昭和三十四年四月二十三日に総選挙が行われた。定員は八名となった。

( ) 内は滝川町投票数

| 選挙区   |          | 定員    |          | 当落    |          | 候補者   |          |
|-------|----------|-------|----------|-------|----------|-------|----------|
| 空知支庁  |          | 八     |          | 当選    |          | 落選    |          |
| 氏名    | 得票       | 氏名    | 得票       | 氏名    | 得票       | 氏名    | 得票       |
| 中野 与作 | 二二、三六八   | 神部 俊郎 | 二〇、九七〇   | 北 修二  | 二一、五六九   | 柳沢正四郎 | 八、八六二    |
| 哲夫    | (二一、九三八) | 原田伊曾八 | (二〇、五二一) | 津川 直一 | (一六、二九九) | 川口 常一 | (一五、三四八) |
| 山田 勲  | (一六、二九六) | 池田 信孝 | (一五、九一六) | 山田 勲  | (一六、二九六) | 池田 信孝 | (一五、九一六) |

**第十七期総選挙** 昭和三十八年四月十七日執行の総選挙は滝川市が単独選挙区となり、定員一名を争うことになった。

道議会議員立候補に当たり、自民党神部俊郎(前滝川市長)と社会党米山三郎(前市議会副議長)の二候補によって選挙戦を展開した。有権者総数二万九二八人、投票総数一万七、〇九八人で投票率は八一・七パーセントであった。

| 当選    |         | 得票 |  |
|-------|---------|----|--|
| 神部 俊郎 | 一万 五七三票 |    |  |
| 米山 三郎 | 六、四一票   |    |  |

江部乙町にあっては選挙区が空知支庁管内で次のとおりである。

| 選挙区   |        | 定員    |        | 当落    |        | 候補者   |        |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|-------|--------|
| 氏名    | 得票     | 氏名    | 得票     | 氏名    | 得票     | 氏名    | 得票     |
| 川口 常一 | 二九、六九〇 | 池田 信孝 | 一八、四二九 | 川口 常一 | 二九、六九〇 | 池田 信孝 | 一八、四二九 |

| 空知支庁       |                          | 六           |                            |
|------------|--------------------------|-------------|----------------------------|
| 落選         | 当選                       | 落選          | 当選                         |
| 社会<br>伊藤 充 | 自民<br>島田 薫<br>社会<br>山田 勲 | 社会<br>中野 与作 | 自民<br>津川 直一<br>自民<br>原田伊曾八 |
| 一、四七六      | 一六、四四八<br>一五、四九七         | 一二、五四四      | 一四、〇六五<br>一三、六七八           |
|            |                          | 社会<br>松原作次郎 |                            |
|            |                          |             | 八二四                        |

第十八期総選挙

昭和四十二年四月十五日執行の滝川市にお

ける道議会議員選挙は再選をねらう神部俊郎に対し、革新系は前市議会副議長大和田実を立起させた。有権者二万三、一〇四人、投票者一万八、七二人、投票率八一・〇三パーセントであった。

当選 神部 俊郎 一万 五七九票  
大和田 実 八、〇〇四票

江部乙町においては次のとおりである。( )内が江部乙の投票数。

| 空知支庁            |                                    | 四                |                                    |
|-----------------|------------------------------------|------------------|------------------------------------|
| 落選              | 当選                                 | 落選               | 当選                                 |
| 社会<br>藤井 虎雄     | 自民<br>津川 直一<br>自民<br>島田 薫          | 自民<br>川口 常一      | 自民<br>津川 直一<br>自民<br>島田 薫          |
| 一八、三四五<br>(六九〇) | 二〇、九一三<br>(八一三)<br>二〇、五五三<br>(一三〇) | 一八、六二二<br>(一一五五) | 二〇、九一三<br>(八一三)<br>二〇、五五三<br>(一三〇) |
| 共産<br>野田 玄童     | 社会<br>山田 勲                         | 自民<br>川口 常一      | 自民<br>津川 直一<br>自民<br>島田 薫          |
| 一、七四〇<br>(六五)   | 一八、四二六<br>(三四七)                    | 一八、六二二<br>(一一五五) | 二〇、九一三<br>(八一三)<br>二〇、五五三<br>(一三〇) |

第十九期総選挙

昭和四十六年四月十一日執行の道議会議員選

挙は滝川市・江部乙町合併による新市となっているが、従前のおり投票された。旧滝川市選挙区においては三選出馬の神部俊郎に対して、社会党公認大和田実が前回の雪辱をかけて再出馬した。さらに共産党公認三川勲が立起して一議席を争った。

当選 神部 俊郎 一万一、一七一票 自民党  
得票 三川 勲 一、七四〇票 共産党

第三章 選挙

選挙当日の有権者数(滝川地区)二万六、一五五人、投票者数二万  
一、三九三人、投票率八一・九三パーセントであった。  
江部乙地区の選挙は次のとおりである。

| 空知支庁           |                                      | 四               |                                      |
|----------------|--------------------------------------|-----------------|--------------------------------------|
| 落選             | 当選                                   | 落選              | 当選                                   |
| 共産<br>野田 玄童    | 自民<br>川口 常一<br>社会<br>津川 直一           | 自民<br>島田 薫      | 自民<br>津川 直一<br>社会<br>藤井 虎雄           |
| 三、三七一<br>(二四八) | 二二、一〇七<br>(一、〇六九)<br>二二、二〇四<br>(九五二) | 二〇、九〇五<br>(七三九) | 二二、一〇七<br>(一、〇六九)<br>二二、二〇四<br>(九五二) |

選挙当日の有権者数四、九一六人、投票者数四、〇六三人、投票率は八二・六五パーセントであった。

第二十期総選挙

昭和五十年四月十三日執行の道議選挙には自

民党は寺崎政朝、社会党は深田義勝、共産党は岡田定之を立候補させ選挙戦を展開させた。この開票の結果は次のとおりである。

当選 寺崎 政朝 一万四、四五七票 自民党  
深田 義勝 一万二、一九一票 社会党  
岡田 定之 一、三三七票 共産党

選挙当日の有権者数三万二、四〇一、投票者数二万八、二五三、投票率は八七・二パーセントであった。

第二十一期総選挙

昭和五十四年四月八日の道議会議員選挙は

第二十一回目の総選挙に当たる。再選を目指す寺崎政朝に対し、無所属で立候補した深田義勝は前回の雪辱をはかるため革新系支援の

もとに善戦したが、開票の結果僅少の差で寺崎政朝の当選となった。

当選 寺崎政朝 一万四、六五四票 自由民主党  
深田義勝 一万四、四二四票 無所属

選挙当日の有権者数三万四、一三〇、投票者数二万九、三八〇、投票率は八六・〇八パーセントであった。

### 第七節 知事選挙

終戦後知事公選が施行されることになった。

#### 第一回知事選挙

昭和二十二年四月五日の知事選挙には六名の立候補があった。道庁職員組合が推せんした林務課の一係長であった三八歳の道職員組合執行委員長の田中敏文を知事候補として、社会党・労働組合が支援した。これに対し民主党は北大病院長有馬英二を立て、元小樽高等商業学校長苔米地英俊その他により争われた。開票の結果は

三万八千四、八三〇 田中 敏文 社会 一二万三、五一〇 長谷 長次 無  
三〇万四、五二四 有馬 英二 民主 三万五、七八三 岩佐 励 日民  
二万五九、一二六 苔米地英俊 中立 一万一、二八六 佐藤 菊藏 無

となった。有権者総数一七六万九、九一六、投票総数一一九万六、三八〇でいずれも法定得票に達せず、さらに田中敏文と有馬英二との間に決戦投票を行うことになって四月十六日に行われた。

当選 田中敏文 五万五、八、一六七票  
次点 有馬英二 四万七、四、四二四票

#### 第二回知事選挙

昭和二十六年四月三十日執行には前知事田中敏文が再選を目指して立候補したのに対し、保守系は政財界に知名度の高い黒沢西蔵(自由・民主推せん)を立起させ、一騎打の激戦が展開された。開票の結果は次のとおりである。

当選 田中敏文 九一万四、七六四票 社会党  
次点 黒沢西蔵 七万七、四二一票 自由党

#### 第三回知事選挙

昭和三十年四月二十三日執行の知事選挙は三選出馬の田中敏文に対し、前副知事西川三次が立候補した。

当選 田中敏文 一、一五万一、一九四票 社会党  
次点 西川三次 六万四、八、二二三票 自民党推薦

#### 第四回知事選挙

昭和三十四年四月二十三日執行の知事選挙には田中敏文の引退に伴い、自民党は今期に必勝を期して衆議院議員町村金五を出馬させた。これに対抗して社会党は同じく衆議院議員の横路節雄を推し、両者間で激しい攻防戦を展開した。

当選 町村金五 一、〇八万七、二九六(八、一六一) 自民  
次点 横路節雄 九万五、九、三八一(七、〇六〇) 社会  
小田俊与 一万三、二一八(八一) 諸派

#### 第五回知事選挙

昭和三十八年四月十七日執行の知事選挙には再選を期す町村金五に対し、前道議会議長荒哲夫を立て奪回をはかった。開票の結果は次のとおりであった。

当選 町村金五 一三九万三、三五二(一、五七) 江部乙町分 自民  
荒哲夫 七五万三、四八〇(六、七一五) (一、四九二) 社会  
西館仁 三万四、〇六四(一一八) (二二) 共産  
前川一水 一万二、二二八(五四) (二〇) 無

### 第六回知事選挙

昭和四十二年四月十五日執行の知事選挙は三選立候補町村金五に対し、社会党候補は党道開発委員長塚田庄平を立て、無所属佐藤剛二(新聞経営者)も立候補した。

開票の結果は次のとおりである。

|    |      |   |           |         |         |       |    |
|----|------|---|-----------|---------|---------|-------|----|
| 当選 | 町村金  | 五 | 一四二万四、五三二 | 滝川市分    | 江部乙町分   | 三、〇一九 | 自民 |
|    | 塚田庄平 | 八 | 九万三、五五五   | 七、二二五   | (一、一五三) | 社会    |    |
|    | 佐藤剛二 | 一 | 万七、四四〇    | (一、〇三三) | 三五      | 無     |    |

### 第七回知事選挙

昭和四十六年四月十一日執行の知事選挙は町村金五に変わって自民党は道開発局長堂垣内尚弘を立て、社会党は再度塚田庄平が立候補した。無所属建設業の坂本和と三名によって争われ、開票の結果は次のとおりであった。

|    |       |   |          |      |         |    |
|----|-------|---|----------|------|---------|----|
| 当選 | 堂垣内尚弘 | 一 | 二九万三、六九〇 | 滝川市分 | 自民      |    |
|    | 塚田庄平  | 一 | 二八万      | 四七九  | 一万二、三〇八 | 社会 |
|    | 坂本和   | 三 | 万四、〇九二   | 二二六  | 無       |    |

### 第八回知事選挙

昭和五十年四月十三日執行の選挙は再出馬の堂垣内尚弘に対し、前旭川市長の五十嵐広三(団体役員)が対抗して一騎打の結果は次のとおりであった。

|    |       |   |          |         |     |
|----|-------|---|----------|---------|-----|
| 当選 | 堂垣内尚弘 | 一 | 六二万八、八三八 | 滝川市分    | 無所属 |
|    | 五十嵐広三 | 一 | 三二万四、一九七 | 一万二、八二二 | 無所属 |

### 第九回知事選挙

昭和五十四年四月八日執行の選挙には三選出馬の堂垣内尚弘に雪辱をはたすため、再度立候補した五十嵐広三によって激しい選挙戦を展開したが、結果は堂垣内の勝利となった。

|    |       |   |          |      |         |     |
|----|-------|---|----------|------|---------|-----|
| 当選 | 堂垣内尚弘 | 一 | 七三万二、三七四 | 滝川市分 | 無所属     |     |
|    | 五十嵐広三 | 一 | 三一三万     | 二二二  | 一万二、八三九 | 無所属 |

### 第三章 選挙

### 第八節 衆議院議員選挙

明治二十二年二月十一日、大日本帝国憲法が公布され、翌二十三年一月衆議院議員選挙法が公布、同年十一月第一回の帝国議会が召集されたが、北海道からの議員はいなかった。これは北海道は除外区域とされていたのであった。

明治三十三年三月に衆議院議員選挙法が改正され、北海道に六選挙区が置かれることになり、実際に選挙が行われるようになったのは明治三十六年三月からのことである。

大正元年度における衆議院議員選挙の有権者は旧滝川町で九〇人である、と滝川町発展史にあるが、直接国税一〇円以上を納める者でなければ資格がなかった。当時の人口は九、〇五八人であったので、人口一〇〇人に対して一人の有権者という割合であった。

それも地租のみを一〇円以上直接国税として納めている人は一人もなく、地租以外で一〇円以上に達している者ばかり、つまり商業関係者、産物取扱いの多い者、請負業など市街地区に住む者がほとんどであったようである。

### 第十五回総選挙

大正十三年一月七日、清浦奎吾内閣が成立後、特権内閣打破の護憲運動がやかましくなり、ついに一月三十一日議会被解散し、五月十日総選挙が行われた。空知支庁管内は北海道第七区で定員二名であった。この選挙で滝川から初の代議士となった神部為蔵が出た。

| 選挙区           | 定員 | 候補者 |                                |
|---------------|----|-----|--------------------------------|
|               |    | 当落  | 氏名得票政党                         |
| 第七区<br>(空知支庁) | 二  | 当選  | 神部 為蔵<br>松実喜代太<br>一、六八六<br>憲政会 |
|               |    | 落選  | 桜井 良三<br>一、一八五<br>政友本党         |

第十六回総選挙

昭和三年一月二十一日、田中義一内閣により帝国議会解散、二月二十日総選挙が施行された。普通選挙法が実施されて初めての選挙である。滝川町の投票数は一、九四一票、投票率九九・一パーセントであった。議席党派別は政友会二一九、民政党二二七、他三〇、計四六六であった。

| 選挙区 | 定員 | 候補者 |                                                                                                                          |
|-----|----|-----|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|     |    | 当落  | 氏名得票政党                                                                                                                   |
| 第四区 | 五名 | 当選  | 坂谷 順助<br>三、〇〇〇<br>政友前<br>松実喜代太<br>九、六五五<br>政友前<br>岡本 幹輔<br>八、五二一<br>民政元                                                  |
|     |    | 落選  | 手代木隆吉<br>七、三三三<br>民政前<br>岡田 春夫<br>五、四六一<br>民政新<br>山本 市英<br>五、六八六<br>民政新                                                  |
|     |    | 補者  | 檀野 礼助<br>七、九七九<br>政友新<br>神部 為蔵<br>七、三三三<br>民生政<br>木田 茂晴<br>四、三〇〇<br>労農新<br>管 舜英<br>三、九六六<br>中立新<br>石黒 長平<br>三、七〇〇<br>政友元 |

第十七回総選挙

昭和五年一月二十一日浜口雄幸内閣により帝国議会が解散され、二月二十日総選挙が執行された。国内は一月に金輸出解禁が断行され、騒がしい世相であった。民政党二七三、政友会一七四、同志会六、その他一三、計四六六であった。

| 選挙区 | 定員 | 候補者                  |                      |
|-----|----|----------------------|----------------------|
|     |    | 当落                   | 氏名得票政党               |
|     |    | 当落                   | 氏名得票政党               |
|     |    | 手代木隆吉<br>二、六〇二<br>民政 | 板谷 順助<br>二、三三四<br>政友 |

| 第四区 | 五名 | 候補者                                          |                                             |
|-----|----|----------------------------------------------|---------------------------------------------|
|     |    | 当選                                           | 氏名得票政党                                      |
|     |    | 神部 為蔵<br>二、〇七二<br>民政<br>松実喜代太<br>二、〇八三<br>政友 | 岡田 春夫<br>二、〇二五<br>民政                        |
|     |    | 山本 市英<br>八、六四三<br>民政<br>岡本 幹輔<br>七、八〇〇<br>民政 | 管 舜英<br>四、三三三<br>社民<br>木田 茂晴<br>二、七五五<br>労農 |

第十八回総選挙

昭和七年一月二十一日犬養毅内閣のとき帝国議会が解散され、二月二十日総選挙が行われた。この選挙で党派別は政友会三〇三、民政党一四七、その他一六、計四六六であった。

| 選挙区 | 定員 | 候補者 |                                                                      |
|-----|----|-----|----------------------------------------------------------------------|
|     |    | 当落  | 氏名得票政党                                                               |
| 第四区 | 五名 | 当選  | 板谷 順助<br>二、四四九<br>政友<br>松実喜代太<br>二、四八一<br>政友<br>山本 市英<br>二、四六五<br>民政 |
|     |    | 落選  | 岡田 春夫<br>二、〇九〇<br>民政<br>南条 徳男<br>八、八三三<br>政友                         |
|     |    | 補者  | 松尾 孝之<br>二、九四三<br>中立<br>手代木隆吉<br>二、〇四三<br>民政<br>神部 為蔵<br>八、四三三<br>民政 |

第十九回総選挙

昭和十一年一月二十一日、岡田啓介内閣が政友会から不信任案を提出されて議会を解散し、二月十日総選挙が行われた。民政党二〇五、政友会一七四、その他八七、計四六六となつた。

| 選挙区 | 定員 | 候補者 |                                                                      |
|-----|----|-----|----------------------------------------------------------------------|
|     |    | 当落  | 氏名得票政党                                                               |
| 第四区 | 五名 | 当選  | 手代木隆吉<br>七、三三三<br>民政<br>岡田 春夫<br>三、八六六<br>民政<br>南条 徳男<br>二、〇三七<br>政友 |
|     |    | 落選  | 板谷 順助<br>九、〇六六<br>政友                                                 |
|     |    | 補者  | 深沢 吉平<br>九、六三三<br>民政<br>北 勝太郎<br>九、五五三<br>中立                         |

|            |            |            |           |    |
|------------|------------|------------|-----------|----|
| 落選         | 松尾 孝之 一六〇六 | 政友         | 東 英治 四、六一 | 政友 |
| 山本 市英 五、六四 | 政友         | 松実喜代太 四、三三 | 政友        |    |

第二十回総選挙 昭和十二年三月三十一日林銑十郎内閣によつて議会が解散され、四月二十九日総選挙が行われた。

| 選挙区 | 定員 | 候補者        |            |
|-----|----|------------|------------|
|     |    | 当落         | 補者         |
| 第四区 | 当選 | 赤松 克麿 一、五九 | 岡田 春夫 九、五三 |
|     |    | 手代木隆吉 四、四二 | 南条 徳男 八、〇八 |
| 第五名 | 落選 | 岡本 幹輔      | 松尾 孝之      |
|     |    | 深沢 吉平      | 英治         |
| 第五名 | 落選 | 山本 市英      | 東 英治       |
|     |    | 民政         | 政友         |

民政一七九、政友一七五、社大三七、その他七五、計四六六。

第二十一回総選挙 昭和十七年四月三十日、戦時色が濃く東条英機内閣のもと各政党は解散しいわゆる翼賛選挙が行われた。

| 選挙区 | 定員 | 候補者        |            |
|-----|----|------------|------------|
|     |    | 当落         | 補者         |
| 第四区 | 当選 | 星野靖之助 一、〇三 | 深沢 吉平 一、八八 |
|     |    | 手代木隆吉 一、三五 | 北 勝太郎 三、六九 |
| 第五名 | 落選 | 村田 要助 三、〇五 | 赤松 克麿 四、一〇 |
|     |    | 下沢 秀夫 七、五五 | 松尾 孝之 二、三三 |
| 第五名 | 落選 | 橘 富士松 七、〇八 | 山本 市英 九、〇八 |
|     |    | 推非         | 推非         |

第二十二回総選挙 昭二十一年四月十日、終戦後初の総選挙で

新選挙法公布になって婦人参政権が認められた第一回の選挙であ

る。

北海道は一区と二区の二選挙区に分れたため、滝川が含まれる第一区の定員は一四名で、候補者は七一名に達した。

| 選挙区        | 定員 | 候補者        |            |
|------------|----|------------|------------|
|            |    | 当落         | 補者         |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 有馬 英二 一、六四 | 地崎宇三郎 五、八七 |
|            |    | 北 勝太郎 八、六一 | 北 政清 五、三三  |
| 当選         | 補者 | 新妻 イト 六、三三 | 椎熊 三郎 四、五三 |
|            |    | 平塚常次郎 六、四四 | 東 隆 四、九〇   |
| 落選         | 補者 | 浦口 鉄男 一、五五 | 小笠原政信 四、五三 |
|            |    | 和泉 盛 一、二五  | 柄沢とし子 四、五三 |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 富永格五郎 三、七五 | 宮岸十次郎 九、〇六 |
|            |    | 三谷栄次郎 三、七三 | 館 俊三 八、四〇  |
| 落選         | 補者 | 橋 富士雄 三、四二 | 徳中 祐満 八、六九 |
|            |    | 山本 市英 三、九八 | 志賀 学而 七、八〇 |
| 当選         | 補者 | 三浦 義覚 六、六四 | 下沢 秀夫 七、二九 |
|            |    | 水谷 孝 七、〇九  | 内藤 勇 七、六〇  |
| 落選         | 補者 | 幡野 直次 五、九七 | 児島 銀蔵 六、六八 |
|            |    | 鎌田 専治 五、八〇 | 北 幸章 五、五九  |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 川村喜八郎 三、二二 | 境 一雄 五、三〇  |
|            |    | 正元 次作 三、九六 | 岩谷 静衛 三、七三 |
| 落選         | 補者 | 安達徳太郎 三、八五 | 出町初太郎 二、三三 |
|            |    | 篠田 弘作 三、七九 | 林 吉彦 二、〇九  |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 菅 舜英 三、七二  | 当摩 憲三 二、四二 |
|            |    | 三好 竹男 三、五五 | 佐藤 慶吉 九、七六 |
| 落選         | 補者 | 木田 茂晴 三、二八 | 芳賀 栄造 九、六八 |
|            |    | 武内 清 八、五三  | 鈴木 清 八、五三  |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 浦口 鉄男 一、五五 | 宮岸十次郎 九、〇六 |
|            |    | 和泉 盛 一、二五  | 館 俊三 八、四〇  |
| 落選         | 補者 | 橋 富士雄 三、四二 | 徳中 祐満 八、六九 |
|            |    | 山本 市英 三、九八 | 志賀 学而 七、八〇 |
| 当選         | 補者 | 三浦 義覚 六、六四 | 下沢 秀夫 七、二九 |
|            |    | 水谷 孝 七、〇九  | 内藤 勇 七、六〇  |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 幡野 直次 五、九七 | 児島 銀蔵 六、六八 |
|            |    | 鎌田 専治 五、八〇 | 北 幸章 五、五九  |
| 落選         | 補者 | 川村喜八郎 三、二二 | 境 一雄 五、三〇  |
|            |    | 正元 次作 三、九六 | 岩谷 静衛 三、七三 |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 安達徳太郎 三、八五 | 出町初太郎 二、三三 |
|            |    | 篠田 弘作 三、七九 | 林 吉彦 二、〇九  |
| 落選         | 補者 | 菅 舜英 三、七二  | 当摩 憲三 二、四二 |
|            |    | 三好 竹男 三、五五 | 佐藤 慶吉 九、七六 |
| 第一区<br>一四名 | 当落 | 木田 茂晴 三、二八 | 芳賀 栄造 九、六八 |
|            |    | 武内 清 八、五三  | 鈴木 清 八、五三  |



第二十六回総選挙

昭和二十八年四月十九日総選挙が行われた。

| 選挙区<br>定員 | 当落 |     | 候補者   |        |     |       |        |    |
|-----------|----|-----|-------|--------|-----|-------|--------|----|
|           | 氏名 | 得票数 | 政党    | 氏名     | 得票数 | 政党    |        |    |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 小平 忠  | 七四、四六六 | 右社  | 山中日露史 | 五、四四〇  | 左社 |
|           | 落選 |     | 篠田 弘作 | 二六、五三〇 | 自   | 南条 徳男 | 五、九三三  | 共  |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 岡田 春夫 | 七、七三三  | 左社  | 南条 徳男 | 五、九三三  | 共  |
|           | 落選 |     | 渡辺 惣蔵 | 五四、六三三 | 左社  | 柄沢とし子 | 一六、八七七 | 共  |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 渡辺 惣蔵 | 一八、九二〇 | 左社  | 南条 徳男 | 五、九三三  | 共  |
|           | 落選 |     | 手代木隆吉 | 三四、七三七 | 改   | 柄沢とし子 | 一六、八七七 | 共  |

自由党九九、改進黨七六、左社七二、右社六六、分自党三五、労働党五、共産党一、その他一一、計四六六  
 滝川町の有権者数 一万三、六九一、投票率は六五・七一パーセント

第二十七回総選挙

昭和三十年二月二十七日、鳩山内閣のもと

に日ソ国交正常化、再軍備問題を主題に激しい選挙戦を繰りひろげた。開票の結果は次のとおりである。(〔〕内は旧滝川町投票数)

| 選挙区<br>定員 | 当落 |     | 候補者   |        |     |       |       |    |
|-----------|----|-----|-------|--------|-----|-------|-------|----|
|           | 氏名 | 得票数 | 政党    | 氏名     | 得票数 | 政党    |       |    |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 渡辺 惣蔵 | 八六、〇〇六 | 左社  | 岡田 春夫 | 六、四三三 | 労働 |
|           | 落選 |     | 小平 忠  | 六、七四六  | 右社  | 篠田 弘作 | 六、七三三 | 自由 |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 南条 徳男 | 一、〇五五  | 民主  | 南条 徳男 | 一、〇五五 | 自由 |
|           | 落選 |     | 山中日露史 | 五、二六〇  | 左社  | 小名 孝雄 | 一、〇八七 | 自由 |

| 落選    | 氏名     | 得票数 | 政党    | 氏名    | 得票数 | 政党 |
|-------|--------|-----|-------|-------|-----|----|
| 手代木隆吉 | 一、五七〇  | 民主  | 瀬賀 泰夫 | 一、九一八 | 共   |    |
| 若原 譲  | 一四、五三三 | 無   |       |       |     |    |
| 須合武四郎 | 四、七五五  | 無   |       |       |     |    |

民主党二八六、自由党一一二、左派社会党八九、右派社会党六七、その他一四となった。

滝川町の有権者数 一万三、七〇二人、投票者数一万四七二人、投票率七六・四三パーセント

第二十八回総選挙

昭和三十三年四月十八日岸信介内閣は鈴木

茂三郎との話合いで議会解散、五月二十二日総選挙を行った。

| 選挙区<br>定員 | 当落 |     | 候補者   |        |     |       |       |    |
|-----------|----|-----|-------|--------|-----|-------|-------|----|
|           | 氏名 | 得票数 | 政党    | 氏名     | 得票数 | 政党    |       |    |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 篠田 弘作 | 二〇、一四〇 | 自民  | 山中日露史 | 七、三三八 | 社会 |
|           | 落選 |     | 岡田 春夫 | 八、四四六  | 社会  | 小平 忠  | 七、四四六 | 右社 |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 南条 徳男 | 六、〇三三  | 自民  | 南条 徳男 | 六、〇三三 | 社会 |
|           | 落選 |     | 渡辺 惣蔵 | 六、七三三  | 社会  | 小名 孝雄 | 三、九四四 | 無  |
| 第四区<br>五名 | 当選 |     | 南条 徳男 | 九、二五三  | 共産  | 南条 徳男 | 九、二五三 | 共産 |
|           | 落選 |     | 村上 由  | 九、二五三  | 共産  | 小名 孝雄 | 三、九四四 | 無  |

第二十九回総選挙

昭和三十五年十一月二十日総選挙が行われ

たが、さきの昭和三十四年十二月二十九日召集の第三十四回通常国会は安保国会と称され、世相騒然となり三十五年十月池田勇人内閣により議会を解散したものである。

| 選挙区<br>定員 | 当落    | 候補者    |
|-----------|-------|--------|
| 南条 徳男     | 六、六六四 | 内江部乙町分 |
| 氏名        | 三、三三三 | 内江部乙町分 |
| 得票数       | 一、〇五五 | 政党     |
| 得票数       |       | 自前     |

| 第四区   |                                  | 五                       |                                  |
|-------|----------------------------------|-------------------------|----------------------------------|
| 落選    | 当選                               | 落選                      | 当選                               |
| 豊島 俊男 | 岡田 春男<br>渡辺 惣蔵<br>篠田 弘作<br>山中日露史 | 小平 忠<br>豊島 俊男           | 岡田 春男<br>渡辺 惣蔵<br>篠田 弘作<br>山中日露史 |
| 八〇三   | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          | 七、六三三<br>八、〇三三          | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          |
| 七     | 一、五三三<br>三、〇三三                   | 一、五三三<br>三、〇三三          | 一、五三三<br>三、〇三三                   |
| 六     | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四 | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          |
| 共新    | 民社前<br>社自前<br>社自前                | 民社前<br>社自前<br>社自前       | 民社前<br>社自前<br>社自前                |

自民党二九六、社会党一四五、民社党一七、共産党三、その他六、計四六七  
滝川町投票率七一・六六パーセント

第三十回総選挙

昭和三十八年十一月二十一日、物価値上がり  
などを中心に、池田経済政策の是正を問う総選挙が行われた。

各党派の議員数は自民二八三、社会一四四、民社二三、共産五、  
無所属一二、計四六七人

| 第四区   |                                  | 五                                |                                  |
|-------|----------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|
| 落選    | 当選                               | 落選                               | 当選                               |
| 加納 勝美 | 山中日露史<br>南条 徳男<br>渡辺 惣蔵<br>豊島 俊男 | 篠田 弘作<br>小平 忠<br>岡田 春夫<br>南条 徳男  | 山中日露史<br>南条 徳男<br>渡辺 惣蔵<br>豊島 俊男 |
| 二、六一  | 七、三三〇<br>六、〇〇六<br>六、六二四<br>七、八八六 | 九、一五五<br>九、〇一五<br>六、六二四<br>六、〇〇六 | 七、三三〇<br>六、〇〇六<br>六、六二四<br>七、八八六 |
| 充     | 一、三<br>二、八五<br>五、三三              | 三、九八六<br>一、九八<br>一、二〇九<br>三、七    | 一、三<br>二、八五<br>五、三三              |
| 三     | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四          |
| 無新    | 社自前<br>社自前<br>社自前                | 社自前<br>社自前<br>社自前                | 社自前<br>社自前<br>社自前                |

第三十一回総選挙

昭和四十二年一月二十九日の総選挙は政界  
の黒い霧に端を発して国会が解散されたものである。

| 選挙区   |       | 定員    |        | 当落    |       |
|-------|-------|-------|--------|-------|-------|
| 氏名    | 得票    | 内滝川市分 | 内江部乙町分 | 氏名    | 得票    |
| 南条 徳男 | 一〇、五九 | 三、六一  | 一、三〇   | 南条 徳男 | 一〇、五九 |
| 氏名    | 得票    | 内滝川市分 | 内江部乙町分 | 氏名    | 得票    |
| 南条 徳男 | 一〇、五九 | 三、六一  | 一、三〇   | 南条 徳男 | 一〇、五九 |
| 氏名    | 得票    | 内滝川市分 | 内江部乙町分 | 氏名    | 得票    |
| 南条 徳男 | 一〇、五九 | 三、六一  | 一、三〇   | 南条 徳男 | 一〇、五九 |

| 第四区   |                                 | 五                 |                                 |
|-------|---------------------------------|-------------------|---------------------------------|
| 落選    | 当選                              | 落選                | 当選                              |
| 豊島 俊男 | 岡田 春夫<br>篠田 弘作<br>渡辺 惣蔵<br>小平 忠 | 井野 正輝<br>豊島 俊男    | 岡田 春夫<br>篠田 弘作<br>渡辺 惣蔵<br>小平 忠 |
| 六、三三三 | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四         | 七、一〇〇<br>八、〇三三    | 六、三〇六<br>八、一〇六<br>五、〇六四         |
| 六     | 一、〇〇三<br>三、〇三三                  | 一、〇〇三<br>三、〇三三    | 一、〇〇三<br>三、〇三三                  |
| 共産    | 民社前<br>社自前<br>社自前               | 民社前<br>社自前<br>社自前 | 民社前<br>社自前<br>社自前               |

党派別議員数は自民二七七、社会一四〇、民社三〇、公明二五、  
共産五、無所属九となり計四八六人、うち婦人議員は七人であつ  
た。

旧滝川市の有権者数二万三、一四六、投票者一万七、六八六、投票率七六・四  
一パーセント

第三十二回総選挙

昭和四十四年十二月二十七日に総選挙が行  
われた。この選挙で党派別は自民二八八、社会九〇、民社四七、公  
明三一、共産一四、無所属一六となった。

| 第四区   |                         | 五                       |                         |
|-------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| 落選    | 当選                      | 落選                      | 当選                      |
| 岡田 春夫 | 相沢 武彦<br>井野 正輝<br>南条 徳男 | 渡辺 惣蔵<br>井野 正輝<br>南条 徳男 | 岡田 春夫<br>渡辺 惣蔵<br>井野 正輝 |
| 五、三三  | 六、三三三<br>六、三三三<br>六、三三三 | 六、三三三<br>六、三三三<br>六、三三三 | 六、三三三<br>六、三三三<br>六、三三三 |
| 一、〇〇三 | 一、〇〇三<br>一、〇〇三<br>一、〇〇三 | 一、〇〇三<br>一、〇〇三<br>一、〇〇三 | 一、〇〇三<br>一、〇〇三<br>一、〇〇三 |
| 社自    | 社自前<br>社自前<br>社自前       | 社自前<br>社自前<br>社自前       | 社自前<br>社自前<br>社自前       |

|       |        |     |    |
|-------|--------|-----|----|
| 後藤 鉄治 | 二四、八三二 | 三七三 | 共産 |
|-------|--------|-----|----|

旧滝川市の有権者二万六、五四三、投票者数一万七、〇七九、投票率六四・三  
四パーセント

**第三十三回総選挙** 昭和四十七年十二月十日総選挙が執行され

た。

| 選挙区   |                                          | 定員    |          |
|-------|------------------------------------------|-------|----------|
| 第四区   |                                          | 五     |          |
| 落選    | 当選                                       | 当落    | 候補者      |
| 竹田 敵道 | 小渡 忠<br>渡辺 惣蔵<br>篠田 弘作<br>岡田 春夫<br>三枝 三郎 | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 三、五二  | 六、七三<br>六、八三<br>八、三九<br>九、六一<br>一〇、四九    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 三、四七  | 三、七〇<br>五、八六<br>三、三九<br>一、六六             | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 三、一三  | 三、三六<br>三、一三<br>三、四七                     | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 無所属   | 共産<br>民社<br>社会<br>自民<br>自民               | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |

滝川市の有権者数三万二、八九三、投票者数二万四、九八二、投票率七五・九  
五パーセント

自民二七二、社会一一八、共産三八、公明二九、民社一九、諸派  
二、無所属一四の議員構成となった。

**第三十四回総選挙** 昭和五十一年十二月五日執行の衆議院議員

選挙は終戦後初の任期満了による総選挙である。

| 選挙区   |                            | 定員    |          |
|-------|----------------------------|-------|----------|
| 第四区   |                            | 五     |          |
| 落選    | 当選                         | 当落    | 候補者      |
| 小 平 忠 | 氏名 得票                      | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 五、一四  | 三、五二<br>三、一三<br>三、四七       | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 四、三九  | 三、三六<br>三、一三<br>三、四七       | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 民社    | 共産<br>民社<br>社会<br>自民<br>自民 | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |

第三章 選挙

| 第四区   |                         | 五     |          |
|-------|-------------------------|-------|----------|
| 落選    | 当選                      | 当落    | 候補者      |
| 外尾 静子 | 三枝 三郎<br>池端 清一<br>野村 光雄 | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 五、〇五  | 六、八六<br>八、四四<br>八、三九    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 三、九七  | 三、八四<br>三、三九<br>三、三九    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 共産    | 自民<br>公明<br>社会<br>自民    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |

党派別議員数は自民二四九、社会二二三、公明五五、民社二九、  
共産一七、新自由クラブ一七、無所属二一となり、計五一一であ  
る。

滝川市の有権者数三万三、八八六、投票者数二万六、九七七、投票率七九・六  
一パーセント

**第三十五回総選挙** 昭和五十四年十月七日執行の衆議院議員選

挙は大平内閣のもとに議会解散となり行われた。

| 第四区   |                         | 五     |          |
|-------|-------------------------|-------|----------|
| 落選    | 当選                      | 当落    | 候補者      |
| 野村 光雄 | 外尾 静子<br>池端 清一<br>高橋 辰夫 | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 三、〇四  | 七、四四<br>七、〇三<br>七、三六    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 三、〇四  | 三、九二<br>三、三六<br>三、三六    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |
| 公明    | 共産<br>社会<br>自民<br>自民    | 氏名 得票 | 内滝川市分 政党 |

第四区選挙区は空知・胆振・日高支庁にまたがる地域で、選挙区  
内の距離は全国一となる地区であるが、これに併せて各党立候補者  
伯仲して激戦を展開し、開票終了まで当落が判明しない接戦であつ

た。全国的には自民党の伸びなやみに対し共産・民社的大幅増・社会・新自由クラブの減少となった。

党派別議席数自民二四八、社会一〇七、公明五七、共産三九、民社三五、新自四、社民連二、無所属一九、計五一一である。

滝川市の選挙当日有権者数三万五、〇二〇、投票者数二万七、〇四六、投票率七七・二三パーセントであった。

### 第九節 参議院議員選挙

日本国憲法の制定に伴い従来の貴族院に代わって参議院が設けられ、この選挙法は昭和二十二年法律第十一号によって制定公布されて、四月二十日に第一回の選挙が執行された。

参議院議員には全国区から選出されるものと、地方区から選出されるものがある。議員任期は六年であるが第一回目だけは、半数が三年議員となり、三年ごとに半数を改選している。

参議院議員は北海道全域を地方区とするので、この選挙を掲げることにした。

#### 第一回選挙 昭和二十二年四月二十日執行

| 選挙区 | 当落                         |                                  | 候補者                  |                                   |                                  |                   |
|-----|----------------------------|----------------------------------|----------------------|-----------------------------------|----------------------------------|-------------------|
|     | 氏名                         | 得票                               | 氏名                   | 得票                                |                                  |                   |
| 北海道 | 板谷 順助<br>堀末治<br>千葉信<br>加賀操 | 七、〇〇四<br>七、五七七<br>七、五二一<br>七、三三一 | 自由<br>自由<br>社会<br>社会 | 若木 勝蔵<br>木下 源吾<br>三町村 敬貴<br>小林米三郎 | 六、六六一<br>五、三三七<br>五、五五五<br>五、二一七 | 無<br>無<br>社会<br>無 |

| 選挙区 | 当落                                                 | 候補者                                                |                                |
|-----|----------------------------------------------------|----------------------------------------------------|--------------------------------|
| 定員八 | 落選                                                 | 氏名 得票 政党                                           |                                |
|     | 安藤 孝俊<br>中島 武市<br>幡野 直次<br>半田 芳男<br>岡林 歆喜<br>地崎喜太郎 | 三、〇二九<br>三、〇二三<br>三、一四四<br>三、〇〇五<br>三、三九七<br>二、四〇〇 | 社会<br>自由<br>協同<br>無<br>無<br>民主 |
|     | 林 甚之丞<br>三浦 義寛<br>木田 茂晴<br>本間 国雄<br>宮川 寅雄          | 二、〇七五<br>一、九五四<br>一、七四三<br>三、三〇〇<br>一、〇三三          | 自由<br>自由<br>共産<br>無<br>共産      |

#### 第二回選挙 昭和二十五年六月四日執行半数改選

| 選挙区 | 当落                                        | 候補者                                        |                            |
|-----|-------------------------------------------|--------------------------------------------|----------------------------|
| 定員四 | 当選                                        | 氏名 得票 政党                                   |                            |
| 北海道 | 木下 源吾<br>若木 勝蔵<br>松浦 定義                   | 一八、五五四<br>一七、五三三<br>一四、一〇三                 | 社会<br>社会<br>協同             |
| 地方区 | 岩田 留吉<br>小林米三郎<br>松川嘉太郎<br>塚田 庄平<br>杉之原舜一 | 一〇、〇七七<br>九、七〇六<br>六、一五九<br>三、四四三<br>三、二六六 | 自由<br>自由<br>自由<br>自由<br>共産 |
| 補選  | 中保 恭一<br>清水 源作<br>杉本 健<br>長谷 長次<br>高橋 吉男  | 五、四三三<br>三、六三三<br>二、四九二<br>三、一三三<br>七、二〇〇  | 自由<br>無<br>緑<br>無<br>養正    |

#### 第三回選挙 昭和二十八年四月二十日執行

| 選挙区  | 当落                          | 候補者                              |                     |
|------|-----------------------------|----------------------------------|---------------------|
| 定員四名 | 当選                          | 氏名 得票 政党                         |                     |
| 北海道  | 千葉 信<br>北勝太郎<br>堀末治<br>有馬英二 | 三、四一三<br>三、九〇三<br>三、九五四<br>一、九六六 | 左社<br>無<br>自由<br>改進 |
| 地方区  | 岩田 留吉<br>塚田 庄平<br>岩田 誠      | 一、七四一<br>一、四一三<br>一、四一三          | 自由<br>自農<br>無       |
| 補選   | 内滝川町分<br>江部乙町分              | 二、三三三<br>二、四四六                   | 左社<br>無             |

滝川町の有権者数は一万三、六八二で投票率は六三・一三パーセント

第四回選挙

昭和三十一年七月八日執行

| 選挙区    |       | 定員四名 |        | 北海道    |       | 地方区  |        |
|--------|-------|------|--------|--------|-------|------|--------|
| 当落     |       | 落選   |        | 当選     |       | 落選   |        |
| 氏名     | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 | 氏名     | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 |
| 米田 勲   | 三五、〇六 | 二、九八 | 一、〇〇   | 米田 勲   | 一七、〇三 | 一、二三 | 一、三三   |
| 堀末 治   | 二七、〇〇 | 二、〇六 | 一、〇六   | 手代木 隆吉 | 一七、七〇 | 一、三三 | 一、三三   |
| 井川 伊平  | 二六、三〇 | 二、〇四 | 一、〇六   | 村上 由吉  | 一六、〇〇 | 一、二九 | 一、二九   |
| 千葉 信   | 二四、六七 | 一、八六 | 一、〇六   | 橋本 国夫  | 一五、三〇 | 一、二九 | 一、二九   |
| 宮北 三七郎 | 二三、三〇 | 一、五三 | 一、〇六   | 前谷 俊郎  | 一六、八元 | 一、二四 | 一、二四   |
| 藤本 国夫  | 二三、〇三 | 一、五三 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 村上 由一  | 二〇、三六 | 一、三三 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 西田 正一  | 一七、四三 | 一、二五 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 大矢 正隆  | 一六、三三 | 一、〇〇 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 西田 信一  | 一〇、三三 | 一、二七 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 苦米地 英俊 | 一四、八三 | 一、四一 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 自 由 党  |       |      |        | 自 由 党  |       |      |        |
| 社 会 会  |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 社 会 会  |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 共 産 党  |       |      |        | 共 産 党  |       |      |        |
| 無 派    |       |      |        | 無 派    |       |      |        |

滝川町の有権者数一万六、一二八、投票率六四・四一パーセント

第五回選挙

昭和三十四年六月二日執行

| 選挙区    |       | 定員四名 |        | 北海道    |       | 地方区  |        |
|--------|-------|------|--------|--------|-------|------|--------|
| 当落     |       | 落選   |        | 当選     |       | 落選   |        |
| 氏名     | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 | 氏名     | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 |
| 米田 勲   | 三五、〇六 | 二、九八 | 一、〇六   | 米田 勲   | 一七、〇三 | 一、二三 | 一、三三   |
| 堀末 治   | 二七、〇〇 | 二、〇六 | 一、〇六   | 手代木 隆吉 | 一七、七〇 | 一、三三 | 一、三三   |
| 井川 伊平  | 二六、三〇 | 二、〇四 | 一、〇六   | 村上 由吉  | 一六、〇〇 | 一、二九 | 一、二九   |
| 千葉 信   | 二四、六七 | 一、八六 | 一、〇六   | 橋本 国夫  | 一五、三〇 | 一、二九 | 一、二九   |
| 宮北 三七郎 | 二三、三〇 | 一、五三 | 一、〇六   | 前谷 俊郎  | 一六、八元 | 一、二四 | 一、二四   |
| 藤本 国夫  | 二三、〇三 | 一、五三 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 村上 由一  | 二〇、三六 | 一、三三 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 西田 正一  | 一七、四三 | 一、二五 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 大矢 正隆  | 一六、三三 | 一、〇〇 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 西田 信一  | 一〇、三三 | 一、二七 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 苦米地 英俊 | 一四、八三 | 一、四一 | 一、〇六   |        |       |      |        |
| 自 由 党  |       |      |        | 自 由 党  |       |      |        |
| 社 会 会  |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 社 会 会  |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 共 産 党  |       |      |        | 共 産 党  |       |      |        |
| 無 派    |       |      |        | 無 派    |       |      |        |

滝川市の有権者数一万八、七七四、投票率七一・六六パーセント

第六回選挙

昭和三十七年七月一日執行

| 選挙区   |       | 定員四名 |        | 北海道    |       | 地方区  |        |
|-------|-------|------|--------|--------|-------|------|--------|
| 当落    |       | 落選   |        | 当選     |       | 落選   |        |
| 氏名    | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 | 氏名     | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 |
| 大矢 正一 | 一〇、〇三 | 四、〇三 | 一、七〇   | 大矢 正一  | 一〇、〇三 | 一、七〇 | 一、七〇   |
| 小林 篤一 | 一三、三八 | 一、七〇 | 一、七〇   | 吉田 忠三郎 | 一三、〇九 | 一、七〇 | 一、七〇   |
| 西田 信一 | 一〇、三三 | 一、四三 | 一、七〇   | 西田 信一  | 一〇、三三 | 一、四三 | 一、七〇   |
| 岩田 留吉 | 一七、〇六 | 一、四三 | 一、七〇   | 村上 由吉  | 一六、〇〇 | 一、二九 | 一、二九   |
| 前谷 俊郎 | 一四、七四 | 一、二九 | 一、二九   |        |       |      |        |
| 自 由 党 |       |      |        | 自 由 党  |       |      |        |
| 社 会 会 |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 社 会 会 |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 共 産 党 |       |      |        | 共 産 党  |       |      |        |
| 無 派   |       |      |        | 無 派    |       |      |        |

第七回選挙

昭和四十年七月四日執行

| 選挙区   |       | 定員四名 |        | 北海道    |       | 地方区  |        |
|-------|-------|------|--------|--------|-------|------|--------|
| 当落    |       | 落選   |        | 当選     |       | 落選   |        |
| 氏名    | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 | 氏名     | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 |
| 川村 清一 | 四三、三五 | 四、八七 | 一、〇六   | 川村 清一  | 四三、三五 | 四、八七 | 一、〇六   |
| 井川 伊平 | 四〇、八三 | 四、五二 | 一、〇六   | 高橋 雄之助 | 三七、〇七 | 四、五二 | 一、〇六   |
| 竹田 現照 | 三六、六三 | 一、二九 | 一、〇六   | 村上 由一  | 二六、五九 | 一、二九 | 一、〇六   |
| 前谷 俊郎 | 二六、五三 | 一、二九 | 一、〇六   | 藤本 国夫  | 二六、五三 | 一、二九 | 一、〇六   |
| 自 由 党 |       |      |        | 自 由 党  |       |      |        |
| 社 会 会 |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 社 会 会 |       |      |        | 社 会 会  |       |      |        |
| 共 産 党 |       |      |        | 共 産 党  |       |      |        |
| 無 派   |       |      |        | 無 派    |       |      |        |

第八回選挙

昭和四十三年七月七日執行

| 選挙区   |       | 定員四名 |        |
|-------|-------|------|--------|
| 当落    |       | 落選   |        |
| 氏名    | 得票    | 内川町分 | 内江部乙町分 |
| 大矢 正一 | 四三、九六 | 四、三三 | 六、六六   |
| 自 由 党 |       |      |        |
| 社 会 会 |       |      |        |
| 共 産 党 |       |      |        |
| 無 派   |       |      |        |



兵村と番外地といわれた市街地区の勢力があり、江部乙村においても南屯田兵村と北屯田兵村の二大勢力が、村政のうえで対立することがしばしばあったと伝えられる。

滝川地区では市街地の発展に伴い当初半数ずつの議員数を保っていたがこの均衡が破れるようになり、一級二級区分による議員改選に当たっても農村（屯田）対市街との対立は根深く続いていた。

江部乙地区は大正四年一級町村制を施行して村長を選出するにあたり、南から出た、北から出すなどの抗争や各種施設の建設についても北と南の波風が荒く、理事者の決断が鈍る傾向にあったので、近隣の村より早く一級村となりながら、村の整備に立ち遅れが目立ったという話もある。

しかし当時は政党政派を異にするという現代的な感覚を持つものではなかった。

滝川町発展史（大正二年十月刊）に党派的关系について次のように記されている。

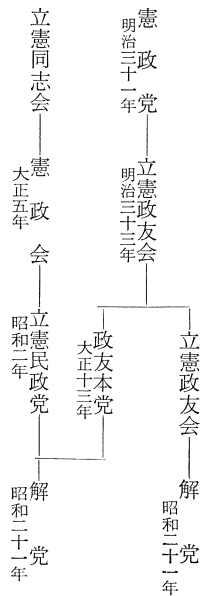
滝川町の党派的关系を見るに大正二年七月立憲同志会の本道遊説に依りて多少の入党者ありたれ共、必ずしも主義政見に依りて去就を決せしと言ふ程大袈裟のものにあらず、唯私交因縁に基きて入党せしに過ぎざるを以て、未だ政党政派としては何等の活動を見ず、故に単に党籍を置くに止まるを以て、軌轍又は競争の弊無し、然れ共今後両政党が本道に羽翼を伸ばし、大に勢力の消長を争ふが如き事あらば、自然に其の影響を受けて、苟も其党籍を有する者は自覚に偏頗し、然らざる者も其何れかの党籍者に加担するに至るべし、竟に斯くの如くんば全町挙げて政争の渦中に投ぜざる可らず、是れ町民の今より警戒せざる可らざる所なり、政党は天下の政党にして立憲治下には存在せざる可らざる一要件たりと雖も、其一方に偏したる党派心を以て之を地方問題に相對すれば恐るべき百弊之より生ず戒めざる可らず、吾曹は立憲国治下の民として、將

亦文明国の民として天下の政党を歓迎す、然れ共天下の政党は即ち天下の大問題を掲げて以て其旗幟を鮮明にす、故に天下の大問題を決定する場合に於ては政黨員たる者須らく自党の主義政見に依りて之を解決せざる可らず、然れども地方問題に至りては天下の大政党の主義政見、綱領、政策と相関連する所極めて薄し、而して地方には地方独特の利害關係あるが故に、政党政派の立場を以て之を左右す可らず、若之を混同して黨員は黨員たるの關係を以て俱に相結び故無く他を排擠するに至りては、其弊害甚に恐るべし、自治団体の平和之より破れ、其精神的基礎為めに危かるべし、政党に籍を有する者の共に相警戒せざる可らざる所なり、吾曹は是迄各地に其弊害の続出するを見たり、滝川町民たる者、方さに前車の覆轍を踏む可らざるなり、次に市街と部落とより成る町村を見るに、其状況の異なるに従い、利害を同うせざる者あるが為めに、予算會議等に於ては部落派と市街派と両々対峙して相争い其弊延いて他の公共問題に及ぶが如き事あるは、実に憂うべき現象なり、滝川町も稍々比傾向ありて世間より難町村の譏りを受けたる事ありしが、自治制施行後各自協同一致は町村發達の必要條件なるを自覚し、近來大に相融和し誠意公共の為め尽力しつ々あるは、寔に賀すべき傾向なりとす。

と結んでいる。

明治三十四年からの道会に続いて明治三十六年三月から北海道における衆議院議員選挙が始まり、政党的な動きをみせることになったが、前述にある立憲同志会に対する憲政党が二大政党であった。

大正末期から昭和にかけては政友会・民政党の争が激烈をきわめ昭和初期から出現してきた無産政党が活躍し出し、衆議院議員の選挙ごとに活発な動きをみせていた。



このころから左翼運動に対する官憲の弾圧は厳しさを加えてきた。昭和六年九月十八日満洲事変がぼつ発して以来、軍国主義が濃くなり血盟団事件、五・一五事件、二・二六事件と血なまぐさい事件が起き、戦争が拡大するにしがたって政党はあってもないと同様な状態で政治はすべて軍部に握られたのである。

## 2 戦後の政党と道内の動き

昭和二十年の敗戦により軍部が解体し、世は自由民主主義を謳歌する時代を迎えた。

いち早く政党結成に活発な動きをみせ、日本自由党、日本進歩党、日本協同党、日本社会党、日本共産党、日本農民党など多くの政党ができて総選挙にのぞむようになった。

北海道内でも同様に各党の道支部結成が次々とでき、国会にまた道会にと代表を送り込む展開がみられた。以下戦後における道内各党の動きをみると次のとおりである。

まず**日本社会党**の結成状況であるが、戦後間もなく旧無産党各派の人々の動きで渡辺惣蔵・木下源吾・木田茂晴を長老格として中央の単一社会主義政党結成に呼応して全道的に準備が進められた。

昭和二十年十月、入獄共産党員が釈放されると木田茂晴とその一派は共産党再建として分れたが、同年十一月二日中央の日本社会党結成に合せて同年十二月一日に道内市に次々と党支部結成準備会を持ち、昭和二十年十二月五日札幌市で道支部連合会の結成大会が開

かれ正式に発足した。

その後、党勢の拡張をはかり労組を基盤とした組織の拡大で政治的問題の解決に積極的な運動を展開するようになった。

昭和二十一年一月の道民の食糧問題などは各党と共同で運動する動きも見られたが、二十二年四月の知事公選では田中敏文知事を道政に送り込み、道議でも第一党の革新的指導体制を作りあげた。

次に**日本自由党道支部**の動きであるが、社会党支部と同様に政党結成に乗り出し昭和二十年十二月十七日に支部結成を行っている。

その後、健全な動きを見せ道議選では序々に議席を伸ばし、中央と同じく純野党として存在し社会党と敢然と対立する立場となった。

そして**日本民主党道支部**であるが、この党の経歴は政治同盟から進歩党となり民主党となったものである。昭和二十一年四月の総選挙は進歩党の存在は小さいものであったが、道政治同盟では地崎宇三郎・椎熊三郎を出して道内政党としてはその存在をみせた。しかしこの二人は進歩党に入り政治同盟が解消することになったので進歩党支部の結成をみるようになった。その後民主党として再編されたのである。

昭和二十二年のその総選挙で道議会へ一四議席を確保して第二党となつている。

現在の自由民主党は前記自由党と民主党が昭和三十年十一月十五日に結党したものである。

次に**国民協同道支部**であるが、この党も当初は日本協同党から協同民主党へ、そして国民協同党と離合集散して昭和二十年十二月

二十八日道支部の結成をみた。

この党は農民代表の唯一の党として二十一年四月の総選挙では道内第一党であったが、二十二年四月の選挙では後出農民党の進出により退勢となった。

そして日本農民党道支部については、上川・空知方面の農民団体を基盤に昭和二十二年二月十五日道支部の結成をみて、反共産政党ではあるが戦術は共産的といわれるほどの戦闘的な面があった。

二十二年四月に衆院へ三名を送り、道議にも一一議席を農民の立場で政治に批判を行う活躍をみせた。農民代表の国民協同党とは同じ農民の立場でも感情的な対立傾向もみられた。

次に日本共産党であるが、昭和二十年十月七日釈放された山名実、村上由、武内武、広谷俊二らが中心となり、同年十一月十一日党再建準備会を作り十二月十五日徳田書記長を迎えて地方委員会を結成した。昭和二十一年四月の選挙では柄沢とし子を衆議院議員に当選させるほどの結成組織をみせたが、しだいに人気の落ちる傾向にあり昭和二十二年四月の選挙では国会へ一人の当選者もなくなった。得票数も最下位の状況であった。

しかし党としては選挙結果にのみ固執せず、党勢の大衆への浸潤を期して進む動きを見せ始めた。

### 3 滝川の各党支部の動き

滝川町においても同様な動きがあり、個々の沿革については後述のとおりであるが、政党協会等の結成に当たっては、届出をするこ

とになり、昭和二十一年年度の町事務報告には次のとおり記載されている。

政党協会其の他の団体の結成の禁止等について  
連合国総司令部発日本帝国政府宛昭和二十一年一月四日附覚書  
「或種ノ政党政治的結社協会及其ノ他団体ノ廃止ノ件」に基き「政党協会其ノ他ノ団体ノ結成ノ禁止等」に関する勅令第一号が發布せられ、この勅令の規定するところにより届出をなした政党並に団体の数及其の構成は次のとおりである。(昭和二十一年十二月三十一日現在)

| 出 名                         | 届 団 体           | 届 出 年 月 日 | の 数     |         | 変 更 届 出 回 数 | 変 更 届 出 内 訳 |     |
|-----------------------------|-----------------|-----------|---------|---------|-------------|-------------|-----|
|                             |                 |           | 届 出 時 数 | 届 出 員 数 |             | 新 任         | 解 任 |
| 日本社会党<br>滝川地方支部             | S 21<br>6<br>28 | 4<br>30   | 9       | 14      | 2           | 7           | 18  |
| 日本共産党<br>滝川地区委員会<br>青年思想懇談会 | S 21<br>5<br>13 | 5<br>13   | 10      | 173     | 4           | 11          | 116 |
|                             |                 |           | 1       | 4       | 0           | 0           | 27  |
|                             |                 |           |         |         |             |             | 5   |
|                             |                 |           |         |         |             |             | 13  |
|                             |                 |           |         |         |             |             | 3   |
|                             |                 |           |         |         |             |             | 27  |

注 青年思想懇談会は昭和二十一年八月二十二日附通牒により届出を要しないこととなる。  
昭和二十三年以降二十六年までの記録では次のとおりである。

| 名 称          | 事 務 所      | 構 成 員 数 |     |     |     |
|--------------|------------|---------|-----|-----|-----|
|              |            | 二三年     | 二四年 | 二五年 | 二六年 |
| 日本社会党滝川支部    | 西裡 太田信吉方   | 一三一     | 一三一 | 一五  | 一二  |
| 同 滝川化学支部     | 滝の川西一丁目滝泉台 | 一三五     | 四七  | 四五  | 四一  |
| 日本共産党滝川地区委員会 | 明神通北二丁目    | 三四八     | 四五四 | 四四  | 四一  |
| 同 滝川居住細胞     | 同 右        | 一六      | 一〇  | 一〇  | 一〇  |
| 同 滝川化学細胞     | 滝の川西一丁目    | 一八      | 一八  | 一〇  | 一〇  |
| 滝川化学民主連盟     | 滝の川西一丁目滝泉台 | 七四      | 七三  | 一八  | 一六  |



した。

昭和四十八年一月二十四日第二十八回定期大会では「議会制民主主義の確立」「列島改造の計画化」を運動方針とした。中国との国交正常化の動きに対し、親台湾・親韓国系の若手タカ派議員による「青嵐会」が組織され、立党の精神への復帰を強調して田中内閣の退陣を要求した。日中航空協定交渉、政治姿勢、国会運営で党執行部を突き上げ、三木・福田が閣僚を辞任し、三木は総裁選のあり方や政治資金の取扱い方などを問題とした。

昭和四十九年十二月三木総裁が誕生し、新政権は一応孝党体制でスタートしたが、反面田中・大平の会合が復活した。昭和五十年七月に若手中堅による反主流「党改革を進める会」が結成された。

昭和五十一年一月二十一日の党定期大会では少数派三木体制の指導力不足に揺さぶりの政権抗争に終始、二月の米国ロッキード事件解明に反三木が強くなり、六月には六人が離党して「新自由クラブ」を結成、十二月二十三日三木に変わって福田赳夫が総裁・首相となった。昭和五十二年四月二十五日党改革躍進総決起大会を開き、党則を改正し総裁選は全党員による予備選挙で総裁候補二人にしぼり、国会議員で本選挙を行うという二段階方式とした。

昭和五十三年十一月一日告示により総裁選に福田・大平・中曽根・河本の四氏が立候補して、一五〇万の党员・党友を有権者とすする予備選には一位大平、二位福田、三位中曽根、四位河本の順となり、一位・二位の決戦投票に際し同年十二月一日福田が辞退して大平総裁が誕生したのである。

滝川支部においては昭和三十四年の統一地方選挙に道議に神部俊郎、市長に佐久間貞江を当選させ、同年七月の定期支部大会で新しい役員を選出して支部長に神部俊郎を指名してこの体制が続いた。定期支部大会は毎年実施しているが役員改選は二年ごとになっており、昭和四十六年度からの支部長は芥川裕司、昭和五十一年度からは三浦光正が選出されて、支部活動を行ってきたが、昭和五十五年二月二十八日の定期大会で田中君太郎が選出された。

この間、昭和四十六年四月の市長選挙に吉岡清栄を推して当選させた。昭和四十七年四月五日自由民主党滝川支部規約を大きく改正し、従来の政務調査会、総務会ほか各部を改め、総務会、政務調査会のほかに財務委員会、組織委員会、広報委員会、青年部、婦人部、党規委員会をおき、支部の各機関を密とする支部役員会及び専門部門を担当する特別委員会を設けることができるようにした。

昭和五十年四月に道議に寺崎政朝、市長に吉岡清栄を推して当選させて今日に至っている。

支部の活動方針としては統一地方選挙、衆参院議員選挙に当たり党候補の必勝体制確立のため党员の拡大をはかり、登録党员の目標を一、〇〇〇人とした新体制をはかることにある。

また、党の組織拡大及び体質改善をはかるため、青年部では昭和五十二年二月に自民党中空知連合支部青年部を結成した。これは中空知五市四町の一八歳以上三五歳までを対象とする会員一五〇名をもって組織し、事務局は自民党滝川支部内に置いた。部長には三浦晃裕(滝川)、幹事長柳川輝雄(上砂川)、事務局長山内康裕(滝川)が当た

っている。

なお、昭和五十五年二月の第二四回定期大会支部決議は次のとおりである。

決 議

一 われわれは、責任政党として流動する社会情勢に対応し、豊かな市民生活の確立に邁進すると共に、堂垣内道政、吉岡市政の強力な推進と参議院選挙の必勝を期する。

一 われわれは、魅力ある党へ脱皮するため組織の刷新と近代化を一層合理化し使命感に徹して活動する党員づくりの実現を期する。

右 決議する。

歴代支部長 (歴 代) 幹事長

| 就任年度 | 歴 代       | 幹事長    | 就任年度                |
|------|-----------|--------|---------------------|
| 初代   | 佐久間 貞 江   | 昭和三〇年度 |                     |
| 二代   | 神 部 俊 郎   | 同 三三年度 |                     |
| 三代   | 芥 川 裕 司   | 同 四六年度 | 二代 越 沢 三 郎 昭和三〇年度   |
| 四代   | 三 浦 光 正   | 同 五一年度 | 三代 中 島 正 雄 同 三一年度   |
| 五代   | 田 中 君 太 郎 | 同 五五年度 | 四代 米 倉 定 次 郎 同 三三年度 |
|      |           |        | 五代 篠 内 詰 夫 同 三三年度   |
|      |           |        | 六代 吉 田 儀 作 同 三三年度   |
|      |           |        | 七代 東 金 次 郎 同 三六年度   |
|      |           |        | 八代 田 中 君 太 郎 同 四二年度 |
|      |           |        | 九代 福 島 隆 治 同 四六年度   |
|      |           |        | 十代 猪 股 栄 三 同 五一年度   |
|      |           |        | 十一代 田 端 真 佳 同 五五年度  |

日本社会党滝川総支部

昭和二十年十月に西裡(現有明町)の太田信

吉・新十津川町の荒哲夫が中心となり、奈井江以北の北空知を区域とする日本社会党地方支部を結成し、道支部結成に先がけた動きを見せ、道連結成に重きをなしたのである。

翌二十一年支部の編成変えて滝川・新十津川・江部乙地区を支部

範囲とする滝川地区支部となり、北空知支部連絡協議会を滝川に置いて太田信吉が支部協議会議長となった。

事務所はともに太田の自宅に置き、選挙対策一本槍的な運営を行い、大きな職場にも組織化をはかり滝川化学・東洋高圧などに支部結成があった。

昭和二十二年の総選挙で道知事には党として田中敏文を送り出し、無事当選させて革新王国が続くことになった。当時の道連委員長渡辺惣蔵の鼻息は天をつくほどであったとともに、滝川地区支部も党勢に活気を帯びたものである。

同年七月支部大会を開催して結党宣言を発表した。この内容は①敗北より新生へ②苦しい生活を見よ③祖国建設者④親愛なる町民諸君、を掲げ、結党決議は「我等党員一致団結名利を越えて新日本建設、新滝川の発展に挺身することを誓う」というものである。

昭和二十一年四月末日現在の団体届出は支部組織が役員九人、構成員一四名。同年末現在では役員三名、構成員二七名となっている。

昭和二十三年の届出では支部一三一名、滝川化学一三五名、二十四年は滝川化学の閉鎖が確定し、構成員も急減して四〇人代となった。

二十五年以降は中央分裂に伴って支部にも影響したのか活動も不活発になり構成員も一〇名代となり、さらに二十七年には滝川化学の倒産によって化学支部は解散となり、加えて二十八年には党組織に尽力した太田信吉の死亡により支部は自然消滅的なものとなった。

太田は昭和五年と九年に町議に当選しているが、戦後は熱心な革新運動に入り衆議連続三回と初期町長選にも立候補したが、いずれ

も落選している。道酪連会長、農業調整中央審議委員、滝川農協組合長などを勤め、農業技術、農業行政に長じており、その力を中央で発揮させたかったという人もいたとかであるが、実現がかなわず党運動に没入していたが病のため五三歳の働き盛りで没した。

この後、党支部再建に奔走したのが米山三郎・大和田実を中心とした人々で指導層の世代交替に当たると。

昭和二十九年十月渡辺惣蔵・荒哲夫の出席のもとに組織拡大をほかり労働組合と懇談会をもち、十一月十四日衆院副議長原彪を迎えて地区支部結成記念講演会を町役場会議室で開催、立錐の余地もない盛会をみて党支部の再出発となった。

米山三郎は昭和二十九年から通算八期一七年間にわたり支部長をつとめ、その間町・市議四期一六年間市政の推進に努め副議長にもついている。三十八年の道議選に挑んだが落選、その後市議に立候補して落選後は党を離れる結果となった。

昭和三十四年の総選挙では市議に支部推せん者が八名の当選を出し、ほかに党友一名を加え九名による新政会を組織して住民の生活と権利を守る党活動の中心的存在となり市議会対策を進めることになった。また従来少数精鋭主義であったが黨員拡張と構造改革に努めることにした。昭和三十九年三月支部名称を「日本社会党滝川総支部」と改称した。

社会党にとって「強大な党組織の建設」は命題で、戦後の二大政変時代から多党化時代となり、「政権担当に耐え得る党建設」を目標として具体的な取組みを進めているが、実効が上がっていないと

いうのが現実である。

昭和三十四年四月の総選挙では革新王国といわれた知事も町村金五の当選により崩れ、滝川においては道議・市長選でいずれも措施の結果である。

このため党友・黨員の拡大をはかり、また全国一〇〇万人党建設運動に沿って三けた代の黨員を目指している。党活動の基軸である機関紙「社会新報」の購読拡大運動に努め、また昭和四十九年十二月「滝川市民新聞」を発行した。五十一年五月社会新報一、〇〇〇部突破記念「新報まつり」を実施している。

支部の結束強化については歴代役員が努力しているが、米山支部長の次には大和田実が当たった。大和田は樺太引揚後電報電話局に勤務し、初期のころ才能をかわれて北空知支部長に推された。三十年に入党して三十一年から書記長九期・総支部長六期をつとめた。その間、町・市議三期で活躍して道議選に二度挑んだが惜敗、その後、体を害し五十三年第一線から退き支部顧問となった。

結党以来、党支部事務所は個人宅、市議員団控室、地区労事務所と移り、昭和四十八年四月に栄町二丁目三番一号に開設している。

また、書記長の専従体制をとるなど党活動の強化をはかっておりさらに昭和五十一年二月「日本婦人会議滝川支部」を結成して、婦人層の活発な動きの助長をはかっている。

#### 歴代役員

##### 支部長

初代 太田 信吉

二代 太田 信吉

##### 書記(年度)

初代 荒 哲夫(二〇〜二一)

二代 金子 一男(二二〜二六)

|     |      |     |              |
|-----|------|-----|--------------|
| 三代  | 米山三郎 | 三代  | 金内郷児(二九〇三〇)  |
| 四代  | 森秀一  | 四代  | 大和田実(三一〇三三)  |
| 五代  | 米山三郎 | 五代  | 大和田実(三四〇三九)  |
| 六代  | 大和田実 | 六代  | 佐々木善治(四〇〇四二) |
| 七代  | 大和田実 | 七代  | 佐々木善治(四三〇四四) |
| 八代  | 草沢薫  | 八代  | 深田義勝(四五)     |
| 九代  | 草沢薫  | 九代  | 太田豊(四六〇四九)   |
| 十代  | 大和田実 | 十代  | 土田好晴(五〇)     |
| 十一代 | 太田豊  | 十一代 | 遠藤敏文(五一)     |
| 十二代 | 草沢薫  | 十二代 | 遠藤敏文(五二)     |
| 十三代 | 千葉武幸 | 十三代 | 太田豊(五三)      |
| 十四代 | 太田豊  | 十四代 | 川口松男(五四)     |

日本婦人会議滝川支部長

初代 菅 夕起子(五一・二年) 二代 高野百合子(五三年現在)

△支部結成十五年の乗・結党三十年のしおり・町事務報告▽

民社党滝川総支部 昭和三十四年十一月三十日、中央では社会

党から分離した「再建同志会(社会クラブ)」と「民社新党全国準備会(民社クラブ)」を一本化する民主主義新党準備会が結成され、翌三十五年一月二十四日結党大会で「民主社会党」を正式に決め、議会制民主主義を守り、働くすべての国民の党として邁進することを宣言した。

北海道においては昭和三十五年四月十日道連結成大会を行い、執行委員長に小平忠を選び、活発な活動を展開し滝川地区においては農村を中心にした民社党滝川支部が結成された。

支部の活動は選挙を主体とした活動で、党としての日常活動の実績はあさく、したがって小平党ともいわれた所以でもあろうが、北海道ただ一人の民社党衆議院議員小平忠を三十有余年にわたって支

えてきた功績はおおいに評価されるものといえる。

江部乙地区においては昭和三十八年四月の町議会議員選挙に曾我部秋好、吉岡重信、昭和四十二年四月の同選挙には両名のほか松ヶ平五作が民社党として立候補当選している。

しかし時代の流れとともに党員の減少を招き支部の自然消滅となつてしまった。

その後、民社党を中心とした中道路線の是々非々の政治を行う民社党の政治行動に、地方においてもその行動を望む動きもあり、昭和五十一年の衆議院議員選挙を機会に滝川地区において、地区同盟が先頭にたつて農村、商工の同志をもって民社党滝川総支部を結成することになり、昭和五十一年八月二日正式に再出発した。

昭和五十四年四月の市議選に由良寅三を推して当選させた。

綱領及び重点目標等は次のとおりである。

1 社民党は民主主義社会の原理に基づいて、新社会を建設しようとする人々の政治的結合体であり、労働者、農業、林業、漁業者、中小小工業者、技術者および管理者、自由職業者など広汎な国民勤労者の政党である。従って党は議会の内外にわたる日常活動を通じて、国民大衆の利益を守り、わが党政権の政治的組織的基礎を確立する。

2 民社党は党内民主主義の原則に基づいて、秩序ある行動と、円滑な運営を期する。党員はその出身の如何を問わず平等の権利と義務を持ち、党各級機関の討議に参加し、綱領と規約を守って、党の発展に努力しなければならない。

3 民社党は党綱領のもとに、この規約に基づいて、党を運営する。党の機関は決議機関、執行機関ならびに統制機関に分ける。

活動目標については次のとおりである。

1 民社党理念を一般大衆にひろめ、理解させ民主主義の推進をはかる。



いて「互いに信義を守り、今後、政治的態度の問題を含めて一切、双方間のひぼう中傷は行わない」ことで一〇年間の協定締結にあったが、党として共産党寄りに疑義が集まり事実上の協定破棄・反共路線を打出した。

五十三年一月の党大会では中道革新連合政権の道を示し、また、自民を含めた学者等幅広い参加による「八十年代基本問題研究会」の設置を提唱し、「自衛隊の存在は既定の事実であり、どう扱うかの決着を放置しておくべきでない」との発言が注目された。

昭和五十一年十二月の衆議選では五五議席、五十四年十月の衆議選では五七議席と安定着実な議席の確保により、野党の第二党に躍進している。

中央の動きについては前述のとおりであるが、滝川市における動きについては当初創価学会の方針に基づき昭和三十八年四月の市議選に若冠二五歳の鈴木信彦が立候補して三位当選となった。

昭和四十二年四月にも三位再選となり支持層の厚さを物語っているが、次の四十六年四月の市議選には松山哲男が出馬して同じく三位当選となった。五十年には二名当選、五十四年には一名当選である。

昭和四十五年六月に公明党では政教分離を打出した関係から、地方での公明党支部結成が行われ、滝川支部は同年十一月十七日に結成され、事務所は支部長宅に置かれている。党員数当初三六名、現在六二名となっている。

公明党綱領

一 わが党は、人間性尊重の中道主義を貫く国民党として、革新の意欲と実践をもって、大衆と共に前進する。

一 わが党は、人間性社会主義に基づき、責任ある自由な経済活動とその成果の公正な配分を保障する経済体制を確立し、社会の繁栄と個人の幸福をとるに実現する福祉社会の建設をめざす。

一 わが党は、すべての民族が地球人であるとの自覚に立ち、平等互恵、内政不干渉の原則により、自主平和外交を推進して、人類永遠の平和と繁栄をめざす。

一 わが党は、日本国憲法をまもり、生命の尊厳と自由と平等を基調として、信教・結社・表現の自由など、基本的人権の実現をめざし、一切の暴力主義を否定し、議会制民主主義の確立を期す。

滝川支部長

就 任

初代 松山 哲男 昭和翌・三・一〜現在

日本共産党滝川市委員会 昭和二十一年五月十三日日本共産党滝川地区委員会として団体届出をした。戦後の世相混乱時にいち早く結束をみせ、同年四月に届出をした社会党滝川地方支部を上回る構成員で、一七三人を数え昭和二十一年末には二六二人となり、二十三年には三四八人となり、事務所は明神通北二丁目（現明神町二丁目五番）に置かれた。

昭和二十四年に地域・職場単位の動きとなり地区委員会は四五人滝川居住細胞一六人と滝川化学細胞一八人の小単位となった。

その後、昭和二十七年には滝川化学の倒産があり、滝川地区の共産党活動も停滞状態が続いた。しかし江部乙地区では昭和三十年の町議選に岩橋恒男を当選させ、以来連続町議選四回、合併後の市議にも当選させる支持を得ている。

党中央においては昭和三十年代前半に日共内部で理論不統一があ

ったものの、昭和三十四年の参議選以来着実に議席を伸ばし、昭和三十六年党綱領を確立させ、その重点目標とするところは

- 1 日米軍事同盟と手をきり、日本の中立をはかる。
- 2 大資本中心の政治を打破し、国民のいのちとくらしを守る。
- 3 軍国主義の全面復活、強化に反対し、議会の民主的運営と民主主義の確立をめざす。

をかかげ、党員拡大、アカハタ読者の拡大活動を進め、社会党との対立を強めた。

党活動の強い動きを見せていなかった滝川地域にも昭和四十年四月中空知を区域として空知地区中部群委員会が結成され、四十二年四月の滝川市議会議員に富沢和雄を当選させた。この年まで滝川居住細胞として活動していた組織を改組して滝川市委員会を結成し、日共党運動も一段と活発になり今日に至るが、昭和四十八年岩橋恒男病死後、昭和五十四年の市議選に岡田定之を出馬させ、富沢と二名の議席を確保している。

党中央の運動に沿って当面の緊急課題として次を掲げている。

- 1 増税、高物価、福祉切りすて反対
- 2 疑獄追及、不正腐敗の掃
- 3 行政機構の民主的改革
- 4 小選挙区制反対
- 5 日米共同演習反対

△一九八〇年三月党大会決定▽

歴代委員長 就任年度 歴代副委員長

|    |      |       |       |
|----|------|-------|-------|
| 初代 | 富沢和雄 | 昭和四二年 |       |
| 二代 | 平山嘉明 | 同 四五年 | 富沢 和雄 |
| 三代 | 谷 建夫 | 同 四八年 | 富沢 和雄 |

|    |      |       |       |
|----|------|-------|-------|
| 四代 | 岩城義人 | 同 五〇年 | 富沢 和雄 |
| 五代 | 土田政巳 | 同 五二年 | 富沢 和雄 |

政策委員長岡田定之  
労働組合部長伊藤勝男  
自治体住民部長岡田定之  
労働組合部長伊藤勝男